

平成 28 年度

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 修士論文

女子バスケットボール・トップリークの  
価値向上のための事例研究：  
スポーツにおける CSR に着目して

学籍番号 4115013

氏名 菅野 春菜

論文指導教員 小笠原 悦子

合格年月日 平成 29 年 2 月 20 日

論文審査員 主査 工藤 康宏

副査 中森 誠

副査 小笠原悦子

## 目次

第1章 緒言 .....	1
第1節 研究の背景 .....	1
第2節 研究の必要性 .....	1
第3節 研究の目的 .....	3
第4節 用語の定義 .....	3
第1項 CSR .....	3
第2項 企業スポーツ .....	4
第2章 先行研究 .....	5
第1節 CSR とは .....	5
第2節 企業スポーツについて .....	9
第3節 スポーツにおける CSR .....	10
第4節 日本のバスケットボール界について .....	12
第1項 日本におけるバスケットボールの存在 .....	12
第2項 Bリーグの誕生まで .....	14
第3項 日本の女子バスケットボール (WJBL) .....	16
第5節 リサーチクエスチョン .....	23
第3章 研究方法 .....	24
第1節 調査方法 .....	24
第1項 調査対象 .....	24
第2項 調査期間 .....	24
第3項 データの収集方法 .....	24
第4項 分析方法 .....	25
第4章 結果 .....	27
第1節 WJBL におけるスポーツの社会的責任 .....	27
第2節 WJBL 所属チームにおけるスポーツの社会的責任 .....	28
第1項 JX-ENEOS サンフラワーズ .....	28
第2項 富士通レッドウェーブ .....	29
第3項 シャンソン化粧品 シャンソン V マジック .....	30
第4項 デンソーアイリス .....	31
第5項 トヨタ自動車 アンテロープス .....	32
第6項 トヨタ紡織 サンシャインラビッツ .....	33
第7項 三菱電機 コアラーズ .....	34
第8項 アイシン・エイ・ダブリュウイングス .....	35
第9項 羽田ヴィッキーズ .....	36

第 10 項	日立ハイテククーガーズ	37
第 11 項	新潟アルビレックス BB ラビッツ	38
第 12 項	山梨クィーンビーズ	39
第 3 節	WJBL 所属チームの親企業	40
第 1 項	JX ホールディングス株式会社	40
第 2 項	富士通株式会社	40
第 3 項	株式会社シャンソン化粧品	41
第 4 項	株式会社デンソー	42
第 5 項	トヨタ自動車株式会社	42
第 6 項	トヨタ紡織株式会社	43
第 7 項	三菱電機株式会社	43
第 5 章	考察	45
第 1 節	WJBL、WJBL 所属チーム、WJBL 所属チームを保有する親企業の CSR の 特徴はどのようなものか	45
第 1 項	WJBL の CSR の特徴	45
第 2 項	WJBL 所属チームの CSR の特徴	45
第 3 項	WJBL 所属チームを保有する親企業の CSR の特徴	46
第 2 節	WJBL、WJBL 所属チーム、WJBL 所属チームを保有する企業という 3 者の 関係性はどのようなものか	46
第 1 項	WJBL と WJBL 所属チームとの関係性	46
第 2 項	WJBL と WJBL 所属チームの親企業との関係性	47
第 3 項	WJBL 所属チームとそのチームを保有する親企業との関係性	47
第 6 章	結論	48
第 1 節	研究の概要	48
第 2 節	研究の限界	48
第 1 項	データの抽出と理論付置の方法	48
第 2 項	データの抽出範囲	49
第 3 節	今後の課題	49
第 1 項	ウェブサイトの評価	49
第 2 項	図としての結果表示	49
第 3 項	概念モデルの妥当性の検討	50
第 4 項	質的研究の必要性	50
引用・参考文献一覧		51
Abstract		59
謝辞		60
添付資料 1	WJBL 所属 12 チームの「パフォーマンス的責任」に関するデータの抽出内容	

の詳細 .....	61
添付資料 2 : WJBL 所属 12 チームの「強化的責任」に関するデータの抽出内容の詳細 .	64
添付資料 3 : WJBL 所属 12 チームの「ファンサービシク責任」に関するデータの抽出内容の 詳細 .....	68
添付資料 4 : WJBL 所属 12 チームの「スポーツパーソナシク責任」、「チキム統治的 責任」に関するデータの抽出内容の詳細.....	68
添付資料 5 : 山梨クイーンビキーズの「スポーツパーソナシク責任」、「チキム統治的責任」 に関するデータの抽出内容の詳細.....	90
添付資料 6 : WJBL 所属 12 チームの「地域貢献的責任」に関するデータの抽出内容の詳細 .....	92

## 図・表リスト

図 1. Sustainability: Economic, Cultural and Social Capital. ....	2
図 2. 企業の社会的責任の概念モデル .....	5
図 3. TIMETABLE OF LEAGUE LEVEL CSR ACTIVITIES.....	10
図 4. プロスポーツにおける社会的責任の概念モデル.....	11
図 5. 日本トップリーグの歴史.....	13
図 6. bj リーグのチーム数の推移.....	14
図 7. 日本リーグ（1部、2部）の形態および所属チームの変遷 .....	20
図 8. W リーグの形態および所属チームの変遷.....	21
図 9. WJBL 所属チーム拠点.....	22
図 10. 2016-2017 シーズン試合開催地 .....	22
図 11. WJBL におけるスポーツの社会的責任 .....	27
図 12. JX-ENEOS サンフラワーズにおけるスポーツの社会的責任 .....	28
図 13. 富士通レッドウェーブにおけるスポーツの社会的責任.....	29
図 14. シャンソン化粧品シャンソン V マジックにおけるスポーツの社会的責任 ..	30
図 15. デンソーアイリスにおけるスポーツの社会的責任 .....	31
図 16. トヨタ自動車アンテロープスにおけるスポーツの社会的責任.....	32
図 17. トヨタ紡織サンシャインラビッツにおけるスポーツの社会的責任.....	33
図 18. 三菱電機コアラーズにおけるスポーツの社会的責任.....	34
図 19. アイシン・エイ・ダブリュウイングスにおけるスポーツの社会的責任.....	35
図 20. 羽田ヴィッキーズにおけるスポーツの社会的責任 .....	36
図 21. 日立ハイテッククーガーズにおけるスポーツの社会的責任.....	37
図 22. 新潟アルビレックス BB ラビッツにおけるスポーツの社会的責任.....	38
図 23. 山梨クィーンビーズにおけるスポーツの社会的責任.....	39
図 24. JX ホールディングスにおける社会的責任.....	40
図 25. 富士通株式会社における社会的責任 .....	41
図 26. 株式会社シャンソン化粧品における社会的責任.....	41
図 27. 株式会社デンソーにおける社会的責任.....	42
図 28. トヨタ自動車株式会社における社会的責任.....	42
図 29. トヨタ紡織株式会社における社会的責任 .....	43
図 30. 三菱電機株式会社における社会的責任.....	43
図 31. アイシン・エイ・ダブリュ株式会社における社会的責任.....	44
図 32. 株式会社日立ハイテクノロジーズにおける社会的責任 .....	44

表 1. Selected theoretical papers on CSR.....	7
表 2. NBL の所属チーム一覧 (2014-2015 シーズン) .....	15
表 3. WJBL の所属チーム一覧 (2016-2017 シーズン) .....	17
表 4. WJBL 所属チームを保有する親企業の概要 .....	18
表 5. 調査対象とする WJBL 所属の 12 チームと WJBL 所属チームの親企業 9 社	24
表 6. WJBL 所属チームのデータを理論に付置させる際の項目とその詳細 .....	26

## 第1章 緒言

### 第1節 研究の背景

2016年夏、リオデジャネイロで行われたオリンピックにおいて日本は史上最多の41個となるメダルを獲得した。そうした中で、メダル獲得こそならなかったものの大躍進を遂げた種目が、女子バスケットボールである。アジア王者として3大会振りにオリンピックの舞台に立った女子日本代表は、予選リーグで格上の相手に奮闘し20年ぶりの決勝トーナメント進出を果たした。結果は、大会6連覇を狙うアメリカに敗れベスト8に終わったものの、体格の小さい日本にとっては、豊富な運動量と速いパス回しで強豪に勝てるスタイルを、世界に印象付ける大会となった<sup>38) 118) 119)</sup>。

日本において、バスケットボール競技者は2015年度で約64万人に上り<sup>72)</sup>、義務教育でもカリキュラムに取り入れられるなど<sup>64) 65)</sup>、馴染みのあるスポーツであるが、本年に誕生した国内の新たな男子リーグによって、今後は観戦型スポーツとして更なる発展が期待されている。一方、今回のオリンピックで目覚ましい活躍を見せた日本女子代表選手たちを抱える国内トップリーグのバスケットボール女子日本リーグ（以下：WJBL）はこれまで通り企業クラブをリーグの中心に置いている。企業の大きな経済力に支えられてきたこのリーグの果たす役割は大きい。

企業スポーツは、企業の福利厚生・労務管理施策であると同時にわが国のトップスポーツを支えてきた特徴的な制度であるが、1990年代以降、経済の低成長化や日本的雇用慣行の後退などにより多くの企業が企業スポーツから撤退し衰退期に入った<sup>96)</sup>。しかし、三崎<sup>60)</sup>によると、2010年代に入り企業は企業スポーツを「経営資源」として捉え極力自社の事業戦略・経営戦略に活用したり、CSRや社会貢献活動としての役割を担う存在として捉えたりするなど、最近はその位置づけに変化が見られるようになった。企業によりCSRが注目される中、Porter et al.<sup>51)</sup>は社会のニーズや問題に取り組むことで社会的価値を創造し、その結果、経済的価値が創造されるというCSV（Creating Shared Value：共通価値の創造）を提唱した。また、CSRが慈善活動として捉えられていることを指摘するなど、CSRの意味が見直されている。こうした動きは、企業がスポーツをCSRとして捉え始めた日本にとって、スポーツが単なる慈善活動としてだけではなく、戦略的で価値のあるものとして見直されるきっかけとなり得る可能性があると考えられる。

### 第2節 研究の必要性

WJBLは世界に通ずる競技力を有するリーグであるにも関わらず、国内での注目度は決して高いとは言えない状況である。日本代表の活躍や国内男子プロリーグの誕生によってバスケットボール界に注目が集まる中、その価値を改めて見直す必要があると考えられる。女子バスケットボールに関する研究は、観戦者調査があるが<sup>102) 103) 104)</sup>、組織におけるマネジメントに着目した研究は見当たらない。

海外においてはそのような分野は多く研究されており、例として Walker et al.による研究<sup>111)</sup>が挙げられる。

図1は Walker et al.<sup>111)</sup>が WNBA (Women's National Basketball Association) の構造と活動が NBA と戦略的な CSR に対し、どのように関与するかを「経済的」「文化的」「社会的」指標から言及する際に用いたものである。

具体的には、WNBA が利益を生み出せず破綻しないように NBA から補てんされているため財政的には自立していないものの、経済的資本を越えた文化的・社会的資本があり、NBA が、WNBA と WNBA が生み出す資本を支え続けることは、最終的に NBA の本質のためになると言及している。ここで言う文化的資本とは、女性の文化的な価値の探求やファンの多様性のことである。また、社会的資本とは、WNBA の環境がファンの共同体意識を促進させることや生活苦の人も低コストで試合を観ることができるということである。こうした考え方は、その存在価値を問われてきた日本の企業スポーツにおいても重要な論点であると考えられる。我が国特有の文化として発展してきた「福利・厚生」の企業スポーツから、企業にとってスポーツがさらに価値のあるものと認識されるためには、そのスポーツ組織自身が自組織にとっての社会的責任を認識することが必要であると考えられる。

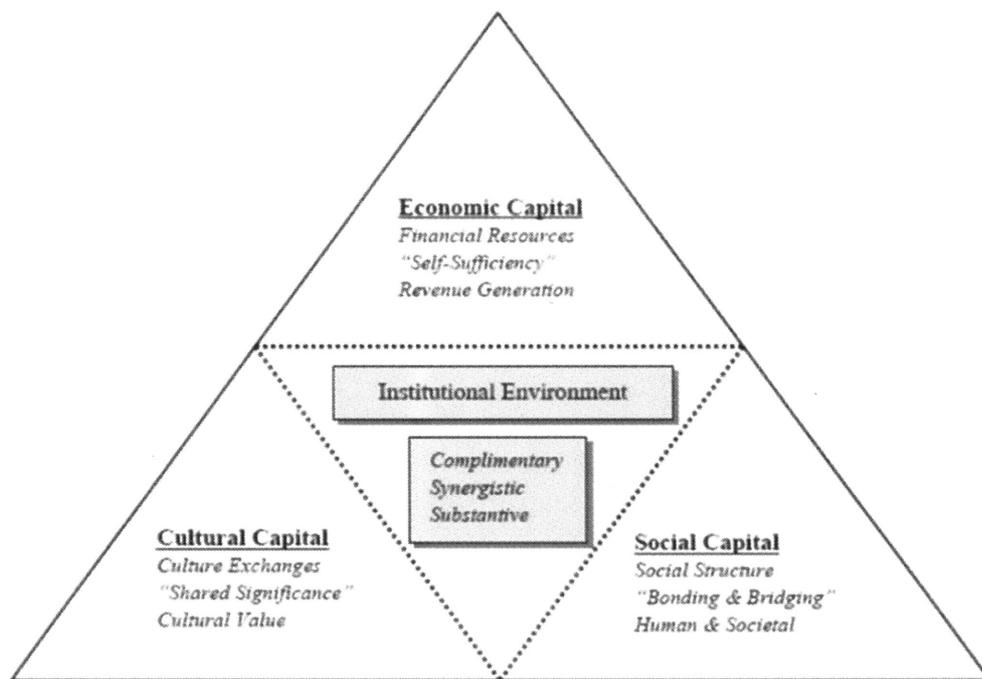


図1. Sustainability: Economic, Cultural and Social Capital.

出所) Walker et al. (2012). p.5 より引用

CSR に関してはこれまで多くの議論がなされてきており<sup>67)</sup>、理論的にも実証的にも多くの問題があるが<sup>59)</sup>、CSR のコンセプトが持続可能な経営コンセプトそのものになるためには、経営陣にとってその価値を実証する必要がある<sup>11)</sup>。消費者が組織と最も身近に繋がることのできるツールとして、本研究ではウェブサイトを用いた内容分析を試みた。

ウェブサイトは、これまでの CSR 研究で明らかになっているように<sup>55) 87)</sup>、多様な顧客と利害関係者グループに明確なアイデンティティを提示するよう意図されている。チームはファンをチームというブランドに近づけ関係を強化することができるインタラクティブなウェブサイトの体験を提供する必要がある、ファンに対する認識を強化することでチームのブランドイメージを消費者に増加させることができ、結果として好ましいマーケットプレイス（意識、商品販売、参加、ウェブサイト再訪）がもたらされることや、他メディア媒体と異なり、即時に自ら情報を開示でき、自己の特徴を明確に自身が提示できるという特徴を持っている<sup>21)</sup>。

また、質的な内容分析は、既存の理論または現象についての研究文献が限られている場合に適切な研究デザインの一つである<sup>33)</sup> ことから、ウェブサイトを用いた内容分析を行うことは有用であると考えられる。

これまで、国内では、チームや競技団体などのマネジメントは個々の組織による把握に留まり、その組織を取り巻く総体としてどのような状況であるのかを把握するための試みはなされていない。個々の組織のみならず、WJBL が総体としてどのような価値があるのかを実証的に整理することは有効だと考える。チーム、リーグ、企業という三者は自組織の事業や活動を通すことで社会における存在意義を唱えているが、それぞれのフィールドでできることは限られているため異なる資本活動を通して幅広い意味で補完し合っていると考えられる。WJBL がその価値を改めて認識・把握するためには、所属チームとそのチームを所有する企業の活動や理念の把握が必要であり、CSR の観点からそれらを分類することは有用であると考えられる。

### 第3節 研究の目的

本研究の目的は、WJBL の価値向上に寄与するため、先行研究および資料の整理・検討を行うことで、WJBL、WJBL 所属チーム、WJBL 所属チームを保有する親企業のマネジメントにおける特徴を CSR の観点から実証的に明らかにすることであった。

### 第4節 用語の定義

#### 第1項 CSR

CSR の概念を説明する際に最もよく用いられる Carroll<sup>13) 14)</sup> の概念に従い、「社会が任意の時点で組織に対して持つ経済的、法的、倫理的、そして裁量的（社会貢献的）な期待（Carroll<sup>13)</sup>, p.500）」と定義した。

## 第2項 企業スポーツ

本研究では、「企業スポーツ」(Company Sport)を高度な競技力を志向するものと捉え、企業に支援されたその従業員(企業スポーツ選手)もしくは従業員によって構成されたチーム(企業チーム)が、競技団体等が主催する全国的ないし地域的な対外競技に定期的に参加しているもの<sup>83)</sup>と定義することとした。

## 第2章 先行研究

### 第1節 CSRとは

企業の社会的責任とは、英語の Corporate Social Responsibility (以下：CSR) の訳であり、平成 15 年は我が国における『企業の社会的責任』元年と呼ばれ、この年以降、企業のみならず、一般の人々の関心も、一挙に高まったとされている<sup>78)</sup>。

図 2 は、CSR の概念を説明する際に最も用いられている Carroll の概念モデル<sup>13) 14)</sup> である。この概念は、「経済的責任」「法的責任」「倫理的責任」「社会貢献的責任」の 4 つのカテゴリーによって構成されている。大西<sup>82)</sup>はこの概念を以下のように説明する。

『経済的責任』は、社会が求める製品やサービスを生産し、それを販売して利益を獲得する責任を意味する。『法的責任』は、法令遵守のことであり、企業は法的要請の範囲内で経済的使命を遂行することが期待される。『倫理的責任』は、法文化されていないにも関わらず、社会に求められるモラルに従うこととされる。『社会貢献的責任』は、社会が企業に対し倫理的責任ほど明確なメッセージを寄せているわけではないが、ある種の社会的責任を担ってもらいたいとの社会的期待に応えることである。企業の任意で自発的な役割遂行を指し、それを行わなくても非倫理的であるとみなされることはない行為のことを指す。」(p.2)



図 2. 企業の社会的責任の概念モデル  
出所) Carroll (1991). p.42 より引用

以上のことから、CSR は組織の包括的なマネジメント全般に関わるものであり、社会貢献活動は CSR の中の社会貢献的責任に含まれる。しかし、我が国では「企業の社

会的責任」を、一時盛んであったメセナ（文化への支援活動）や、利益の社会還元と同義と考えられる場合も多い<sup>78)</sup>。このことは諸外国においても同様であり、CSRに含まれる経済的責任や法的責任には触れず社会貢献的責任のみに焦点を当て、それを CSR とすることが多い<sup>80)</sup>。学术界でも社会貢献活動のみを CSR としている場合もある<sup>82)</sup>。そもそも、CSR の明確な定義は今のところなく、Matten, D., & Moon, J.<sup>58)</sup>が指摘するように、CSR は国によって根本的な意味や問題、それらをどのように対処しているかなどという観点から非常に多様なものである。そのことから、CSR に関する概念の文献は広範囲かつ膨大にあるが<sup>18) 52)</sup>、CSR を定義することは容易ではないと言及している。その理由として、CSR が価値を評価する（または評価されている）ものであり、内部的に複雑で本質的に競合する概念であることや<sup>57)</sup>、CSR がビジネスや社会に関連した概念と同義の包括的な用語であることなどを述べている。

表 1 は CSR の理論を示したものである。McWilliams et al.<sup>59)</sup> は、CSR の理論に関して戦略的な意味を含む CSR のフレームワークを検討するため、CSR の理論の様々な視点を説明している。そこでは、CSR の定義、各国の CSR の制度的な違いの確認、CSR に対する動機付けの決定、CSR 戦略の記述、企業およびステークホルダーへの CSR の効果のモデル化、リーダーシップと企業文化の CSR 活動への影響の測定、CSR の要求の測定、CSR のコストの測定、現在の知識ベースの評価など、理論的および実証的にも多くの問題があると指摘している。

表 1. Selected theoretical papers on CSR

Author(s)	Nature of theoretical perspective(s)	Key argument/result
Friedman (1970)	Agency theory	CSR is indicative of self-serving behaviour on the part of managers, and thus, reduces shareholder wealth
Freeman (1984)	Stakeholder theory	Managers should tailor their policies to satisfy numerous constituents, not just shareholders. These stakeholders include
Donaldson and Davis (1991)	Stewardship theory	There is a moral imperative for managers to 'do the right thing', without regard to how such decisions affect firm performance
Donaldson and Preston (1995)	Stakeholder theory	Stressed the moral and ethical dimensions of stakeholder theory, as well as the business case for engaging in CSR
Jones(1995)	Stakeholder theory	Firms involved in repeated transactions with stakeholders on the basis of trust and cooperation have an incentive to be honest and ethical, since such behaviour is beneficial to the firm
Hart(1995)	Resource-based view of the firm	For certain companies, environmental social responsibility can constitute a resource or capability that leads to a sustained competitive advantage
Jennings and Zandbergen (1995)	Institutional theory	Institutions play an important role in shaping the consensus within a firm regarding the establishment of an 'ecologically sustainable' organization
Baron (2001)	Theory of the firm	The use of CSR to attract socially responsible consumers is referred to as strategic CSR, in the sense that firms provide a public good in conjunction with their marketing/business strategy
Fedderson and Gilligan (2001)	Theory of the firm	Activists and NGOs can play an important role in reducing information asymmetry with respect to CSR on the part of consumers
McWilliams and Siegel (2001)	Theory of the firm	Presents a supply/demand perspective on CSR, which implies that the firm's ideal level of CSR can be determined by cost-benefit analysis
McWilliams et al. (2002)	Resource-based view of the firm	CSR strategies, when supported by political strategies, can be used to create sustainable competitive advantage
Waldman et al. (2004)	Theory of the firm/strategic leadership theory	Certain aspects of CEO leadership can affect the propensity of firms to engage in CSR. Companies run by intellectually stimulating CEOs do more strategic CSR than comparable firms

出所) McWilliams et al. (2006). p.7 より引用

CSR の効果や意義としては、CSR 活動と企業業績に正の関係があることや<sup>85) 99)</sup>、CSR 消費者の企業に対するイメージや態度を向上させることなどがあり<sup>12) 53)</sup>、さらに、CSR は企業の透明性を高め、資金調達を容易にすることや<sup>17)</sup>、リスクに直面した際、CSR に取り組んでいる企業の方が株価やブランド評価への負の影響が少ない<sup>27)</sup> ことなどが挙げられる。

このようなことから、近年、企業の CEO や担当者が CSR や社会貢献活動を戦略的

に実施するようになってきていることが報告され<sup>91)</sup>、学術的研究においてもマーケティングツールとしての CSR にも焦点が当てられ始めている<sup>110)</sup>。多くの企業は CSR 活動を通じて社会的な便益と経済的な便益を同時に達成しようとしている<sup>81)</sup>。このことは、「戦略的フィランソロピー」や「戦略的 CSR」として提唱されている<sup>88) 89)</sup>。この考えでは、企業が社会貢献活動を行う際に、社会的便益とともに経済的便益を求めることの重要性が指摘されている。

Baron<sup>8)</sup> は、価値を獲得するための CSR の活用は「個人的に責任ある行動ではなく、社会的に行動する動機である」と指摘している。また、McWilliams et al.<sup>59)</sup> は、「利益を犠牲にして社会に貢献することが動機であるならば、その行動は社会的に責任があるが、その動機づけが収益に貢献することになれば、その行動は個人的に責任がある。個人的責任の活動により、その行為の費用を超えた社会的ベネフィットがある可能性がある。しかし、社会的ベネフィットが経営者にとって価値がない限り、これが動機づけに影響を与えることはない。」(p.9) と述べている。戦略的フィランソロピーのポイントとして 谷本<sup>105)</sup> は以下の7つを挙げている。

1. 企業の理念、企業が重視する価値、ミッションとリンクすること。求めに応じて資源をばらまくのではなく、企業の姿勢を明確にすること。
2. 本業においてキーとなるステークホルダーを絞りその期待に応えること。
3. 事業所の位置する地域性を考慮しそこで求められている社会的課題に応えること。
4. 想いを同じくする他企業とアライアンスを組む可能性を模索することや、NPO とのコラボレーションを探っていくこと。
5. 本業を離れた社会貢献にとどまらず本業におけるコアのビジネス機能や技術を生かす取り組みを試みること。
6. 従業員がイニシアティブをもって参加できるシステムづくりを進めること。
7. 社内での実施体制をつくること。(p.288)

このような流れの中で、Porter et al.<sup>51)</sup> は、これまでの慈善活動として捉えられてきた CSR と明確に区別するため、社会問題を企業が解決すべき中心的課題として捉え、社会のニーズや問題に取り組むことで社会的価値を創造し、その結果、経済的価値が創造されるという CSV (Creating Shared Value : 共通価値の創造) を提唱している。また、企業活動を持続的発展の観点から、経済だけでなく、環境と社会の側面からも総合的に評価するトリプルボトムライン<sup>20)</sup> といった考え方も提唱されている。ドラッカー<sup>86)</sup> も指摘するように、「マネジメントには自らの組織が社会に与える影響を処理するとともに、社会の問題の解決に貢献する役割がある」(p.9) ことから、CSR は外部からの圧力によって実施されるものではなく、企業の中心的な理念や哲学に関わるものであることを理解する必要があると考えられる。

## 第2節 企業スポーツについて

日本では、高度経済成長期の真っ只中に様々なスポーツの実業団リーグが形成された。バレーボール、ラグビー、アイスホッケーなどと同様、バスケットボールのリーグが誕生したのもこの時期である<sup>31)</sup>。日本におけるスポーツの発展は、企業の支援の力が大きく<sup>69)</sup>、日本のスポーツ振興においては、企業スポーツが学校運動部と並び日本独自のシステムとして貢献してきた<sup>121)</sup>。企業スポーツでは、企業による資金的な支援を含めた全面的なサポートが保証されていることから、「金の心配をしないでスポーツができる」というメリットを与え、日本のスポーツ界の「スポーツビジネス＝経済活動とは相いれないもの」という意識を生み出し、強化することになった<sup>54)</sup>。そもそも、企業スポーツは、従業員の一部感や凝集性を高めるための福利厚生施策の一環として成立し、その後メディアの発展によりプロモーションとしての有用性が明らかとなることで「広告宣伝型」としてあり方を変え、さらに企業のイメージ向上などその目的は多様なものとなった<sup>35) 48) 69)</sup>。しかしながら、1990年代の社会経済環境の悪化は、企業にスポーツの保有を諦めざるを得ない状況をもたらした<sup>69)</sup>、300以上のチームが休廃部に追い込まれた<sup>30)</sup>。このような企業スポーツの撤退状況を背景に、1993年のJリーグが誕生するなどトップスポーツのプロ化、クラブ化が進展し、トップスポーツ（特にチームスポーツ）を企業スポーツが支えてきたこれまでの仕組みは変化を遂げた<sup>121)</sup>。

プロスポーツの発展により、企業スポーツにおける限界を指摘される一方で、企業スポーツの今後のあり方に関する研究も広く散見される。永田<sup>69)</sup>は、企業スポーツの脆弱性を指摘しつつも、選手のセカンドキャリアを考慮した場合に優れた側面があるとして、企業による今後のスポーツ支援戦略に関して「日本型のオリジナルな形態」を創出しなければならないとの見解を示している。

福田<sup>25)</sup>は、プロスポーツにはない企業スポーツならではの強みを見直し、強化していくことが必要であると指摘し、企業スポーツがこれまで築いてきた有形・無形の資産を地域に還元することによって、「スポーツインフラの整備」面において社会に貢献できる可能性や、中長期的なライフプランを考えたときの選手にとってのメリットなど、企業スポーツが社会・選手・企業にとって大いに貢献できる余地を残していると言及している。

また、企業の社会的責任（CSR）の観点から企業スポーツを捉え直し社会貢献にベクトルを向けようとした議論や<sup>37) 90) 92) 97)</sup>、企業スポーツを「経営資源」として捉え、極力自社の事業戦略・経営戦略に活用し、「組織の絆」として、M&Aや分社後の役職員の求心力にと移り変わっていることも指摘されている<sup>60)</sup>。

海外でも、企業のスポーツへの支援がCSR活動になり得るとして、スポーツを通じたCSR活動がマスメディアによる配信や、若者へのアピール、健康への影響、社会的な相互作用、持続的な認知、文化的な理解と統合などにより、自社のCSR活動を説明するための主要な手段になることが明らかになっていることや<sup>101)</sup>、業績を回復するた

めにスポーツの力が必要であることを定量的に示して理解を求めたケースもある<sup>84)</sup>。しかしながら、スポーツは親会社の CSR 活動ではないとの指摘や<sup>68)</sup>、企業スポーツの基本的な制度設計は労務管理と福利厚生であり、そのプロパティ・ライツのアサインメントでは、観戦型スポーツとしての様々な価値は効率的に利用されにくいため、企業スポーツの基本的な制度設計による構造的な限界を踏まえた上で議論されるべきであるといった意見も散見される<sup>95)</sup>。

以上のことから、日本のスポーツ構造の変化から企業がスポーツを持つ意味やスポーツとの関わり方をまだ整理しきれていない現状があることが伺える。

### 第3節 スポーツにおける CSR

スポーツ産業界では、CSR に関する動きが盛んになっている<sup>122)</sup>。プロスポーツ球団やリーグを中心に、環境問題の啓発活動や非営利団体への寄付、子供たちの教育や健康に関するプログラムの導入を行う動きが広がっており、この傾向に応じて、大学スポーツ、プロスポーツ球団、フィットネスクラブ、非営利スポーツ団体などの様々な組織における CSR の研究が行われている<sup>36)</sup>。図3は、アメリカの4大スポーツにおけるリーグレベルでの CSR に関する活動を示したものである。

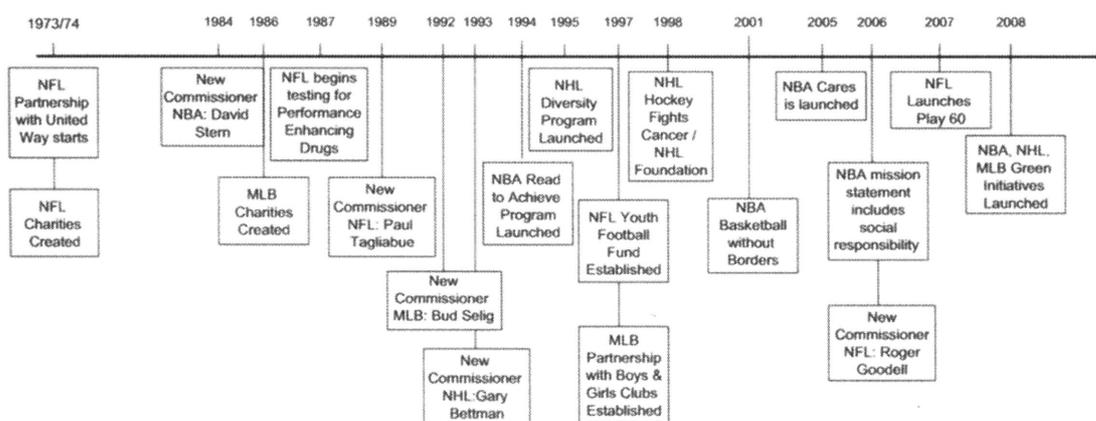


図3. TIMETABLE OF LEAGUE LEVEL CSR ACTIVITIES

出所) Babiak, K. (2010). p.532 より引用

Breitbarth et al.<sup>11)</sup>の研究では、プロフェッショナルフットボールにおいて CSR が果たす役割を各団体(チームやリーグ)のウェブサイトから分析し、グローバルな視点からの概念化を試みている。Glynn et al.<sup>26)</sup>による研究では、NFLによる乳がん啓発キャンペーンが行われる10月は、乳がんに関するインターネットでの検索活動が増加することが明らかとなっている。

また、スポーツにおける CSR について盛んに研究を行っている Babiak は、プロス

スポーツ組織の CSR の決定要因は、外部の社会問題もしくは内部資源に対する組織の関心によって決定付けられることを述べており<sup>5)</sup>、その他にもスポーツと CSR の関わりについての研究を多数行なっている。<sup>4) 7) 100)</sup> プロスポーツに限らず、NCAA (National Collegiate Athletic Association : 全米体育協会) のアスレチックディパートメント・ディビジョン I における CSR の現状について調査した研究も散見される<sup>98)</sup>。

スポーツにおける CSR の研究は海外においては盛んに行われているが、我が国ではプロスポーツ産業がそれほど成熟していない背景もあり、あまり散見されない。

図 4 は大西 (2013)<sup>82)</sup> によるプロスポーツチームにおける社会的責任の概念モデルである。大西は、スポーツ組織の中でも特にプロスポーツチームに焦点を当て、Carroll の CSR の概念モデル<sup>13) 14)</sup> に倣い、スポーツ組織の社会的責任を理解できる概念モデルを構築した。この概念では 1) パフォーマンス的責任、2) 強化的責任、3) ファンサービスの責任、4) スポーツパーソンシップ的責任、5) チーム統治的責任、6) 地域貢献的責任、7) インプレッサー的責任といった 7 つの責任が挙げられている。

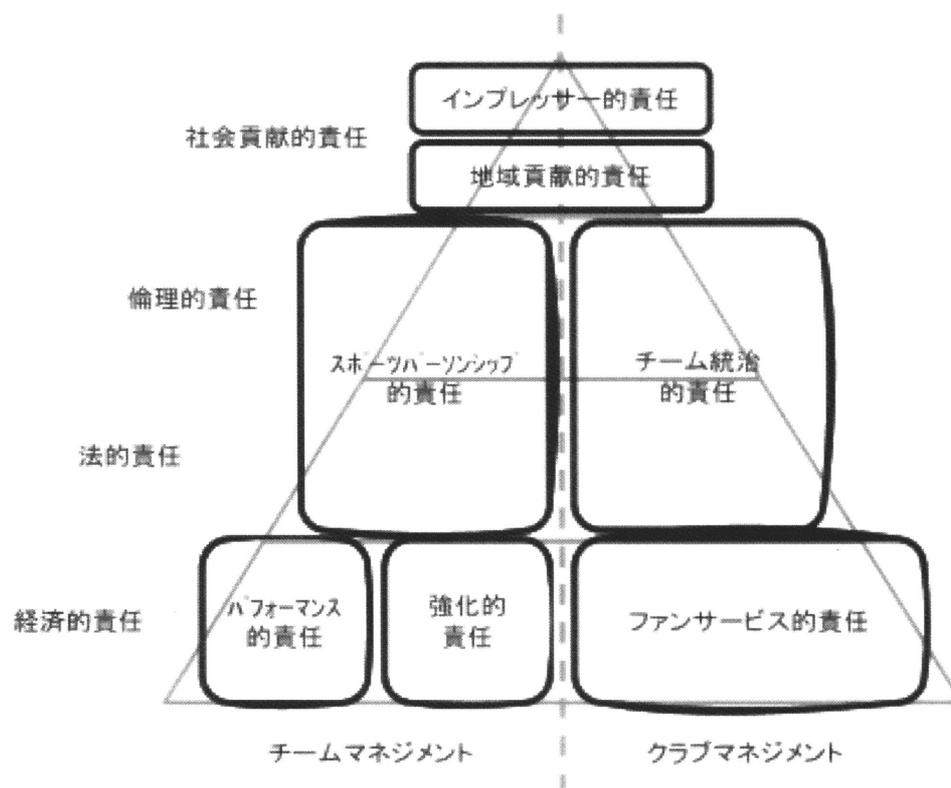


図 4. プロスポーツにおける社会的責任の概念モデル  
出所) 大西(2013). p.19 より引用

#### 第4節 日本のバスケットボール界について

##### 第1項 日本におけるバスケットボールの存在

日本バスケットボール協会<sup>72)</sup>によると、国内のバスケットボール競技者登録数は平成27年度で63万6,987人に上り、ミニバスケットボール、中学校、高校だけで、登録者の約89%を占めており、学生には欠かせない存在となっている。また、義務教育でもカリキュラムに取り入れられていることや<sup>64)</sup><sup>65)</sup>、全競技者のうち約42%が女性であることから、男女問わず馴染みのあるスポーツである。

このように、「『するスポーツ』としては確固たる地位を確立」(p309)<sup>30)</sup>してきたにも関わらず、「みるスポーツ」としてのバスケットボールは発展途上であることが度々指摘されてきており<sup>29)</sup><sup>34)</sup><sup>63)</sup>、その大きな原因として国内外から問題視されてきたのが、プロ化を巡り分裂していた男子リーグの2リーグ併存問題であった<sup>47)</sup>。この問題は、2016年10月に「Bリーグ」という新たなプロリーグの誕生などによって解決を迎えることとなり、今後は「みるスポーツ」としてのバスケットボールの更なる発展が期待されている。図5は、わが国のトップリーグの変遷を表したものである。次項では、Bリーグの誕生まで紆余曲折を経てきた経緯を述べる。

1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	
全国実業団 バスケットボールリーグ	バスケットボール日本リーグ (回数:1967年より継続)										バスケットボール 日本リーグ機構(JBL)	JBLスーパーリーグ										日本バスケットボールリーグ(JBL)				ナショナル バスケットボールリーグ (NBL)				B リーグ			
	全国実業団バスケットボールリーグ (バスケットボール日本リーグ2部に相当)											bリーグ			バスケットボール女子日本リーグ機構(WJBL) (Wリーグ、WIリーグの2部制)							Wリーグ(1部制)				※							
																				日本実業団 バスケットボール連盟													

※ 組織名称から「機構」を取り、「バスケットボール女子日本リーグ」に変更

図5. 日本トップリーグの歴史  
(日本実業団バスケットボール連盟公式サイト(n.d.)、日本バスケットボール協会公式サイト(2012)より作成)

## 第2項 Bリーグの誕生まで

国内バスケットボールの歴史は1967年、実業団リーグであるバスケットボール日本リーグよりスタートする。1996年、プロ化を視野に入れた独立採算組織の「バスケットボール日本リーグ機構」(JBL)と改組され<sup>31)</sup>、2001年に、地域密着型のホームタウン制を掲げた「JBLスーパーリーグ」としてスタートする。

2004年、JBLスーパーリーグに所属していた新潟と埼玉のチームが、プロ化をめぐる意見の相違からリーグと対立、脱退し、全てプロチームで構成された日本プロバスケットボールリーグ、いわゆるbjリーグを立ち上げる事となる。bjリーグは「プロフェッショナル」「スポーツ・エンタテインメント」「グローバル(グローバルとローカル)&コミュニティ」という3つの理念を掲げ、独自のルールを採用するなどをして、2005年に開幕し、2015-2016シーズンまで11年という歴史を刻んだ<sup>9)</sup>。

図6に示すように、設立当初6チームだったチーム数は、毎年増加し続け、ラストシーズンとなった2015-2016シーズンには24チームとなった<sup>10)</sup>。JBLスーパーリーグと仲違いする形で誕生した独立リーグということもあり、JBAはbjリーグを協会傘下の「非公認リーグ」とし、JBLとの交流等を断絶していた。その後、bjリーグがJBA傘下の「公認リーグ」となったのは2010年のことであった<sup>70)</sup>。

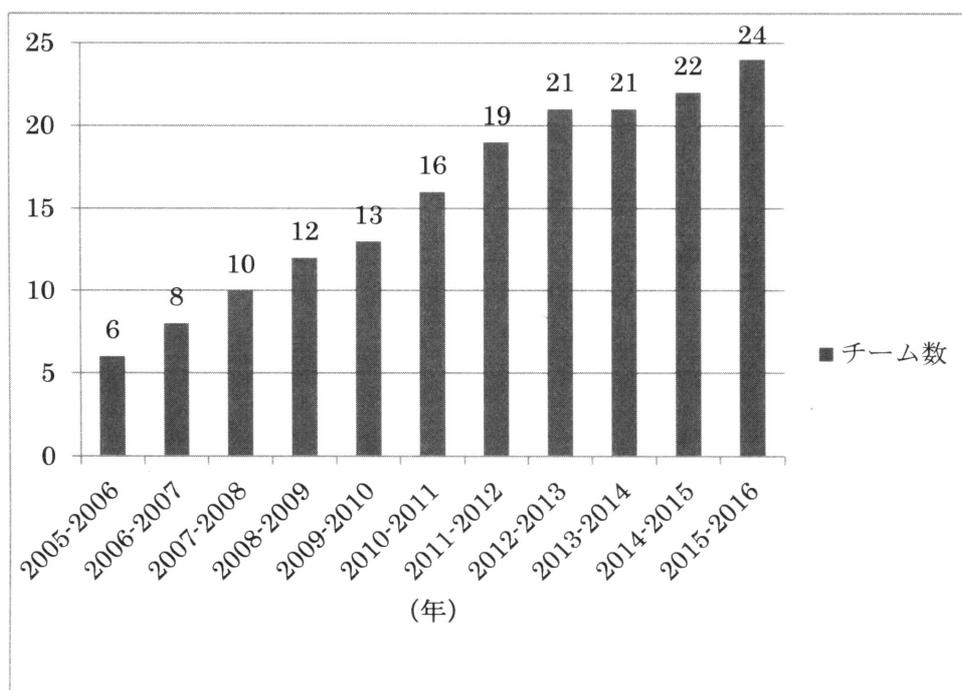


図6. bjリーグのチーム数の推移  
(bjリーグ公式サイト(n.d.)より作成)

bjリーグの開幕した2005年、JBAは「プロリーグ設立準備委員会」を立ち上げたが、JBLに加盟する企業チームなどの反対に遭い、2006年に「新リーグ設立委員会」と名称変更を余儀なくされ、リーグの完全プロ化は先送りとなった<sup>30)</sup>。

2007年からの新リーグは、「プロリーグ」とは名乗らず「日本バスケットボールリーグ (JBL)」と称し、企業チームだけでなくプロチームの参入も歓迎し、一般公募によって新しいチームを公募した。その結果、これまでの企業チームに加え、2つのプロチームが参入しスタートすることとなった。

2008年、FIBAにより日本のリーグが2つに分かれていることを普及・強化の観点から問題視され、JBAは、「トップリーグあり方検討委員会」や「新リーグ準備室」を開設するなどして新リーグの検討を行ない、2013年に誕生したのが、「ナショナルバスケットボールリーグ (NBL)」である<sup>70)</sup>。

表2は、NBLの2014-2015シーズンのチーム名とそのチームの形態、保有法人を表したものである。NBLは13チームによって構成されており、そのうちの5チームが企業チーム、その他8チームは所属する選手全員がプロ契約をしている完全プロチームであった。構造が根本から異なる2つのリーグを統合するのは容易なことではないため、新リーグという「新しい箱」を用意し、その設立趣旨に賛同するチームがその箱に入るという形を取ったものの<sup>79)</sup>、bjリーグから参入したのは「千葉ジェッツ」の1チームのみで、「統合リーグ」という呼び名は影を潜めてしまった。トップリーグの統合が実現せず、JBAは運営、強化面で統治能力のなさを露呈してしまう結果となった<sup>76)</sup>。

表2. NBLの所属チーム一覧 (2014-2015シーズン)

チーム名	形態	保有法人
レバンガ北海道	クラブチーム	株式会社北海道バスケットボールクラブ
つくばロボッツ	クラブチーム	株式会社いばらぎスポーツアカデミー
リンク栃木ブレックス	クラブチーム	株式会社リンクスポーツエンターテインメント
千葉ジェッツ	クラブチーム	株式会社ASPE
日立サンロッカーズ東京	企業チーム	株式会社日立製作所
トヨタ自動車アルパルク東京	企業チーム	トヨタ自動車株式会社
東芝ブレイブサンダース神奈川	企業チーム	株式会社東芝
アイシンシーホース三河	企業チーム	アイシン精機株式会社
三菱電機ダイヤモンドドルフィンズ名古屋	企業チーム	三菱電機株式会社
和歌山トリアンズ	クラブチーム	和歌山バスケットボール株式会社
兵庫ストークス	クラブチーム	株式会社アスリートグリーン兵庫
広島ドラゴンフライズ	クラブチーム	株式会社広島ドラゴンフライズ
熊本ヴォルターズ	クラブチーム	熊本バスケットボール株式会社

出所) 菅野(2015). p.4 より引用

そうした状況を受け、2013年、FIBAはJBAに対し東京五輪開催国枠での出場を検討するという警告を提示し、翌年の2014年には、「JBAのガバナンスの強化と事業性の向上」「男子代表の強化」「トップリーグの統一」といった3項目が回答期限内に改善されなければ、日本代表の国際大会への試合出場資格停止処分を含めた罰則を科すという考えを示した。JBAは2年後の統一を目指し「新リーグ組織委員会」を立ち上げ、NBLとbjリーグの話し合いを開始するものの両者の話し合いは平行線が続き、回答期限を目前にしたJBAの臨時理事会では、問題が合意に至らない責任を取り新リーグ組織委員会会長が辞任するなどをして迷走が続いた<sup>76)</sup>。

最終的には、回答期限内に問題の解決には至らず、2014年11月、FIBAは勧告通りJBAに対し、各種国際大会への出場資格停止処分を下した。この問題に立ち向かうため、FIBAは「JAPAN 2024 TASKFORCE」を立ち上げ、そのチェアマンに日本サッカー協会キャプテン（最高顧問）の川淵三郎氏を任命した<sup>22)</sup>。その後、さまざまな問題を解決するため6回に及ぶ会議が行われ、2015年8月に制裁の解除に結び付けた<sup>77)</sup>。JBAのガバナンスの強化なども行われ、長年抱えてきた2リーグ問題も、完全なプロリーグである「Bリーグ」のにより終わりを迎えた。Bリーグの開幕に当たってはマスメディアからも注目され、開幕戦はテレビで地上波生中継がゴールデンタイムに大々的に放映されるなど、バスケットボール界は新たな光に照らされることとなった。

一方で、このバスケットボールのリーグ統一問題は、スポーツの産業化が認識され始めた日本においての、これまでトップスポーツを支えてきた企業スポーツの在り方を再確認しなければならない問題でもあると考えられる。

### 第3項 日本の女子バスケットボール (WJBL)

日本オリンピック委員会によると<sup>74)</sup>、女子バスケットボールがオリンピック種目になったのは、1976年第21回モントリオール大会からのことであり、日本の女子代表はその年に出場している。しかし、その後1996年のアトランタ大会まで遠ざかり、その後2004年のアテネ大会で3度目の出場を果たした。目覚ましい活躍を見せた2016年のリオデジャネイロ大会は、3大会ぶり4度目の出場であった。この大会では、6連覇を達成することとなるアメリカに敗れベスト8となったが、その戦いぶりは対戦したアメリカからも大きく称えられるものであった<sup>118) 119)</sup>。

リオ五輪で活躍した女子代表の全選手は、一般社団法人バスケットボール女子日本リーグ（以下：WJBL）の運営する国内女子のトップリーグである「Wリーグ」に参戦している。

表3は、WJBLの2016-2017シーズンに所属するチームの名称と形態、保有法人の一覧である。現在、WJBLには企業クラブ9チーム、プロクラブ3チームの合計12チームが所属している。

表 3. WJBL の所属チーム一覧 (2016-2017 シーズン)

チーム名	形態	保有法人
JX-ENEOSサンフラワーズ	企業チーム	JXホールディングス株式会社
富士通レッドウェーブ	企業チーム	富士通株式会社
デンソーアイリス	企業チーム	株式会社 デンソー
トヨタ自動車アンテロープス	企業チーム	トヨタ自動車株式会社
シャンソン化粧品シャンソンVマジック	企業チーム	株式会社 シャンソン化粧品
三菱電機コアラーズ	企業チーム	三菱電機株式会社 名古屋製作所
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	企業チーム	トヨタ紡織株式会社
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	企業チーム	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社
新潟アルビレックスBBラビッツ	クラブチーム	一般社団法人 新潟アルビレックス女子バスケットボールクラブ
羽田ヴィッキーズ	クラブチーム	一般社団法人 羽田ヴィッキーズ女子バスケットボールクラブ
日立ハイテッククーガーズ	企業チーム	株式会社 日立ハイテクノロジーズ
山梨クィーンビーズ	クラブチーム	一般社団法人 山梨クィーンビーズ バスケットボールクラブ

出所) WJBL 公式サイト(n.d.). より作成

また、表 4 は WJBL 所属チームを保有する親企業の概要を示したものである。

WJBL が誕生したのは 1998 年のことであるが、前身を含めればその歴史は長く 1967 年から男子リーグと共にバスケットボール日本リーグとして長い歴史を刻んできた。WJBL<sup>14)</sup> は、日本リーグの存在を次のように述べている。

1967 年、バスケットボール界の活性化を狙いとして「第 1 回バスケットボール日本リーグ」が開催された。これは、サッカー、バレーボールに続く日本リーグであり、「普及」と「強化」を目的とし、日本協会と日本実業団連盟の主催によって、当時実業団連盟に加盟していた日本のトップチーム（男女各 8 チーム）が参加することになった。現在と比べゲーム数は少なかったが、当時は交通機関が発達していなかったため全国各地への転戦は大変な苦勞であった。しかしながら、過去数々の名勝負、名選手を生み出し、国際大会での日本のレベルアップにも貢献し、各地でちびっこファン、バスケットボールファンの目をくぎ付けにしてきたことは大きな財産となっている。(p.4)

1993 年、華々しく J リーグが誕生し、サッカーがプロ化に成功したことを背景に<sup>31)</sup>、日本リーグの主権はプロ化を視野に入れた「バスケットボール日本リーグ機構」(JBL) へ移管されることとなった。JBL が設立され 3 年が経過した 1998 年、女子リーグは男子リーグとの目指す方向性や運営面で差異が生じてきているとし、男子リーグからの分離独立のため、バスケットボール女子日本リーグ機構 (WJBL) の設立を提案した。

表 4. WJBL 所属チームを保有する親企業の概要

名称	設立	本社所在地	代表	事業内容	資本金	従業員数
J Xホールディングス株式会社	2010年 4月1日	東京都千代田区 大手町一丁目1番2号	代表取締役会長 木村康 代表取締役社長 内田幸雄	エネルギー事業・石油・天然ガス開発事業、金属事業を行う子会社およびグループ会社の経営管理ならびにこれに付帯する業務	1,000億円	記載なし
富士通株式会社	1935年 6月20日	神奈川県川崎市 中原区上小田中4-1-1	代表取締役社長 田中達也	通信システム、情報処理システムおよび電子デバイスの製造・販売ならびにこれらに関するサービスの提供	3,246億円 (2016年3月末現在)	156,000名 (2016年3月末現在)
株式会社 シャノン化粧品	1946年 2月	静岡県静岡市 駿河区国吉田2-5-10	代表取締役社長 川村修	化粧品、健康食品、宝飾品販売、OEM事業、その他	1億2,700万円	247名 (平成26年3月)
株式会社 デッソー	1949年 12月16日	愛知県刈谷市 昭和町1-1	取締役会長 加藤宣明 取締役社長 有馬浩二	自動車関連分野、生活関連機器分野、産業機器分野、その他新事業分野	1,874億円	151,775名 (連結)
トヨタ自動車株式会社	1937年 8月28日	愛知県豊田市 トヨタ町1番地	代表取締役社長 豊田章男	自動車の生産・販売	6,354億円 (2016年3月末現在)	348,877名 (連結) (2016年3月末現在)
トヨタ紡織株式会社	1950年	愛知県刈谷市 豊田町1丁目1番地	取締役会長 豊田周平 取締役社長 石井克政	(1) 内装システムサプライヤー事業と内装製品の製造および販売 (2) 自動車用フィルターおよびパワートレーン機器部品の製造および販売 (3) その他自動車関連部品の製造および販売 (4) 繊維関連製品の製造および販売	84億円	41,624名 (連結)
三菱電機株式会社	1921年 1月15日	東京都千代田区 丸の内2-7-3 東京ビル	柵山 正樹	重電システム、産業メカトロニクス、情報通信システム、電子デバイス、家庭電器などの製造・販売	1,758億2000万円	135,160名 (連結)
アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	1969年 5月15日	愛知県安城市 藤井町高根10番地	取締役社長 川本睦	オートマチックトランスミッション、ハイブリッドトランスミッション、カーナビゲーションシステムの製造など	264億8,000万円	27,778名 (連結) (2016年3月31日現在)
株式会社 日立ハイテクノロジーズ	1947年 4月12日	東京都港区 西新橋1丁目24番14号	代表執行役 執行役社長 宮崎正啓	科学・医用システム、電子デバイスシステム、産業システム、先端産業部材	79億3,848万525円 (2016年3月31日)	9,902名 (連結) (2016年3月31日現在)

(WJBL 公式サイト(n.d.)、各企業の公式サイトより作成)

WJBLは趣意書<sup>113)</sup>の中で、次のように述べている。

女子リーグの主たる目的は「強化と普及」であり、各チームの母体企業が運営を支持していくこととしている。従って、リーグ戦の開催については、各地方協会との連携を密にし、共存共栄をもって、全国各地で開催していく必要がある。一方、男子リーグは、主たる目的を強化・普及に加え「事業化」をリーグ運営の柱とする構想である。……以上のことから、事業自体が基本的に異なり、リーグ戦を同じ組織の中で進めていくには、財政面、運営面での差異が大きすぎるため、効果、効率面から問題が生じると思われる。

以上の提案が受理され、1998年より新たにWJBLとして女子リーグを独自に運営していくこととなった。1999年に行われた第1回大会では、Wリーグ（旧1部）8チーム、WI（旧2部）リーグ8チームで構成される2部リーグ制でスタートした。

一方、その間に、日本ではバブル経済が崩壊し社会経済環境には大きな変化が起きていた。スポーツ界にもその影響が及ぶ中、Wリーグはそれに耐えうる盛り上がりを見せたいところではあったが、2003年の第5回大会頃までは休廃部するチームが相次ぐなど<sup>115)</sup>、企業スポーツ撤退の波を免れることはできなかった。どんなに愛された名門チームであっても、経済環境や親会社の経営状況によってチームが消失してしまうということは企業スポーツの問題点であり<sup>30)</sup>、WJBLでは、2010年を最後にJALラビッツが廃部となったことも記憶に新しい出来事である<sup>46)</sup>。図7は、日本リーグの形態および所属チームの変遷、図8はWリーグの形態および所属チームの変遷を表したものである。



第1回 1999年	第2回 2000年	第3回 2001年	第4回 2002年	第5回 2003年	第6回 2004年	第7回 2005年	第8回 2006年	第9回 2007年	第10回 2008年	第11回 2009年	第12回 2010年	第13回 2011年	第14回 2012年	第15回 2013年	第16回 2014年	第17回 2015年	第18回 2016年
Wリーグ																	
W I リーグ						Wリーグ											
ジャパンエナジーJOMOサンフワーズ			JOMOサンフワーズ			JKサンフワーズ						JK-ENEOSサンフワーズ					
富士通レッドウェーブ																	
シャンドン化粧品 シャンドン化粧品 シャンドン化粧品 シャンドン化粧品 シャンドン化粧品																	
デンソーアイリス																	
トヨタ自動車アンテロープ				トヨタ自動車アンテロープ													
日立那阿スカレルズ				日立ハイテクノジーズスカレルズ				日立ハイテクカーガーズ									
三菱電機コアラーズ																	
日本航空 ジャレラビッツ		日本航空JALラビッツ															
甲府クイーーンビーズ				山梨クイーーンビーズ													
広島銀行ブループレイズ				新潟アルビレックスBBラビッツ													
日立戸塚レバード																	
三井生命ファルコンズ																	
三洋電機 オクヤガス 第一勧業銀行 DKBオクヤガス 富士銀行 オクヤガス 東海三菱銀行 オクヤガス																	
東京電力 シヤウワスターズ				東京海上日動ビッグブルー				東京海上日動ビッグブルー				ビッグブルー東京					
アイシン・エイ・ダブリュウイングス																	
経産製作所 ムツウギョーキース				在阪エハラヴィッキーズ				エハラヴィッキーズ						羽田ヴィッキーズ			
				トヨタ紡織サンシャインラビッツ													

図 8. Wリーグの形態および所属チームの変遷  
(第1～18回Wリーグ公式プログラムより作成)

図9は2016-2017シーズンに参戦している各チームの拠点、図10は2016-2017シーズンの試合開催地の分布である。WJBLでは、設立当初よりその理念の一つに「普及」を挙げており、所属チームの本拠地以外で多くの公式戦を行ってきた。チームの拠点が同じ県に集中していることから、一部プロチーム等を除き地域密着を掲げるホームタウン制とは相反する形が取られている。リーグ戦の開催については、WBL設立時の趣意書<sup>113)</sup>にもあるように、男子が「事業化」を運営の柱とする一方、「各地方協会と連携を密にし、共存共栄をもって、全国各地で開催していく必要がある」とし、現在に至るまで多くの試合を開催地の地方協会が運営を担ってきた（一部の試合はチームやWJBLが主管している）。

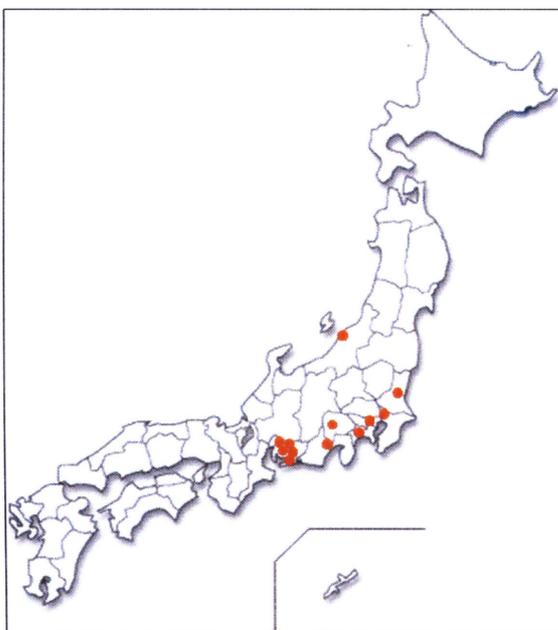


図9. WJBL所属チーム拠点

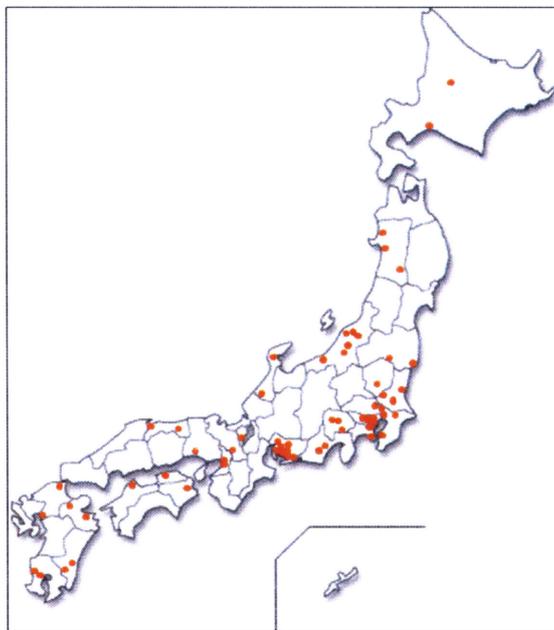


図10. 2016-2017シーズン試合開催地

(第18回Wリーグ公式プログラムより作成)

2016年、Wリーグは、リオ五輪での女子代表の活躍を機に新たなファン層を取り込めるといった追い風を受けていたが、Wリーグからの宣伝や発信力が乏しく<sup>50)</sup>、その存在はBリーグの開幕に影を潜めてしまっている。このことは内外からも指摘されており、2016-2017シーズンのWリーグ開幕会見では選手からも改善を求める声が上がった<sup>50) 77) 117)</sup>。

また、海外のスポーツリーグで行われている「レベニューシェアリング」や「サラリーキャップ」などの戦力均衡を図る取り組みの導入は、企業クラブを抱えるリーグにとっては親企業との制度的な問題により困難であり<sup>94)</sup>、事実、Wリーグではバスケットボールという競技にとっては大差の30点、40点以上という点差の試合が相次ぎ、時に

は70点差の試合になるなど<sup>116)</sup>戦力の不均衡が目立ち、企業スポーツリーグにおけるマネジメントの難しい現実に直面している。

Bリーグの誕生による世間の盛り上がり、世界で競争力を発揮する女子代表の活躍などバス界に新たな風が吹き始める一方で、WJBLはその存在価値を見直さなければならぬ時に来ていると言えよう。

#### 第5節 リサーチクエスチョン

本研究の目的は、WJBLの価値向上に寄与するため、WJBLを構成する組織のマネジメントにおける特徴をCSRの観点から実証的に明らかにすることであった。そのため、以下2つのリサーチクエスチョンを設定した。

第一のリサーチクエスチョンは、1) WJBL、2) WJBL所属チーム、3) WJBL所属チームを保有する親企業のそれぞれのCSRの特徴はどのようなものか、である。

第二のリサーチクエスチョンは、1) WJBL、2) WJBL所属チーム、3) WJBL所属チームを保有する企業という3者の関係性はどのようなものか、である。

## 第3章 研究方法

### 第1節 調査方法

#### 第1項 調査対象

本研究の調査対象は、バスケットボール女子日本リーグ (WJBL)、WJBL 所属の 12 チーム、WJBL 所属チームの親企業 9 社であった。

表 5 は、調査対象とするチームと企業の具体的な名称の一覧である。

表 5. 調査対象とする WJBL 所属の 12 チームと WJBL 所属チームの親企業 9 社

WJBL 所属 12 チーム	WJBL 所属チームの親企業 9 社
JX-ENEOS サンフラワーズ	JX ホールディングス株式会社
富士通レッドウェーブ	富士通株式会社
デンソーアイリス	株式会社 デンソー
トヨタ自動車アンテロープス	トヨタ自動車株式会社
シャンソン化粧品 シャンソンVマジック	株式会社 シャンソン化粧品
三菱電機コアラーズ	三菱電機株式会社 名古屋製作所
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	トヨタ紡織株式会社
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社
新潟アルビレックス BB ラビッツ	(なし)
羽田ヴィッキーズ	(なし)
日立ハイテククーガーズ	株式会社 日立ハイテクノロジーズ
山梨クィーンビーズ	(なし)

(WJBL 公式サイト(n.d.)より作成)

#### 第2項 調査期間

本研究の調査期間は 2016 年 10 月 1 日～11 月 20 日であった。

#### 第3項 データの収集方法

本研究においては、調査対象となる組織があらかじめ定められていることから、それらすべての情報を確保できる可能性が高い媒体であるウェブサイトを選択し、各組織の管理する公式ウェブサイトから検索エンジンを用いてデータの抽出を行った。

WJBL と WJBL 所属チームの調査内容に関しては、公表されているそれぞれの活動内容を基に収集した。

WJBL 所属チームを保有する親企業の調査内容に関しては、CSR に関する活動内容の記述や CSR 活動報告書、理念を実践するための重点課題（主な取り組み）を基に情報を収集した。

#### 第4項 分析方法

収集したデータは、以下の理論に項目を付置させ内容分析を行った。

##### 1. WJBL と WJBL 所属チーム

WJBL と WJBL 所属チームに関しては、大西のプロスポーツチームにおける社会的責任の概念モデル<sup>82)</sup>に項目を付置させ内容分析を行った。

具体的には、プロスポーツチームが提供するプロダクトのより中核的な要素に関連し経済的責任に該当する 1) パフォーマンス的責任、パフォーマンス的責任を支えるものであり同じく経済的責任に該当する 2) 強化的責任、スポーツプロダクトの拡大要素に当たりファンづくりという観点で基礎的な営業活動として経済的責任に該当する 3) ファンサービスの責任、競技規則を遵守することやスポーツパーソンとして求められる姿勢や行動であり法的責任と倫理的責任に該当する 4) スポーツパーソンシップ的責任、プレー以外でチームが起こす可能性がある不祥事には法律に違反することによるものと倫理に背くことがあることから法的責任と倫理的責任に該当する 5) チーム統治的責任、スポーツプロダクトの中核要素にも拡大要素にも含まれない地域の活性化という裁量的な責任に該当する 6) 地域貢献的責任、夢を与えるという裁量的な責任に該当する 7) インプレッサー的責任の 7 つである。

表 6 は、WJBL 所属チームのデータを理論に付置させる際の項目とその詳細を示したものである。理論に付置させる際、WJBL と WJBL 所属チームに関しては、ウェブサイトに記載されている内容から抽出される項目と、ウェブサイト上でコンテンツを提供すること自体が項目として抽出できるものがあつた。さらに、各チームで取り組む活動の内容に大きな違いは確認できなかったため、比較しやすいよう全チームに対しては付置させる理論に関する項目を指定した。

また、ミッションやビジョンに関する表記があれば内容をその組織にのみ追加することとした。添付資料 1~6 は、それぞれの項目におけるデータの抽出内容に関して記載したものである。

##### 2. WJBL 所属チームの親企業

WJBL 所属チームの親企業に関しては、Carroll の CSR の概念モデル<sup>13) 14)</sup>に項目を付置させ内容分析を行った。具体的には、1) 経済的責任、2) 法的責任、3) 倫理的責任、4) 社会貢献的責任の 4 つである。

WJBL 所属チームの親企業に関しては、企業によって CSR に対する認識や業種、会社規模の違いがあり、ウェブサイトでの情報の開示の方法には大きな差があることが確認された。しかし、今回の目的は厳密な企業評価ではなく、あくまで保有するチームや WJBL との関係性が確認出来ればよいため、全企業に対しての付置させる理論に関する項目の指定は行わずに調査を進めることとした。

表 6. WJBL 所属チームのデータを大西<sup>82)</sup> の理論に付置させる際の項目とその詳細

スポーツにおける社会的責任	項目	判断基準
インプレッサーの責任	—	(組織の理念、バスケットボールクリニック、バスケットボールクリニック以外の慈善活動に関する概要などの内容から適宜追加)
地域貢献的責任	慈善活動	バスケットボールクリニック以外の慈善活動を実施しているか
	バスケットクリニック	バスケットボールクリニック活動を実施しているか
チーム統治的責任	代表挨拶	チームの代表挨拶などのコメントの記載があるか
	活動理念・目的	組織に関する理念、方針、目的などの記載があるか
スポーツパーソナリティの責任	—	(組織の理念、バスケットボールクリニック、バスケットボールクリニック以外の慈善活動に関する概要などの内容から適宜追加)
ファンサービシ的責任	ファンクラブ	ファンクラブ、後援会などが存在しているか
	ファンサービス活動	ファンサービス活動（ハーフタイムイベント、プレゼント企画、ウェブサイトにおけるファン専用ページ、ブログ配信、フォトギャラリーの公開、Q&Aコーナー、動画配信など）を実施しているか
	チケット(会場座席図)	会場座席図の記載があるか
	チケット(購入方法)	チケット販売店や購入方法、それに関するサイトのリンクの記載があるか
	チケット(料金)	チケットの料金、それに関するサイトのリンクの記載があるか
	チケット(試合日時)	試合日時の記載があるか
	ニュース/トピックス	ニュース/トピックス関連の記載があるか。試合情報、イベント情報などのカテゴリ分けや、年度ごとに分けるなど過去の情報の記載があるか
	スケジュール(試合以外)	試合以外(練習日やイベント等)のチームのスケジュール公開をしているか
	過去の結果	過去の試合結果を記載しているか
	試合(順位表など)	試合情報の詳細（WJBL公式サイトへのリンクを含め、競技方法の記載や独自の順位表など）が記載されているか
	試合(チームの結果)	チームの試合結果の記載や独自の試合レポートなどを記載しているか
	試合(日時・会場)	試合の日時、会場情報の記載があるか
	チーム(歴史・戦績)	チームの歴史や戦績年表を記載しているか
	チーム(活動拠点)	活動拠点に関する情報（ホームタウン、住所、アクセスなど）の記載があるか
	チーム(チーム名・チームカラー)	チーム名や、チームカラーに関する説明の記載があるか
チーム(チアリーダー)	チアリーダーや応援団の紹介の記載があるか	
チーム(マスコットキャラクター)	マスコットキャラクターの紹介の記載があるか	
チーム(選手・スタッフ)	選手・スタッフの紹介の記載があるか	
強化的責任	最優秀新人選手	昨シーズン(2015-2016)に最優秀新人賞を受賞した選手がいるか
	最優秀コーチ	昨シーズン(2015-2016)に最優秀コーチ賞を受賞したコーチがいるか
	ベスト5選手	昨シーズン(2015-2016)にベスト5賞を受賞した選手がいるか
	MVP選手	昨シーズン(2015-2016)にレギュラーシーズンMVP賞、プレーオフMVP賞を受賞した選手がいるか
	リーダーズ受賞選手	昨シーズン(2015-2016シーズン)にリーダーズ(個人賞)を受賞した選手がいるか
	日本代表選手	2015アジア選手権(リオ五輪予選)、2016リオ五輪に出場した日本代表選手、または日本代表候補選手がいるか
パフォーマンス的責任	タイトル獲得	過去のタイトル(Wリーグ、全日本総合選手権)獲得経験があるか
	上位リーグ進出	昨シーズン(2015-2016シーズン)の2次ラウンドで上位リーグに進出したか

## 第4章 結果

### 第1節 WJBLにおけるスポーツの社会的責任

図11は、WJBLの基本理念、事業内容、ウェブサイトから得られた情報を大西のプロスポーツチームの社会的責任の概念モデル<sup>82)</sup>に付置させたものである。

7つの責任すべてに該当する内容、もしくはコンテンツの提供が行われていた。強化的責任に該当するとした「サマーキャンプ」は、競技力向上事業助成金を受け実施されたものであり、試合を通して選手強化を図るとともに、審判の育成に努めることを目的としていた。試合後には、全選手を対象とした研修会を実施し、外傷に関する知識とリスクマネジメントの講義を行っていた。また、それの他に、毎年新人選手に向けて、「トップリーグの選手としてあるべき姿」について認識してもらうため研修会を実施しており、WJBL規約・競技者規定などの基本的なルールの説明、歴史や理念、プレー面でも生活面でもファンや子供達の模範となる取り組みについての講義や、OGを講師に招いて新人時代や国際大会（オリンピックや世界選手権）の際に感じていたこと、ファンやメディアに対する接し方などの講義、日本アンチ・ドーピング機構による指導や「日本トップリーグ連携機構（JTL）」の若手研修で他競技の選手と一緒に研修を受講させるなどしていた。

また、チケット情報の提供は行われているものの、そのページでの料金表記のある試合が42試合、表記のない試合が90試合と、試合ごとに提供する情報に相違が見られた。それに加えて、現地に出向かないとチケットを購入できない（ネット販売や電話、コンビニ各店舗での前売り販売のない）試合が48試合（84試合は購入可能）であった。

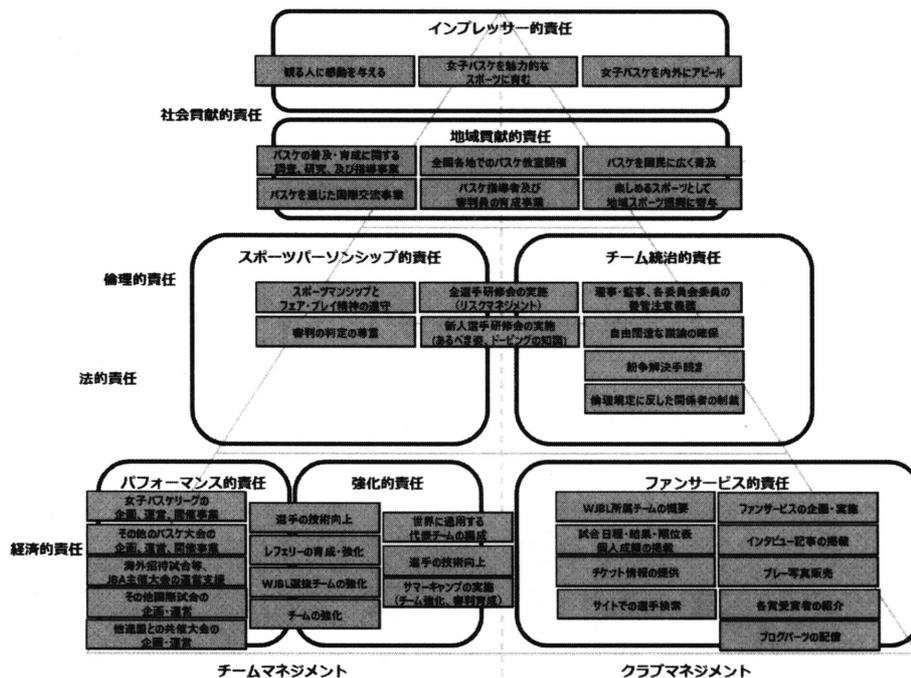


図11. WJBLにおけるスポーツの社会的責任

## 第2節 WJBL 所属チームにおけるスポーツの社会的責任

### 第1項 JX-ENEOS サンフラワーズ

図12は、JX-ENEOS サンフラワーズの基本理念、事業内容、ウェブサイトのコンテンツから得られた情報を大西のプロスポーツチームの社会的責任の概念モデル<sup>82)</sup>に付置させたものである。

パフォーマンス的責任、強化的責任に関してはほぼすべての項目に該当していた(添付資料1、添付資料2)。創部の目的では、「新鮮さと、躍動感のあるスポーツを通じて社員の連帯感を強め、あわせて企業のイメージアップを図ること」と表記しており、これはどの責任にも該当しないと判断した。また、ファン専用ページの開設や試合動画配信、WJBL に所属する企業チームで唯一ファンクラブを運営するなど、ファンサービスの責任を強く意識させる活動が見られた(添付資料3)。バスケットボールクリニックに関しては、その趣旨として親会社であるJXグループの理念に基づいていることが表記されていた(添付資料6)。

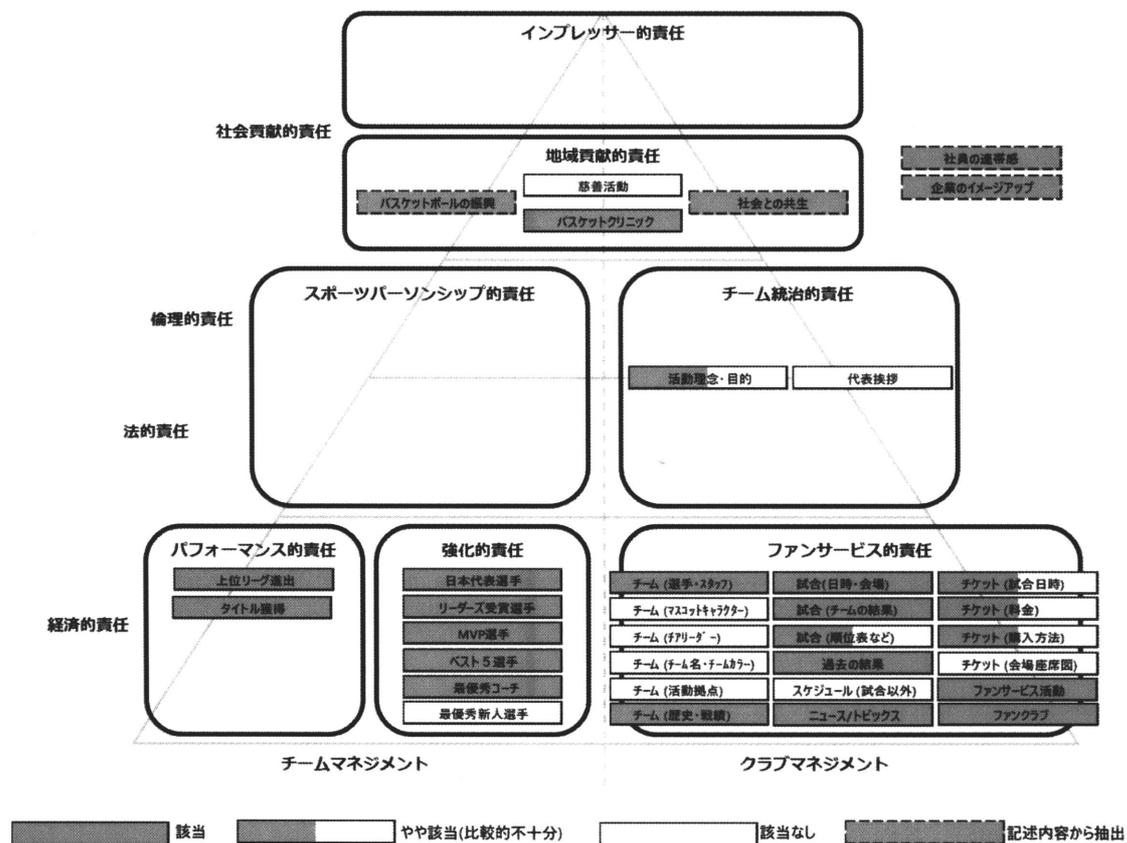


図12. JX-ENEOS サンフラワーズにおけるスポーツの社会的責任

## 第2項 富士通レッドウェーブ

図13は、富士通レッドウェーブの基本理念、事業内容、ウェブサイトのコンテンツから得られた情報を大西のプロスポーツチームの社会的責任の概念モデル<sup>82)</sup>に付置させたものである。

パフォーマンス的責任、強化的責任は該当する項目が多かった(添付資料1、添付資料2)。バスケットボールクリニックに関しては、活動拠点である川崎市と連携した「かわさきスポーツパートナー」活動の一環として2004年から開催しており、川崎市内の小学校の体育の時間やクラブ活動の時間帯を利用してバスケットボールの指導を実施していた(添付資料6)。また、富士通株式会社川崎工場にて開催されたイベントの一環で、富士通他競技メンバーとそれぞれスポーツ教室を開催していた(添付資料6)。試合情報に関しては、ホームタウンゲームとする試合以外も、会場となる全ての体育館の住所や、土足不可状況、チケット問い合わせ一覧などの詳細を掲載するなど、ファンサービスの責任に該当するコンテンツの提供が見られた(添付資料3)。

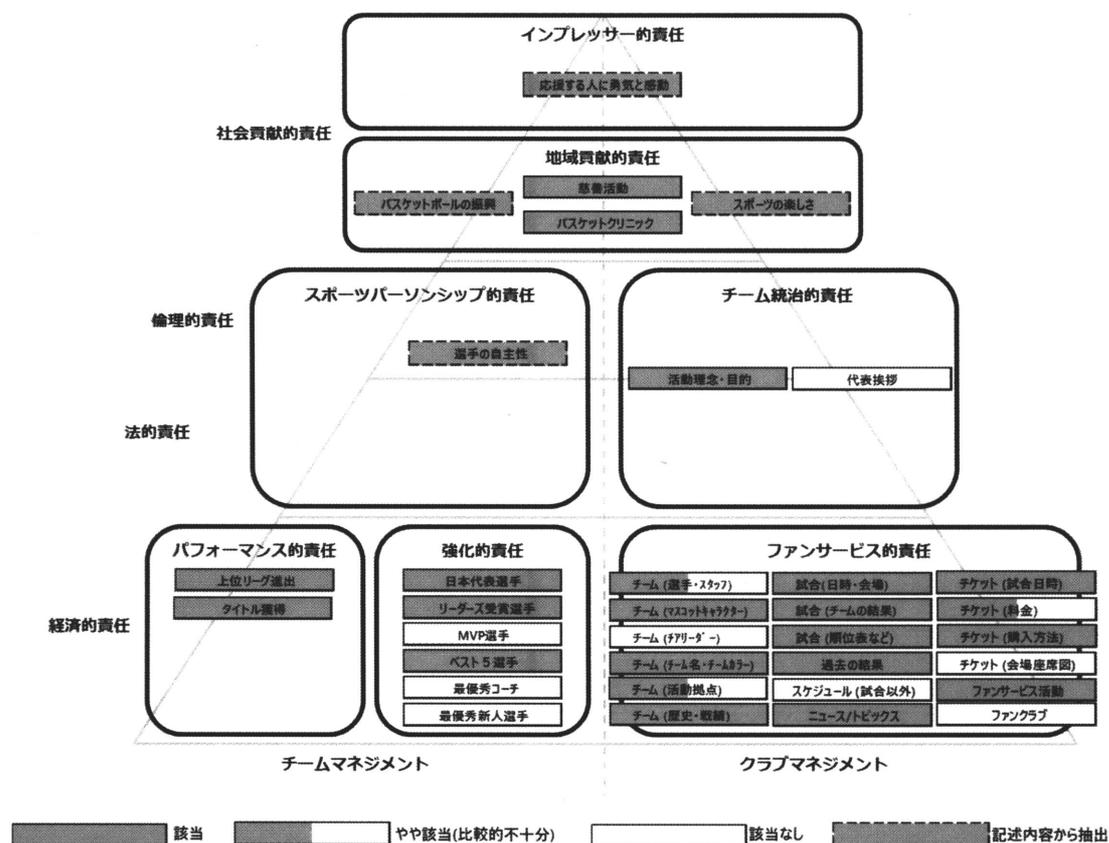


図13. 富士通レッドウェーブにおけるスポーツの社会的責任

第3項 シャンソン化粧品 シャンソンVマジック

図14は、シャンソン化粧品 シャンソンVマジックの基本理念、事業内容、ウェブサイトのコンテンツから得られた情報を大西のプロスポーツチームの社会的責任の概念モデル<sup>82)</sup>に付置させたものである。

パフォーマンス的責任の項目は全てに該当があった。バスケットボールクリニックは、「静岡エスアカデミア・スポーツクラブ」という法人が運営していることが特徴的で、目的は「静岡県内の可能性のある子供たち、さらにバスケットボールに全力で取り組みたい子供たちに、バスケットボールにより多く触れる機会を創造し、少しでも良いプレー環境を提供すること」としており、WJBL所属12チームの中で唯一ジュニアユース(下部組織)を保有していた(添付資料6)。チケット情報の提供は行われていなかった(添付資料3)。

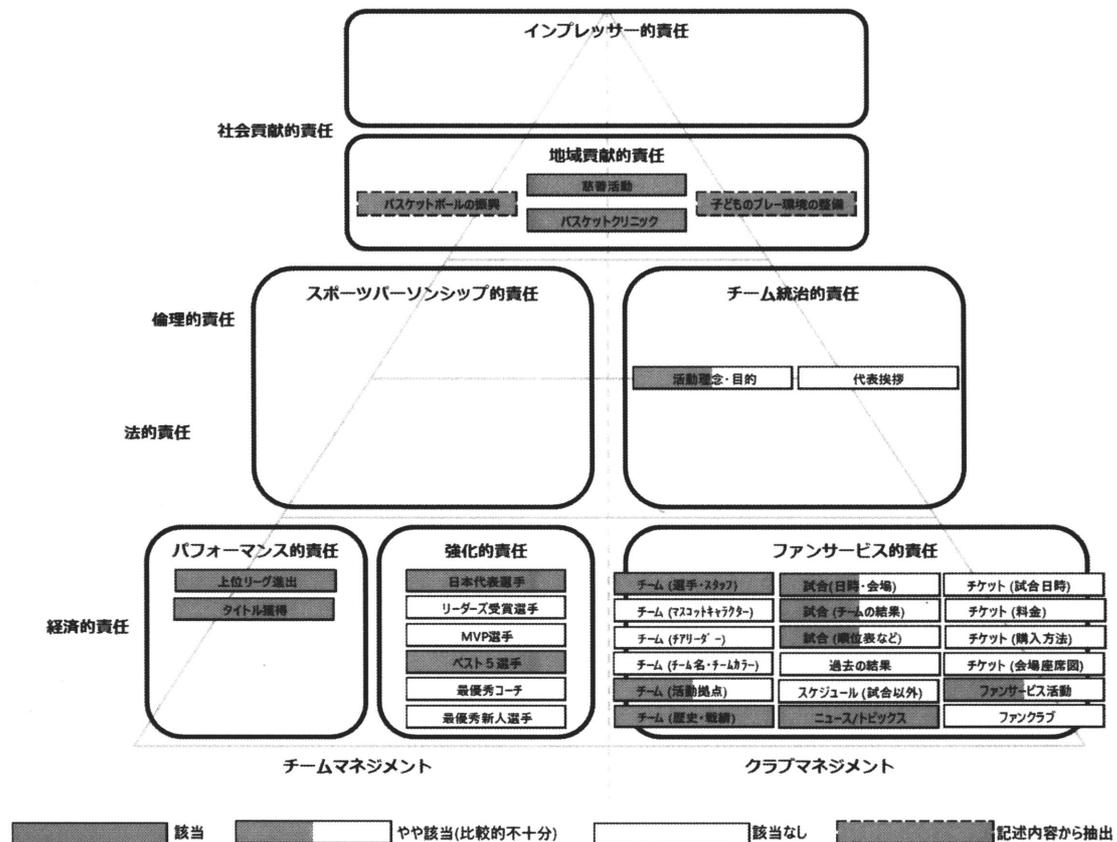


図14. シャンソン化粧品 シャンソンVマジックにおけるスポーツの社会的責任

#### 第4項 デンソーアイリス

図15は、デンソーアイリスの基本理念、事業内容、ウェブサイトのコンテンツから得られた情報を大西のプロスポーツチームの社会的責任の概念モデル<sup>82)</sup>に付置させたものである。

慈善活動は拠点とする愛知県で実施していた(添付資料6)。チームの親企業であるデンソーの従業員の出勤時間に合わせて「交通安全立哨活動」を行うなど、社員向けの活動が見られたが、デンソー本社体育館にて「デンソーアイリスカップ中学校バスケットボール大会」を開催(刈谷市の中学校5校と招待校7校(計12校)が参加)し試合後に写真撮影、サイン会を実施するなど、地域の子供向けの活動も行なっていた(添付資料6)。バスケットボールクリニックは、デンソーバスケットボールクリニックとジュニアアスリート応援プロジェクトがあり、後者では、子供たちにスポーツの楽しさを感じ技術向上に繋げてもらうためデンソースポーツ強化部(女子バレーボール部、女子バスケットボール部、女子ソフトボール部、女子陸上長距離部)の選手らが、デンソー製作所のある愛知県・三重県の小中学校を訪問して子供たちとの交流を行っていた(添付資料6)。チケット情報の提供は行われていなかった(添付資料3)。

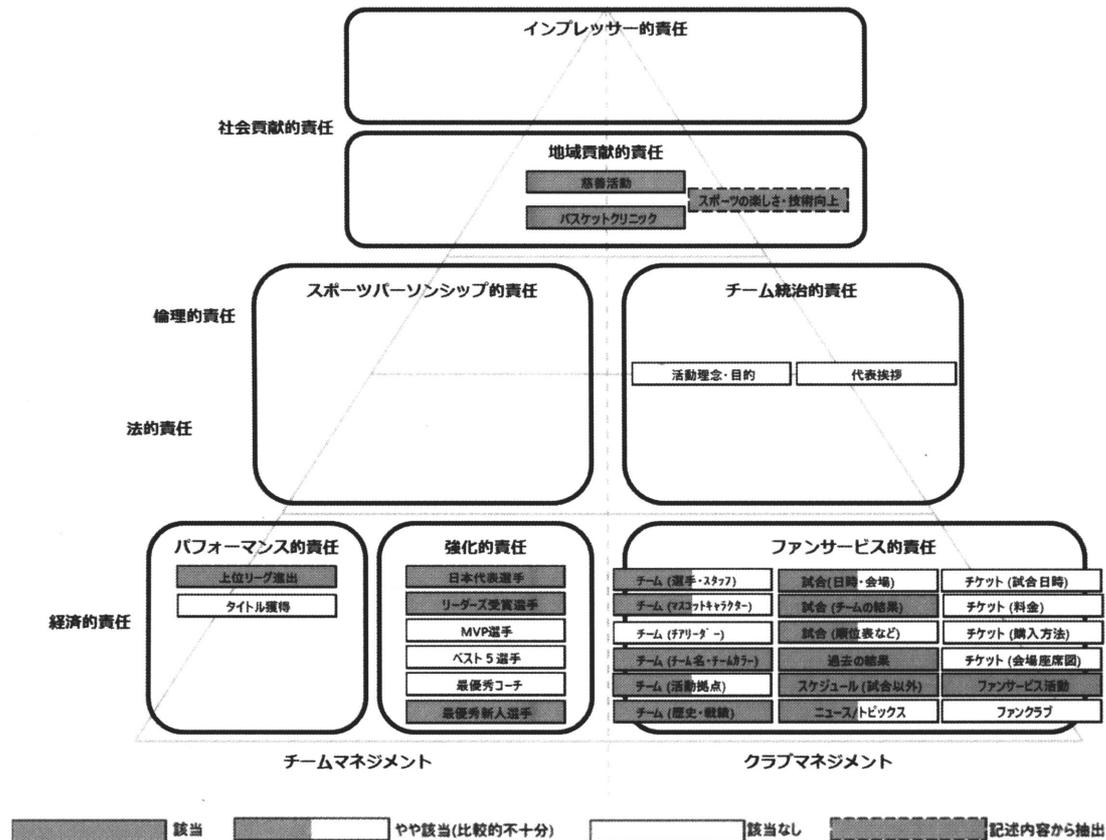


図15. デンソーアイリスにおけるスポーツの社会的責任

第5項 トヨタ自動車アンテロープス

図16は、トヨタ自動車アンテロープスの基本理念、事業内容、ウェブサイトのコンテンツから得られた情報を大西のプロスポーツチームの社会的責任の概念モデル<sup>82)</sup>に付置させたものである。

パフォーマンス的責任の項目は全て該当しており、日本代表選手も所属していた(添付資料1、添付資料2)。チーム紹介に関するコンテンツは充実しているため、ファンサービスの責任の項目に該当していたが、チケット情報の提供は行われていなかった(添付資料3)。試合詳細や試合速報に関してはWJBLの公式サイトへすぐアクセスできるようリンクを載せていた(添付資料3)。

また、WJBL所属12チームの中で唯一、バスケットボールクリニック活動の記載がなかった(添付資料6)。慈善活動に関しては、ピンクリボン運動として募金活動やTシャツ販売を実施していた。チームの親企業であるトヨタ自動車社内で行われた壮行会やイベントの紹介をしていた(添付資料6)。

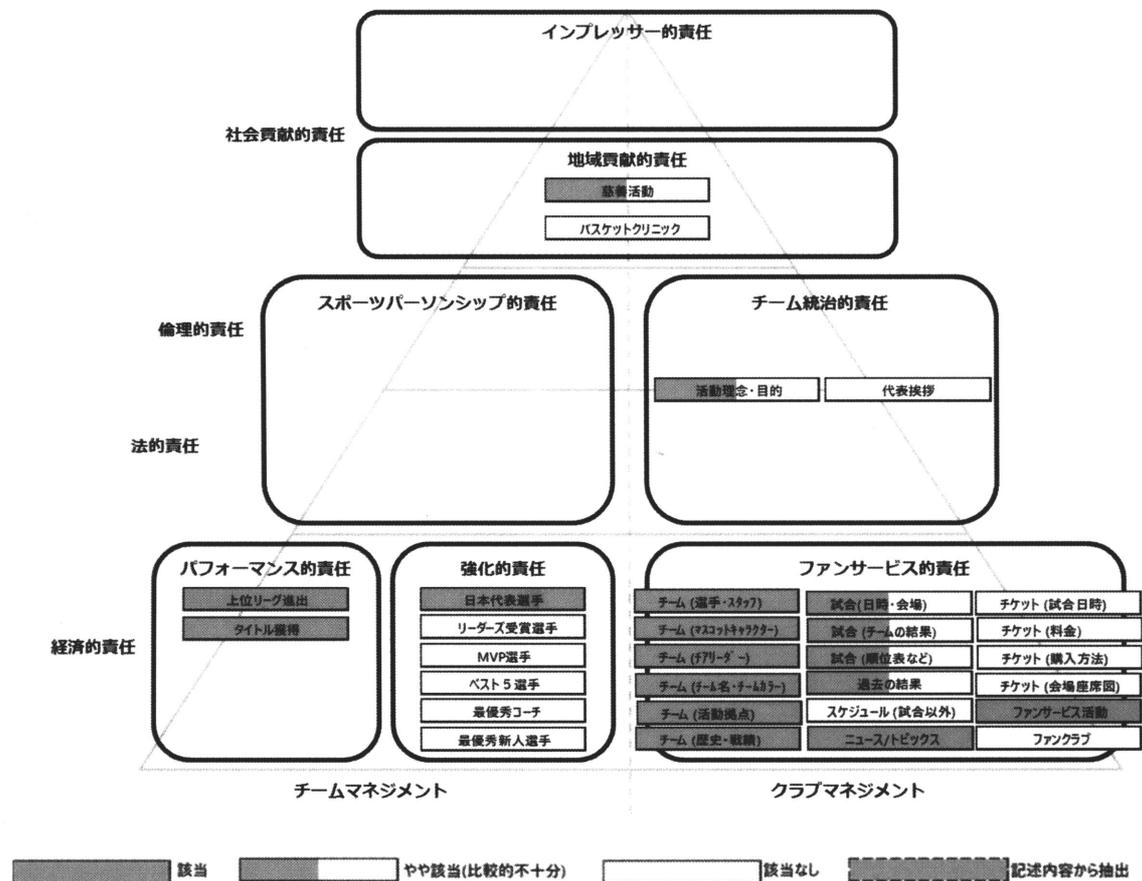


図16. トヨタ自動車アンテロープスにおけるスポーツの社会的責任

第6項 トヨタ紡織サンシャインラビッツ

図17は、トヨタ紡織サンシャインラビッツの基本理念、事業内容、ウェブサイトのコンテンツから得られた情報を大西のプロスポーツチームの社会的責任の概念モデル<sup>82)</sup>に付置させたものである。

9チームある企業チームの中で唯一代表の挨拶が公開されていた(添付資料4)。また、「ロッカールーム」と称するファン専用ページがあり、その中で「職場でもそれぞれのポジションで全力で取り組んでいます。」と記載し、選手と選手の所属する部署の社員で映った写真を公開していた(添付資料3)。試合における選手入場の際のエスコートキッズにチームの親企業であるトヨタ紡織社員関係の子どもを担当させていた。チケット情報の提供は行われていなかった(添付資料3)。

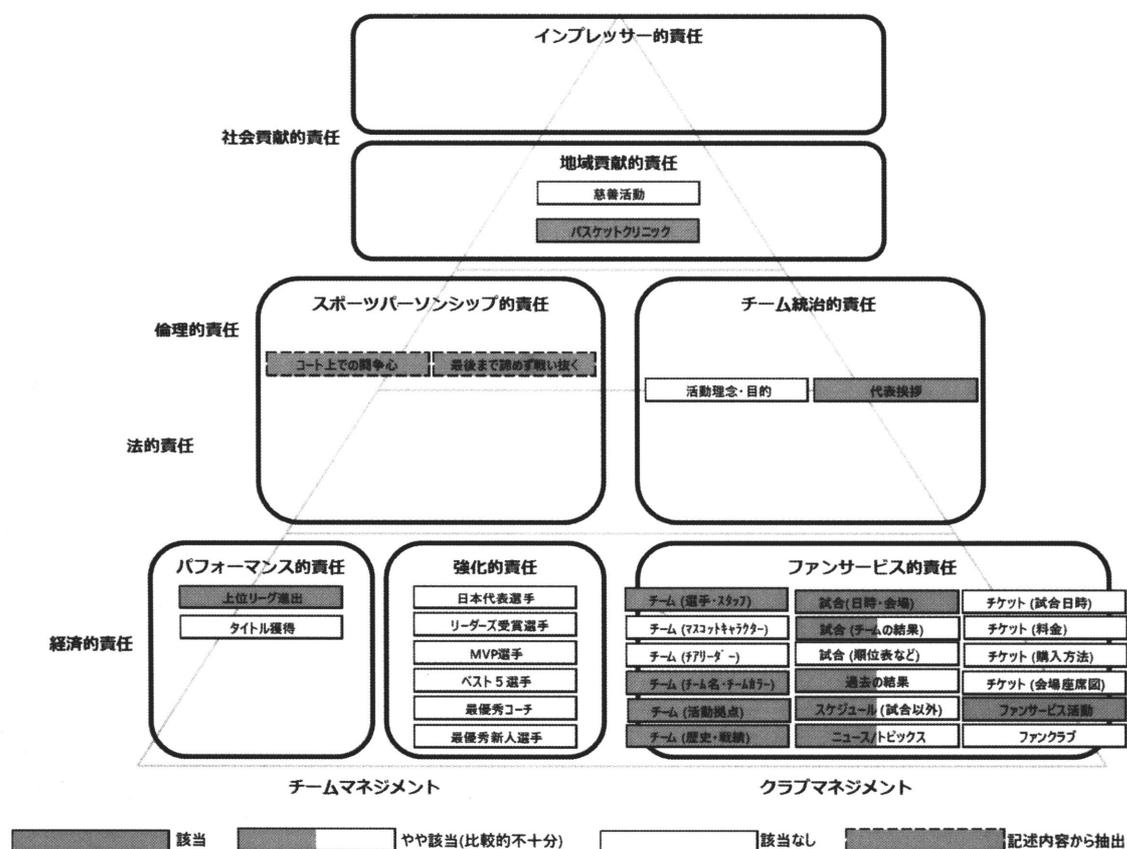


図17. トヨタ紡織サンシャインラビッツにおけるスポーツの社会的責任

第7項 三菱電機コアラーズ

図18は、三菱電機コアラーズの基本理念、事業内容、ウェブサイトのコンテンツから得られた情報を大西のプロスポーツチームの社会的責任の概念モデル<sup>82)</sup>に付置させたものである。

企業チームであるが、「観戦チケットのご購入からお受け取りまで」としたチケットの購入方法についての案内があり、コンビニ店舗、インターネット購入、電話購入それぞれの案内が記載されていた(添付資料3)。

バスケットボールクリニック活動は、三菱電機が保有する男子バスケットボール部と共に実施するケースが多く見られた(添付資料6)。

スポーツパーソンシップ的責任やチーム統治的責任の項目に該当する表記などはなかった(添付資料4)。

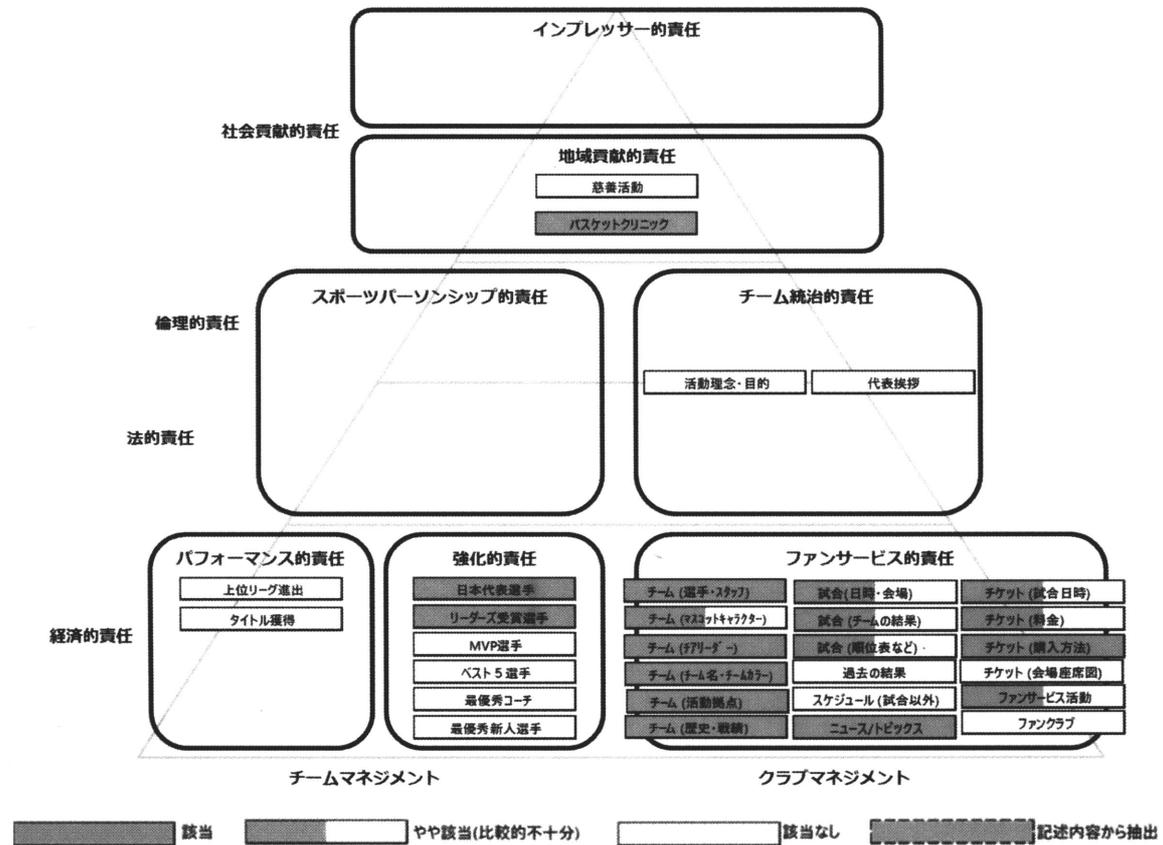


図18. 三菱電機コアラーズにおけるスポーツの社会的責任

第8項 アイシン・エイ・ダブリュウイングス

図19は、アイシン・エイ・ダブリュウイングスの基本理念、事業内容、ウェブサイトのコンテンツから得られた情報を大西のプロスポーツチームの社会的責任の概念モデル<sup>82)</sup>に付置させたものである。

バスケットボールクリニック活動を実施するほか、地元の子供たちを招待し「アイシンAWカップ2016」と称した中学生のバスケットボール大会を会社の体育館で開催し、選手との交流会も実施していた(添付資料6)。また、特別支援学校でもクリニックを行っていた(添付資料6)。

チケット情報の提供は行われていなかった(添付資料3)。

社内での壮行会を実施し、社員との交流を深めている様子が確認された。

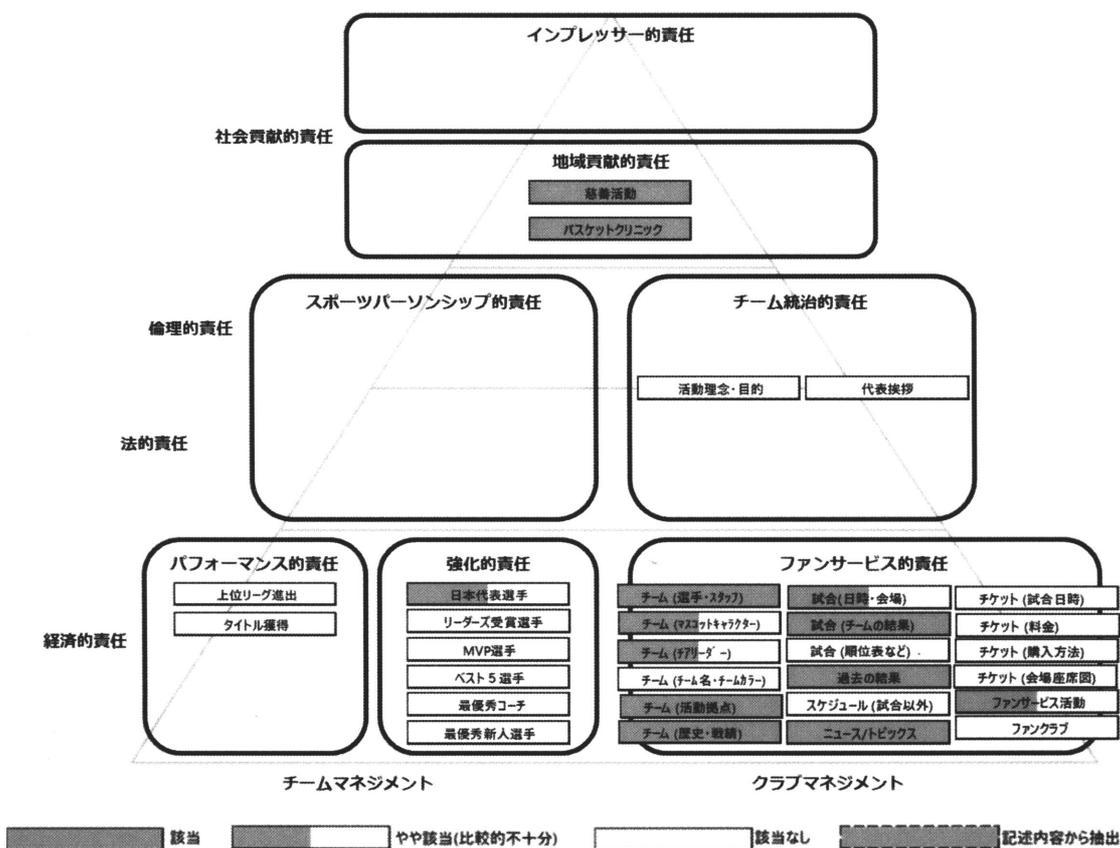


図19. アイシン・エイ・ダブリュウイングスにおけるスポーツの社会的責任

第9項 羽田ヴィッキーズ

図20は、羽田ヴィッキーズの基本理念、事業内容、ウェブサイトのコンテンツから得られた情報を大西のプロスポーツチームの社会的責任の概念モデル<sup>82)</sup>に付置させたものである。

チームの活動理念などから、地域貢献的責任やインプレッサー的責任に該当する表記が多く見られた(添付資料4)。パフォーマンス的責任と強化的責任に該当する項目をほとんど満たしていないことから、チームの戦力を表している一つの指標となっていることが伺えた(添付資料1、添付資料2)。

チケット情報は、外部サイトへとページが移動するようになっていたが、一部の試合のみの情報提供であった(添付資料3)。

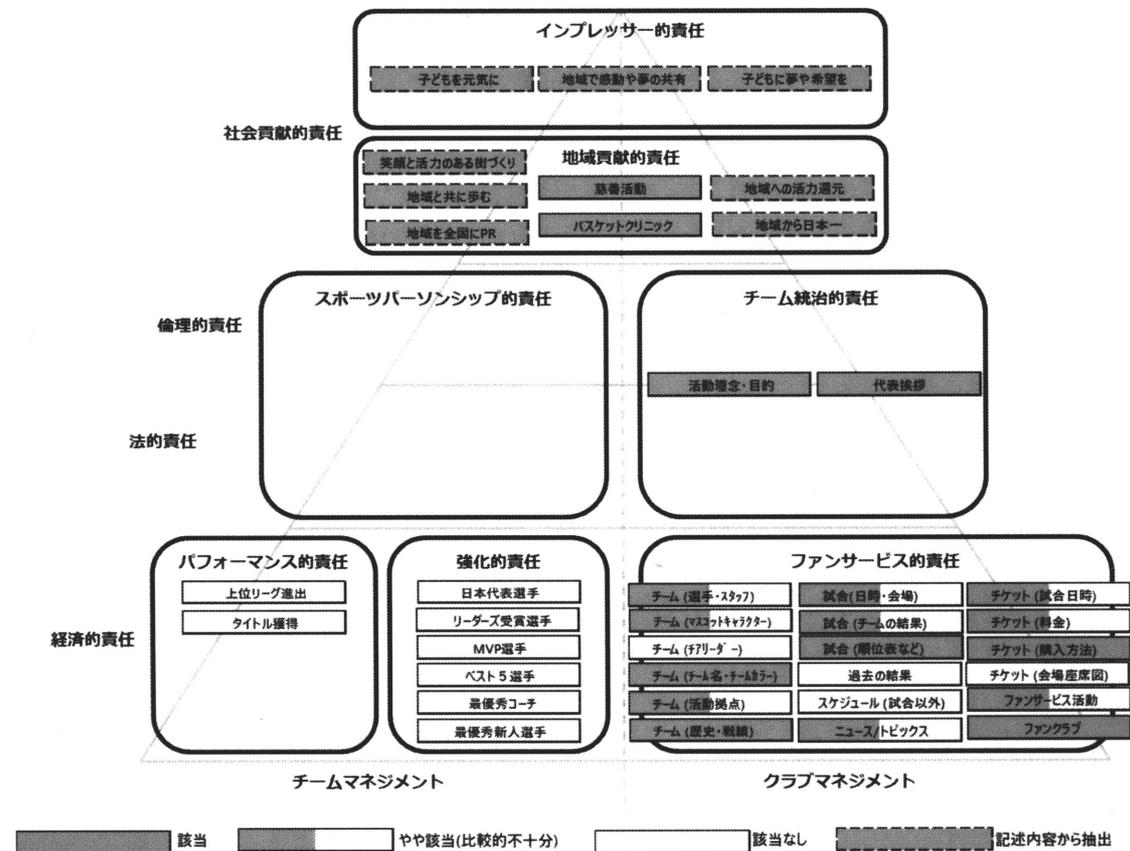


図20. 羽田ヴィッキーズにおけるスポーツの社会的責任

第 10 項 日立ハイテククーガーズ

図 21 は、日立ハイテククーガーズの基本理念、事業内容、ウェブサイトのコンテンツから得られた情報を大西のプロスポーツチームの社会的責任の概念モデル<sup>82)</sup>に付置させたものである。

インプレッサー的責任に該当する表記があったが、「会社のシンボルスポーツとして従業員とともに歩んできた」ことを明確に表記していた。チームを保有する親会社の本社にて、各所属部署へ行き、職場の仕事を体験した様子を公開していた。

試合情報の詳細に関しては、WJBL の公式サイトへのリンクがあるためページを移動することで確認できるようになっていた（添付資料 3）。チケット情報の提供は行われていなかった（添付資料 3）。

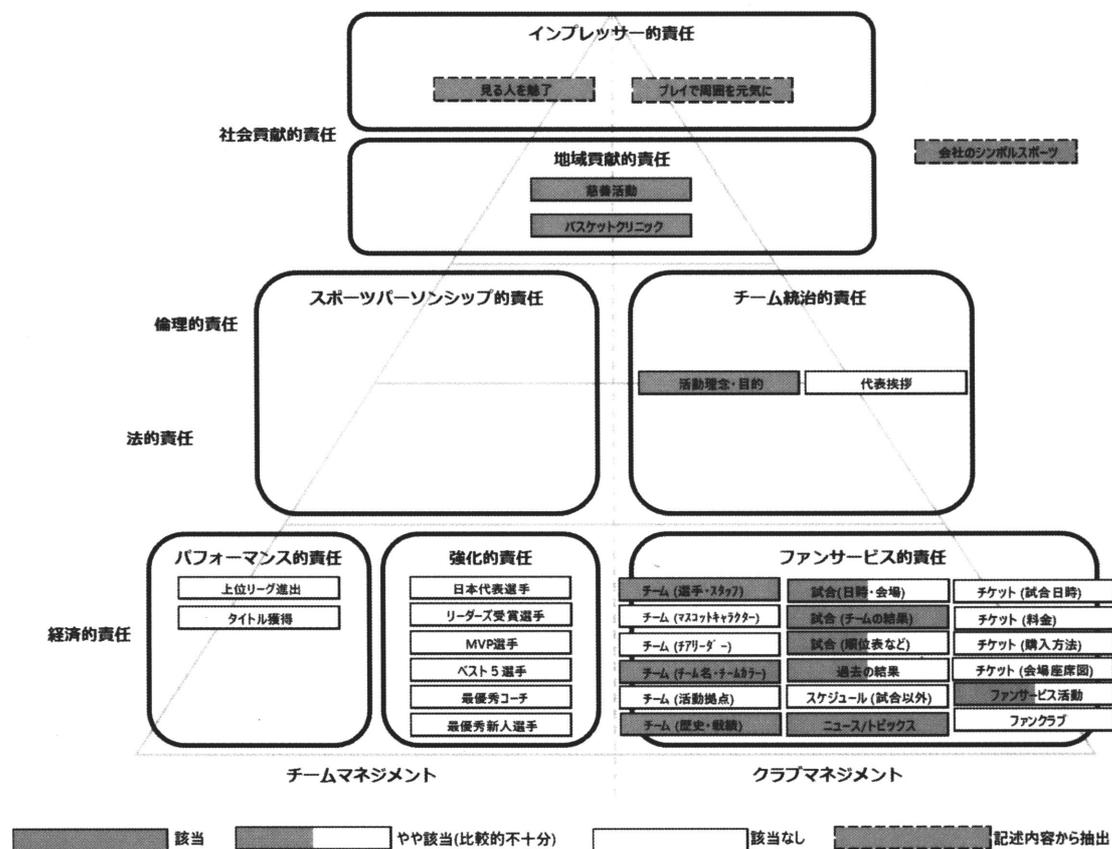


図 21. 日立ハイテククーガーズにおけるスポーツの社会的責任

第 11 項 新潟アルビレックス BB ラビッツ

図 22 は、新潟アルビレックス BB ラビッツの基本理念、事業内容、ウェブサイトのコンテンツから得られた情報を大西のプロスポーツチームの社会的責任の概念モデル<sup>82)</sup> に付置させたものである。

クリニック活動を積極的に展開しており、クリニックを行う上での理念を詳細に掲げていた (添付資料 6)。

また、12 チームで唯一、会場座席図を公開していた (添付資料 3)。

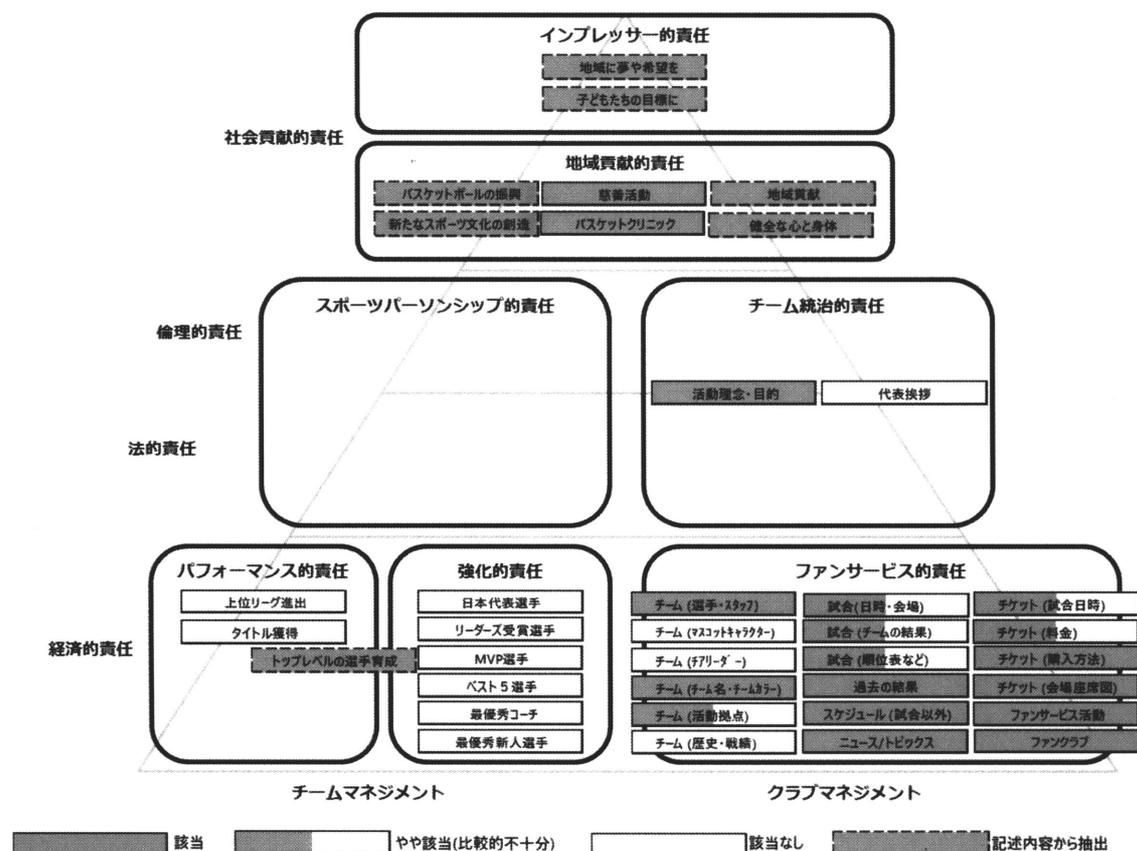


図 22. 新潟アルビレックス BB ラビッツにおけるスポーツの社会的責任

第 12 項 山梨クィーンビーズ

図 23 は、山梨クィーンビーズの基本理念、事業内容、ウェブサイトのコンテンツから得られた情報を大西のプロスポーツチームの社会的責任の概念モデル<sup>82)</sup>に付置させたものである。

山梨クィーンビーズは、2014 年の W リーグ参戦を見送っており、クラブ存続が危ぶまれていた時期がある。そのため、チームの立て直しを図るためのクラブマネジメントやチームマネジメントに関する「再建計画」を作成し、ウェブサイト上で公開していた(添付資料 4)。チーム統治的責任に関する項目が多く見られるのはそのためである。

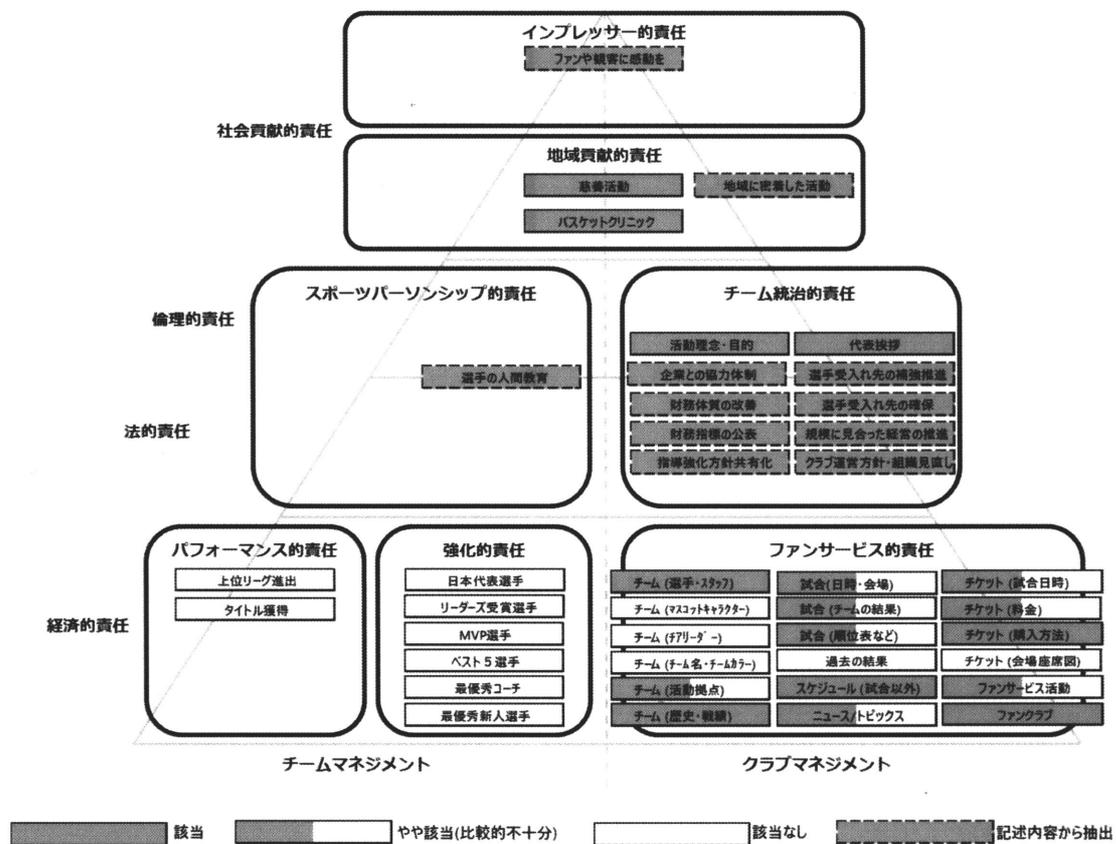


図 23. 山梨クィーンビーズにおけるスポーツの社会的責任

### 第3節 WJBL所属チームの親企業

#### 第1項 JXホールディングス株式会社

図24は、JX-ENEOS サンフラワーズ保有する親会社であるJXホールディングス株式会社のCSRをCarrollのCSRの概念モデル<sup>13)</sup><sup>14)</sup>に付置させたものである。

地域社会とのかかわりに関する「スポーツの振興」にチームを位置付けていた。

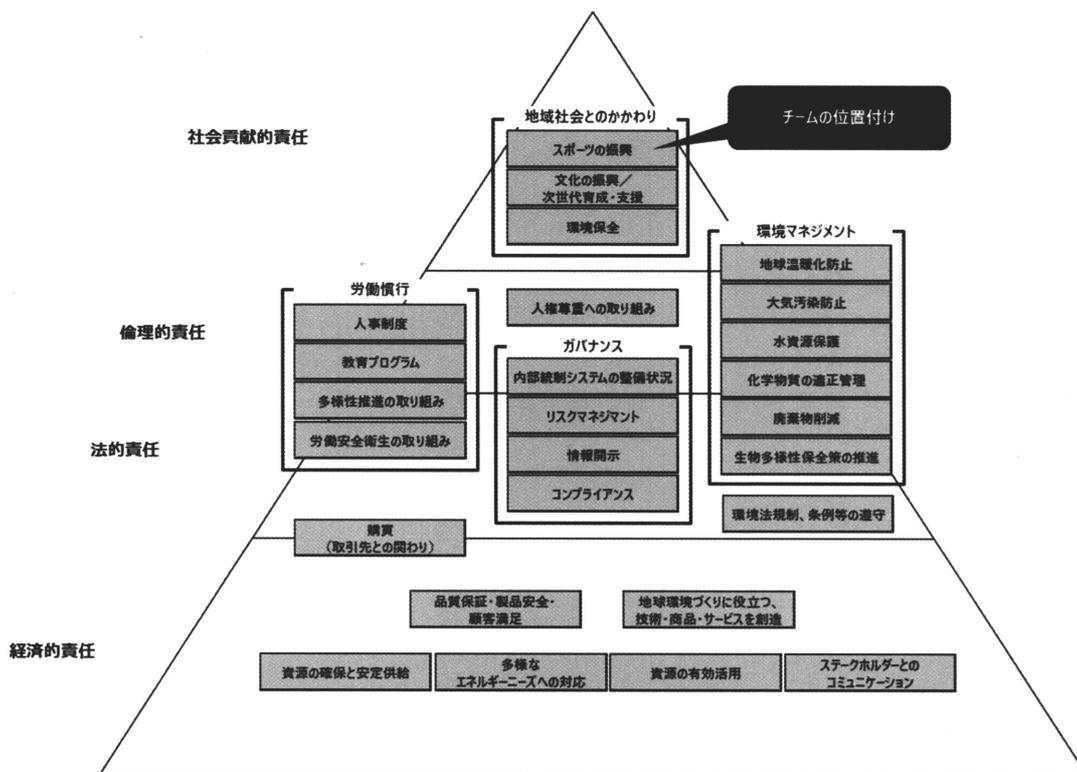


図24. JXホールディングスにおける社会的責任

#### 第2項 富士通株式会社

図25は、富士通レッドウェーブを保有する親企業である富士通株式会社のCSRをCarrollのCSRの概念モデル<sup>13)</sup><sup>14)</sup>に付置させたものである。

ステークホルダーとの対話と協力に関する「社会との共生」に、チームを通じた活動を位置付けていた。

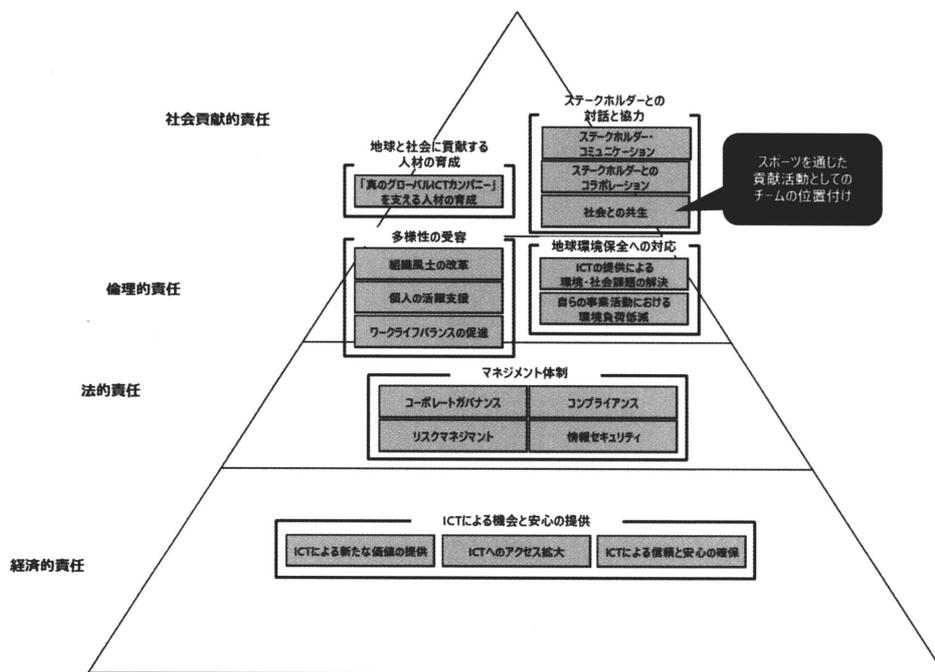


図 25. 富士通株式会社における社会的責任

### 第 3 項 株式会社シャンソン化粧品

図 26 は、シャンソン化粧品シャンソン V マジックを保有する親企業である株式会社シャンソン化粧品の CSR を Carroll の CSR の概念モデル<sup>13) 14)</sup> に付置させたものである。

CSR に関する記載が見当たらず、チームの位置づけも明記されていなかった。

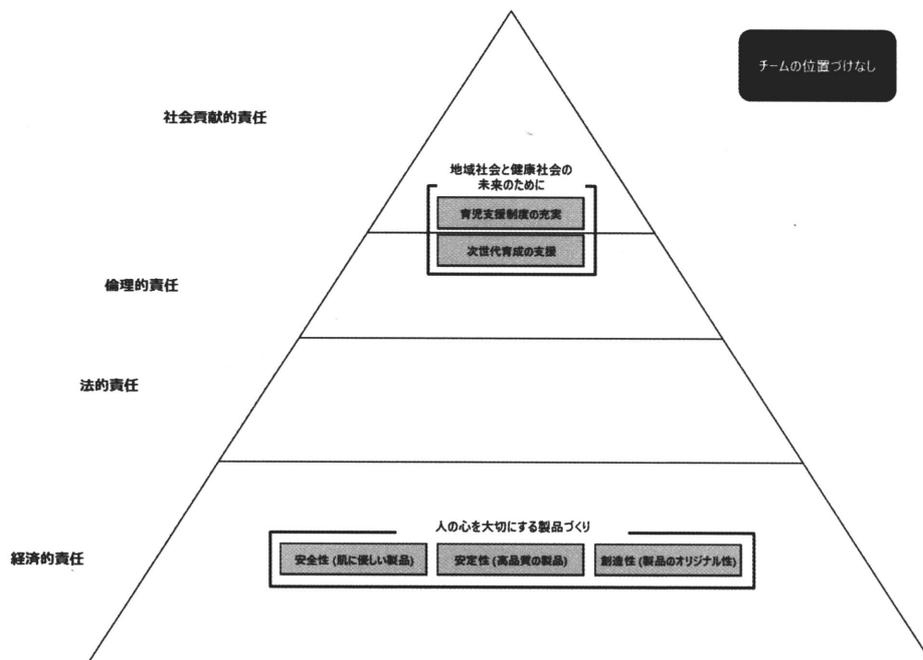


図 26. 株式会社シャンソン化粧品における社会的責任

第4項 株式会社デンソー

図27は、デンソーアイリスを保有する親企業である株式会社デンソーのCSRをCarrollのCSRの概念モデル<sup>13)</sup><sup>14)</sup>に付置させたものである。

CSRに関する記載の中にはチームの位置づけはなかった。

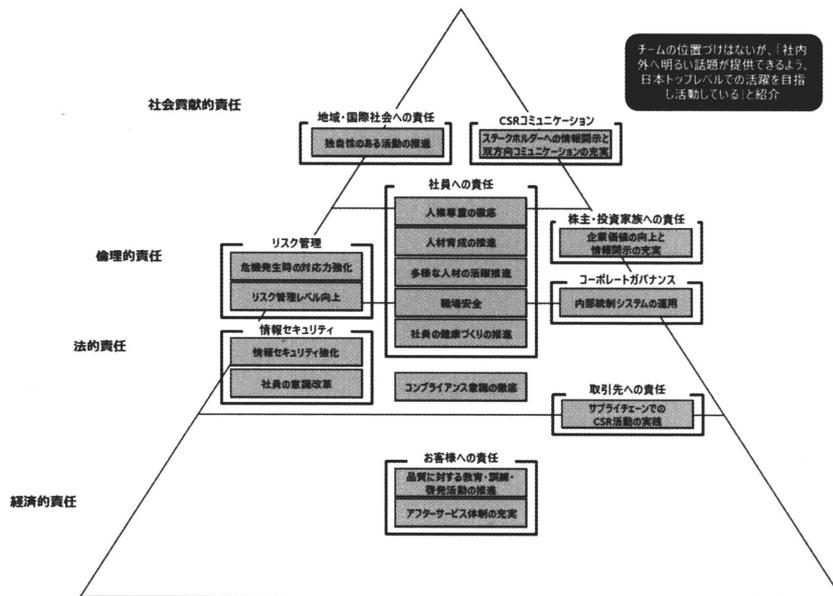


図27. 株式会社デンソーにおける社会的責任

第5項 トヨタ自動車株式会社

図28は、トヨタ自動車アンテロープスを保有する親企業であるトヨタ自動車株式会社のCSRをCarrollのCSRの概念モデル<sup>13)</sup><sup>14)</sup>に付置させたものである。

地域社会への貢献としてチームを位置付けていた。

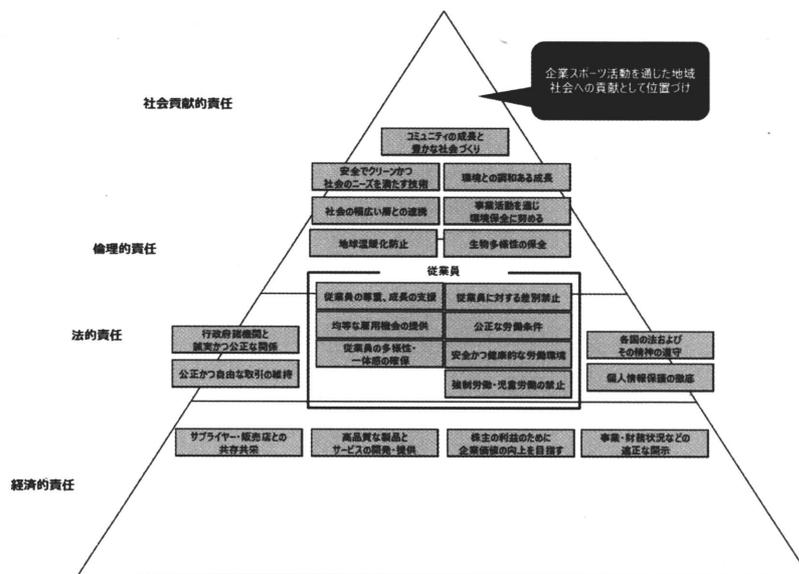


図28. トヨタ自動車株式会社における社会的責任

## 第6項 トヨタ紡織株式会社

図29は、トヨタ紡織サンシャインラビッツを保有する親企業であるトヨタ紡織車株式会社のCSRをCarrollのCSRの概念モデル<sup>13)</sup><sup>14)</sup>に付置させたものである。

CSRに関する記載の中にチームの位置づけはなかった。

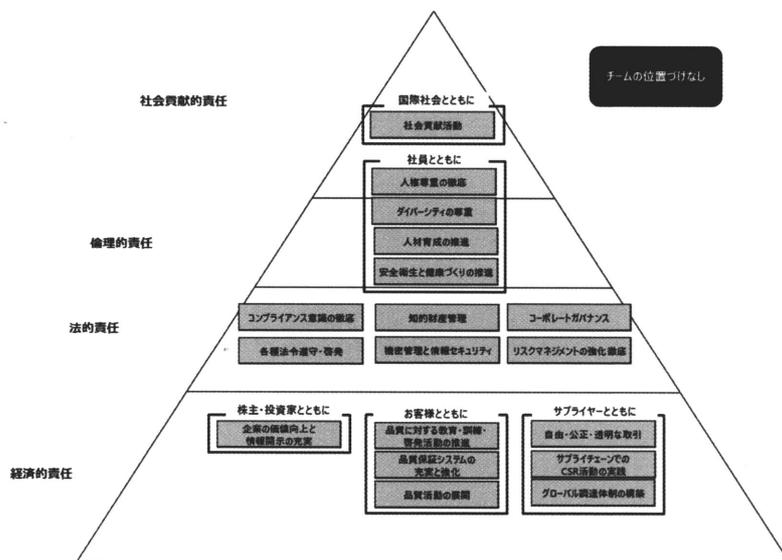


図29. トヨタ紡織株式会社における社会的責任

## 第7項 三菱電機株式会社

図30は、三菱電機コアラーズを保有する親企業である三菱電機株式会社のCSRをCarrollのCSRの概念モデル<sup>13)</sup><sup>14)</sup>に付置させたものである。

社会貢献に関する「次世代の人材を育む活動」としてチームの活動を紹介していた。

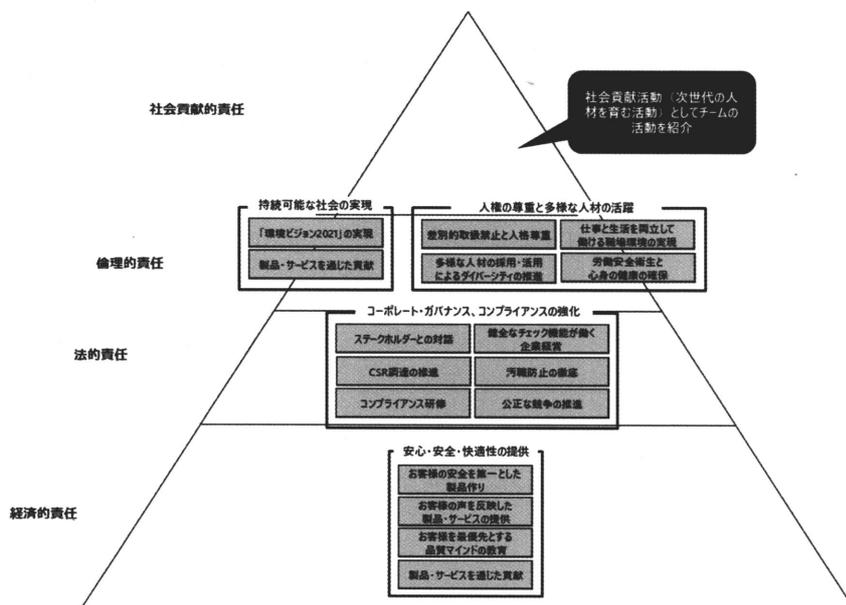


図30. 三菱電機株式会社における社会的責任

第8項 アイシン・エイ・ダブリュ株式会社

図31は、アイシン・エイ・ダブリュウイングスを保有する親企業であるアイシン・エイ・ダブリュ株式会社のCSRをCarrollのCSRの概念モデル<sup>13) 14)</sup>に付置させたものである。

社会とのかかわりに関する「青少年育成」にチームを位置付けていた。

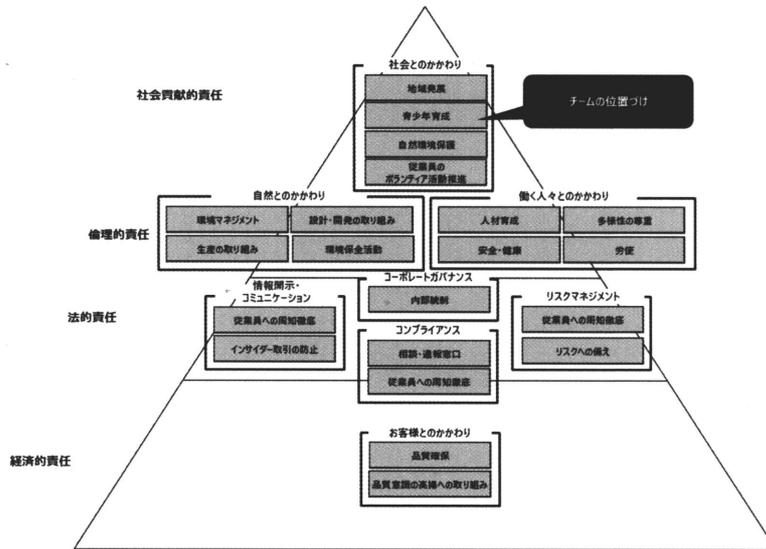


図31. アイシン・エイ・ダブリュ株式会社における社会的責任

第9項 株式会社日立ハイテクノロジーズ

図32は、日立ハイテックカーガーズを保有する親企業である株式会社日立ハイテクノロジーズのCSRをCarrollのCSRの概念モデル<sup>13) 14)</sup>に付置させたものである。「地域社会との共生」にチームを位置付けていた。

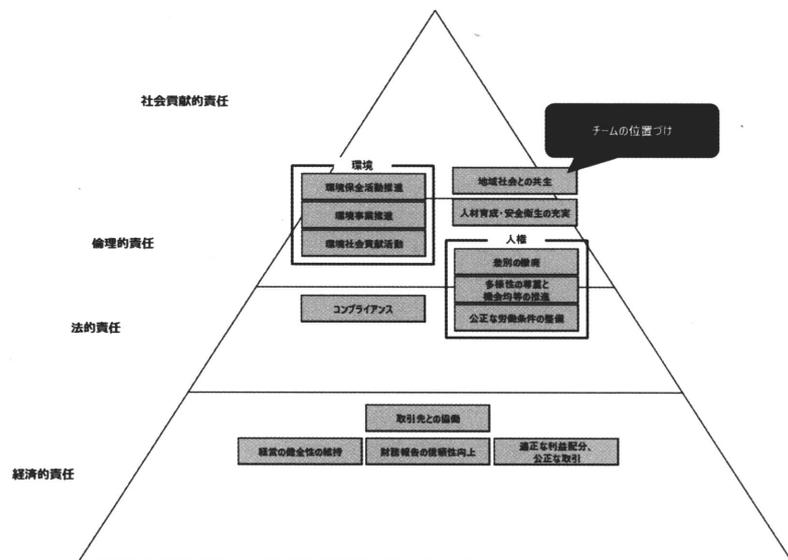


図32. 株式会社日立ハイテクノロジーズにおける社会的責任

## 第5章 考察

### 第1節 WJBL、WJBL所属チーム、WJBL所属チームを保有する親企業のCSRの特徴はどのようなものか

本研究の最初のリサーチクエスションである「WJBL、WJBL所属チーム、WJBL所属チームを保有する親企業のCSRの特徴はどのようなものか」について考察する。

#### 第1項 WJBLのCSRの特徴

まず初めに、WJBLのCSRの特徴について述べる。WJBLにおいては、7つの責任すべてに該当する内容、もしくはコンテンツの提供が行われており、とりわけスポーツパーソンシップ的責任、チーム統制的責任を十分に満たすものであった。選手を管理する立場として、バスケットボールの技術面だけでなくさまざまな視点から選手をサポートするという体制は重要であり、今後も求められると考えられる。また、WリーグのOGやかつての日本代表選手を講師にした総合的なクリニックを全国で行うなど、精力的に社会貢献活動を行っている。しかしながら、リーグとしてそのような取り組みをしているにも関わらず、ウェブサイト上ではニュースの一覧でリリースされているのみであり、ニュース一覧を受け手側が自力で辿らなければ伺い知ることはできない状況であった。このことは、自らの果たす社会的責任を外部へアピールする機会を逃していると考えられる。

また、Wリーグの試合は地方協会に運営を担っている場合が多いことから、開催地によってチケットの情報開示に差があり、チケットを購入するためのサービスは充実しているとは言えない現状が明らかとなった。このことは皮肉にも、WJBL設立時に掲げた「各地方協会と連携を密にし、共存共栄をもって、全国各地で開催していく」としたWJBLの理念を体現することによる代償となっていると考えられる。

#### 第2項 WJBL所属チームのCSRの特徴

次に、WJBL所属チームのCSRの特徴について述べる。WJBL所属チームでは、昨シーズンの下位5チームは本研究で設定したパフォーマンス的責任、強化的責任の項目にほぼ該当がなく、チームマネジメントにおける経済的責任という部分で戦力に苦しむ厳しい状況であることが伺えた。

また、全12チーム中6チームにチケット情報の提供が一切なく、その全てが企業チームであった。このことは、チケットを買ってもらわなければビジネスとして成り立たないプロスポーツとは違い、Wリーグがこれまでチケットを買ってもらう必要のない層（親企業の関係社員や、学校の先生からチケットを譲渡された子どもたち）によっていかに支えられてきたかということを示すものであったと考えられ、企業スポーツクラブが「経営的には私的なクラブの域を出ていない。」(p.135)<sup>93)</sup>とされる指摘を裏付けるものであると考えられる。

また、JX-ENEOS サンフラワーズを除いた 9 社中 8 つの企業チームはファンクラブを運営していないことや、リーグ戦の開幕前に実施している壮行会などは親企業の社内にて社員を対象としたものであった。顕著な例としては、社員の子供をファンサービスイベントであるエスコートキッズにするなど「内向き」と捉えられる運営が目立っていた。バスケットボールクリニックに関しては、その活動をまとめているページがあるチームとないチームがあり、情報の見つけやすさに差があることが分かった。活動報告の内容は、写真付きで練習メニューを記載し参加した選手のコメントを載せるなど丁寧に行っているケースが多いものの、「ニュース/トピックス」の一覧に全ての情報が混在しており、過去の情報も探しにくいいためウェブサイト上での情報開示の仕方には大いに改善の余地があると考えられる。

### 第 3 項 WJBL 所属チームを保有する親企業の CSR の特徴

最後に、WJBL 所属チームを保有する親企業の CSR の特徴について述べる。WJBL 所属チームを保有する親企業の CSR の特徴は、自社の理念を実践するために、「製品の提供」「ガバナンス」「従業員」「環境」「社会貢献」といったことを大まかな取り組みとしており、すべての社会的責任に該当する項目が多く見られた。

また、CSR の一つである「社会との共生」のために、保有チームの行うバスケットボールクリニック活動を CSR の一つと位置付けている会社が 9 社中 6 社あり、近年の企業スポーツを CSR として捉え始めた傾向が明らかとなった。

## 第 2 節 WJBL、WJBL 所属チーム、WJBL 所属チームを保有する企業という 3 者の関係性はどのようなものか

本研究の第二のリサーチクエスションである「WJBL、WJBL 所属チーム、WJBL 所属チームを保有する企業という 3 者の関係性はどのようなものか」について考察する。

### 第 1 項 WJBL と WJBL 所属チームとの関係性

はじめに、WJBL と WJBL 所属チームとの関係性について述べる。

WJBL はスポーツパーソンシップ的責任、チーム統制的責任の範囲でチームが果たし切れていない分を補う形となっていることは、選手やチームを管理するリーグにとって社会的に大きな責任を担っていることとなる。

また、実際のリーグがプロダクトとするのは選手やチームそのものであり、リーグにとってはチームの強化や選手の技術向上に努めることを責任としている。しかし、前述したように、リーグとして戦力均衡を図る取り組みの導入は、企業クラブを抱えるリーグにとっては親企業との制度的な問題により困難<sup>94)</sup>である。以上のことから、この社会的責任をどのような形で果たすかというところは大いに検討すべきであると考えられる。

社会貢献的責任については WJBL もチームも近い理念を掲げて取り組んでいるが、その活動はそれぞれで独立しているものが多く、WJBL に所属しているチームとして共通の理念を持って実行されているものではなかった。各々の組織が、なぜその活動を行っているか、なぜ行うべきかを共通した理念を通して大きく社会にアピールすることによって、WJBL とチームの価値を社会に示すことが出来ると考えられる。

リーグ戦の開催については、前述した通り、多くの試合の運営を開催地の地方協会が担ってきた。このことは WJBL とチームのウェブサイトのチケット情報の不足というお互いにとってファンサービスの責任を果たせない要因となっていると考えられる。

「W リーグ」の試合の質を高めるブランディングに結びつけるために、WJBL の公式サイトでのチケット情報を充実させ、各チームのウェブサイトはるなど、より一層の工夫を凝らす必要がある。

## 第 2 項 WJBL と WJBL 所属チームの親企業との関係性

続いて、WJBL と WJBL 所属チームの親企業との関係性について述べる。

WJBL と WJBL 所属チームの親企業との関係性については、企業が所有するチームをリーグに預けているという点で、WJBL は企業からの大きな責任を担っているが、企業がなぜ WJBL を通して社会的責任を果たすべきなのかというところまでは踏み込んでおらず、チームの行う地域貢献活動（バスケットボールクリニック）にその責任を頼っている。しかし、それはあくまで記載がないだけであり、暗黙的に認められている可能性を否定できない。

## 第 3 項 WJBL 所属チームとそのチームを保有する親企業との関係性

最後に、チームと企業の関係性について述べる。

上述したように、企業は社会的責任の一つとして「社会との共生」を掲げており、企業は自身の保有するチームを社会貢献的責任のひとつとして位置づけていることが明らかとなったが、そのことをチームからも明確に示しているのは JX-ENEOS サンフラワーズのみであった。しかし、その他のチームも地元の学校を訪問し、バスケットボール経験者だけでなく体育の授業の時間に指導を実施するといった事実があった。近年、学校の顧問の教員の状況や生徒のニーズ等によっては、当該スポーツ種目の技術的な指導は、地域などでの優れた指導力を有する外部指導者が中心となって行うことも求められているため<sup>3) 66)</sup>、こうした社会問題にチームを通して向き合うことで、結果的に（もしくは意図的に）社会貢献的責任を果たしていると考えられる。その一方で、チームによっては社内関係者のみで壮行会を行うなど社員向けの活動がたびたび見受けられ、企業のためのチームという色を拭えていない現状もあった。このことは、支援してくれている企業への恩返しや、従業員の一休感の醸成という企業スポーツ本来の姿であるが、チームが企業の社員向けにばかり熱心に活動することや、WJBL 全体の発展を考えず

ファンのためのサービスに力を入れないことは、長期的に見れば企業のためにはならないとも考えられる。WJBL 所属チームを保有する親企業の中には、「ステークホルダーとの関わり」といったキーワードを理念に掲げる企業が多く見られる。こうしたことから、企業は自身が保有するチームにおいても、企業のためだけではなく多様なステークホルダーの期待に応えることで、チームが会社の理念を実現する手段の一つになり得ると考えられる。

## 第6章 結論

### 第1節 研究の概要

本研究の目的は、WJBL の価値向上に寄与するため、先行研究および資料の整理・検討を行うことで、WJBL 所属チーム、WJBL 所属チームの親企業のマネジメントにおける特徴を CSR の観点から実証的に明らかにすることであった。そのため、WJBL、WJBL 所属チーム、WJBL 所属チームの親企業の各ウェブサイトから、組織の活動内容や理念などを抽出し、大西のプロスポーツチームにおける社会的責任の概念モデル<sup>82)</sup>、Carroll の社会的責任の概念モデル<sup>13) 14)</sup> にデータを付置させ内容分析を行った。

本研究での内容分析の結果、WJBL は 7 つの社会的責任すべてに該当する内容、もしくはコンテンツの提供が行われており、WJBL 所属チームで明記の少なかった社会的責任を補う形となっていることが明らかとなった。WJBL 所属チームを保有する親企業 9 社の中には、保有チームの行うバスケットボールクリニック活動を CSR の一環として位置付けている企業が 6 社あったことから、近年の企業スポーツを CSR として捉え始めた傾向が明らかとなった。しかしながら、親企業と WJBL との間に具体的な関係性は確認できないことから、親企業は保有チームの活動にその社会的責任を一任しているのみであり、親企業が WJBL を通して社会的責任を果たそうとするところまでは踏み込んでいないことが明らかとなった。

本研究では、ウェブサイトという消費者視点からの、WJBL とそれを取り巻く組織のマネジメントの現状が明らかになった。WJBL は、自組織や WJBL に所属するチーム、企業の取り組みの実態を把握し WJBL が設立時に掲げた理念を実行することの代償となっている部分を理解し改善することが必要であり、それと同時に「良い行い」を、社会に発信することで組織の強みにし、さらに、ウェブサイトでの情報発信を社会に認知されやすいよう工夫することで更なる価値向上に繋げられる可能性が示唆された。WJBL 所属チームを保有する親企業は、WJBL とそれが生み出す価値を認識し積極的に支持することで、企業にとって社会的に有益なものとなり得る可能性が示唆された。

### 第2節 研究の限界

#### 第1項 データの抽出と理論付置の方法

本調査で最も留意しなければならなかった点は、データの抽出やそのデータを理論へ

付置させるにあたって、先行する事例が存在しないことから、恣意的な判断に頼らざるを得なかったということである。各組織にとっては、本研究でのデータの抽出や理論への付置の方法が自身の思惑とは異なっている可能性があると考えられる。また、その組織の理念や活動を実行しているかどうかは、「評価」されて明らかになるものであり、本研究のように組織からの発信のみを頼った場合、実行していないに等しい場合でもそれを疑いなくくみ取ってしまった可能性があると考えられる。一方、それぞれの責任の項目に該当する情報を抽出することが出来なかったとしても、それは「ウェブサイトには載っていなかった」という事実であり、各組織がその社会的責任を必ずしも果たしていない（考えを持っていない）と言いきることは出来ない。

## 第2項 データの抽出範囲

WJBL所属チームには、公式 SNS でも情報を配信しているチームがあった。しかし、本研究では直接 SNS へのリンクが貼られてアクセスされる場合を除き、SNS で公開されている内容までは調査に踏み込まなかった。そのため、チームの取り組む活動の全てを網羅することは出来なかったと言える。それに関連して、トヨタ自動車アンテロープスの実施していたピンクリボン運動は、Facebook でもその様子を公開しており、募金活動の結果報告や親会社の社長室による活動の意義の説明や感謝のメッセージが寄せられていることが見受けられた。このことは、親会社が社会問題に対してチームの力を通じて向き合い、社会に対する大きなアピールに繋がっている一例とも考えられる。

## 第3節 今後の課題

### 第1項 ウェブサイトの評価

本研究では、ウェブサイトの評価が目的ではなかったため、「ウェブサイトを充実させること」自体を包括的なファンサービスとして社会的責任の一環と捉えることはしなかった。しかし、今後ウェブサイトを充実させることで更なる価値向上につなげられる可能性が示唆されたことを踏まえると、消費者とコミュニケーションを図るなどをしてウェブサイト内の情報の充実度や探しやすさなどを様々な形で評価・検討する必要があると考えられる。

### 第2項 図としての結果表示

本研究では、得られたデータを理論へ付置させる際に、単語の多さがその責任を大いに果たしているように見えてしまうといったことが考えられる。そのため、得られたデータをどのように解釈し、図として表すかということは、今後検討する必要があると考えられる。

### 第3項 概念モデルの妥当性の検討

本研究で使用した「プロスポーツチームにおける社会的責任」の概念モデルは、大西<sup>82)</sup>も指摘したように、プロスポーツチームに対して期待や失望する行動や結果をファンに尋ねて構築した概念モデルであり、スポンサー企業などファン以外のステークホルダーからの社会的責任については言及することができなかつた。そして、この概念モデルは「他のスポーツ組織にも適用可能なもの」(p.19)<sup>82)</sup>とされているが、本研究では企業スポーツにおいて考慮しなければならない点を差し置いて理論付置を行った可能性がある。そうしたことを踏まえ、今後はさらにこの概念モデルへの応用の妥当性の検証が必要となると考えられる。

### 第4項 質的研究の必要性

本研究では、CSRの決定要因にまでは踏み込むことが出来なかつた。今回の結果を基に、それぞれの社会的責任の内容については、各組織の意思決定者にインタビュー調査をするなどの質的研究によって、CSRに対する具体的な認識や関係性を調査するとともに他のスポーツ組織との比較・検証が必要である。

#### 引用・参考文献一覧

- 1) アイシン・エイ・ダブリュ株式会社公式企業サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://www.aisin-aw.co.jp/>
- 2) アイシン・エイ・ダブリュウイングス公式サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://www.aisin-aw.co.jp/08wings/>
- 3) 青柳健隆, 石井香織, 柴田愛, 荒井弘和, 深町花子, & 岡浩一朗. (2015). 運動部活動での外部指導者活用推進に向けた組織の取り組み事例. *体育学研究*, 60(1), 267-282.
- 4) Babiak, K., & Wolfe, R. (2006). More than just a game? Corporate social responsibility and Super Bowl XL. *Sport Marketing Quarterly*, 15(4), 214.
- 5) Babiak, K., & Wolfe, R. (2009). Determinants of corporate social responsibility in professional sport: Internal and external factors. *Journal of Sport Management*, 23(6), 717.
- 6) Babiak, K.(2010). The role and relevance of corporate social responsibility in sport: A view from the top. *Journal of Management & Organization*, 16(04), 528-549. p532
- 7) Babiak, K., & Trendafilova, S. (2011). CSR and environmental responsibility: motives and pressures to adopt green management practices. *Corporate social responsibility and environmental management*, 18(1), 11-24.
- 8) Baron, D. P. (2001). Private politics, corporate social responsibility, and integrated strategy. *Journal of Economics & Management Strategy*, 10(1), 7-45.
- 9) bjリーグ公式サイト. (n.d.). bjリーグ宣言. Retrieved November 15, 2016 from <http://www.bj-league.com/declaration.html>
- 10) bjリーグ公式サイト. (n.d.). 会社概要. Retrieved December 15th from <http://www.bj-league.com/about.html>
- 11) Breitbarth, T., & Harris, P. (2008). The role of corporate social responsibility in the football business: Towards the development of a conceptual model. *European Sport Management Quarterly*, 8(2), 179-206.
- 12) Brown, T. J., & Dacin, P. A. (1997). The company and the product: Corporate associations and consumer product responses. *The Journal of Marketing*, 68-84.
- 13) Carroll, A. B. (1979). A three-dimensional conceptual model of corporate performance. *Academy of management review*, 4(4), 497-505.
- 14) Carroll, A. B. (1991). The pyramid of corporate social responsibility: Toward the moral management of organizational stakeholders. *Business horizons*, 34(4), 39-48.
- 15) Carroll, A. B. (1999). Corporate social responsibility evolution of a definitional

- construct. *Business & society*, 38(3), 268-295.
- 16) シャンソン化粧品 シャンソン V マジック公式サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://vmagic.chanson.co.jp/>
  - 17) Cheng, B., Ioannou, I., & Serafeim, G. (2014). Corporate social responsibility and access to finance. *Strategic Management Journal*, 35(1), 1-23.
  - 18) Crane, A., McWilliams, A., Matten, D., Moon, J., & Siegel, D. S. (2008). The corporate social responsibility agenda.
  - 19) デンソーアイリス公式サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://www.denso-iris.jp/>
  - 20) Elkington, J. (1997). Cannibals with forks. The triple bottom line of 21st century.
  - 21) Ferrand, A., & Pages, M. (1999). Image management in sport organisations: the creation of value. *European Journal of Marketing*, 33(3/4), 387-402.
  - 22) FIBA タスクフォース「JAPAN 2024 TASKFORCE」. (2015). Retrieved March 17, 2016 from <http://www.japan2024.jp/press/150128.html>
  - 23) 富士通株式会社公式企業サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://jp.fujitsu.com/>
  - 24) 富士通レッドウェーブ公式サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://sports.jp.fujitsu.com/redwave/>
  - 25) 福田拓哉. (2010). 企業スポーツにおける運営論理の変化に関する史的考察-日本の経営・アマチュアリズム・マスメディアの発達を分析視座として.
  - 26) Glynn, R. W., Kelly, J. C., Coffey, N., Sweeney, K. J., & Kerin, M. J. (2011). The effect of breast cancer awareness month on internet search activity-a comparison with awareness campaigns for lung and prostate cancer. *Bmc Cancer*, 11(1), 1.
  - 27) Godfrey, P. C., Merrill, C. B., & Hansen, J. M. (2009). The relationship between corporate social responsibility and shareholder value: An empirical test of the risk management hypothesis. *Strategic Management Journal*, 30(4), 425-445.
  - 28) 羽田ヴィッキーズ公式サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://vickies.jp/>
  - 29) 原田宗彦. (2009). スポーツ統括組織の改革—バスケットボール. *月刊体育施設*, 38(12), 34-35
  - 30) 原田宗彦. (2010). バスケットボール界の企業チームとプロチーム. *体育の科学*, 60(5), 309-313, p309
  - 31) 平田竹男. (2012). スポーツビジネス 最強の教科書. 東洋経済新報社.
  - 32) 日立ハイテククーガーズ公式サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from

- <http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/ad/sponsor/cougars/>
- 33) Hsieh, H. F., & Shannon, S. E. (2005). Three approaches to qualitative content analysis. *Qualitative health research*, 15(9), 1277-1288.
  - 34) 飯田康二. (2014). あらためて知る日本バスケット界の現状と問題～求められる改革の実行と徹底した情報公開. *Sportsnavi*, Retrieved November 10, 2014 from <http://sportsnavi.yahoo.co.jp/sports/basket/all/2014/columndtl/201411100003-sportsnavi>
  - 35) 井上雅雄. (2009). 職業としてのアスリートとプロスポーツの諸問題 (特集 企業スポーツの変容と今日的課題). *スポーツ社会学研究*, 17(2), 33-47.
  - 36) 井上雄平, & 佐藤幹寛. (2010). 北米スポーツマネジメント学会 2010 年度大会の研究動向. *スポーツマネジメント研究*, 2(2), 179-184.
  - 37) 石井智. (2006). スポーツの価値と企業政策—「CSR」の視点から—. *同志社政策科学研究*, 8(1), 135-147.
  - 38) 時事通信. (2016). 通用した速さと連係＝メダル争いは東京で. Retrieved September 10th, 2016 from <http://www.jiji.com/jc/article?k=2016081700658&g=sports>
  - 39) JX-ENEOS サンフラワーズ公式サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://www.jx-group.co.jp/sunflowers/>
  - 40) JX グループ公式企業サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://www.jx-group.co.jp/>
  - 41) 株式会社シャンソン化粧品公式企業サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://www.chanson.co.jp/>
  - 42) 株式会社デンソー公式企業サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://www.denso.co.jp/>
  - 43) 株式会社日立ハイテクノロジーズ公式企業サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://www.hitachi-hitec.com/>
  - 44) 菅野春菜. (2015). 日本バスケットボールリーグの観戦者調査～経験価値尺度を用いて～. 平成 26 年度順天堂大学スポーツ健康科学部卒業論文.
  - 45) 経済産業省. (2012). 最近の CSR を巡る動向について. Retrieved September 2nd, 2016 from [http://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei\\_innovation/kigyokaikei/pdf/csr\\_seisaku.pdf](http://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei_innovation/kigyokaikei/pdf/csr_seisaku.pdf)
  - 46) 北川和徳. (2010). 女子バスケットの名門 J A L ラビッツ、ラストシーズンの旅へ. *日本経済新聞*. Retrieved November 22, 2016 from <http://www.nikkei.com/article/DGXZZO10049460Z20C10A6000000/>
  - 47) 木村元彦. (2012). JBL と bj リーグの統合はなぜ進まないのか?. *Web Sportiva*. Retrieved November 19, 2014 from <https://sportiva.shueisha.co.jp/clm/>

- otherballgame/basketball/2012/10/04/192013nblnational\_basketball\_leaguenbl\_jbljblbj\_2008fibajblbj\_199320/index.php
- 48) 小林秀一. (2007). 企業スポーツの現状と求められる役割についての一考察. 愛知学院大学教養部紀要, 55(2), 35-47.
  - 49) 小永吉陽子. (2013). 自主興行リーグへと変化した NBL が開幕—2020 年のゴールへ向かう改革初年度. Sportsnavi. Retrieved November 19, 2014 from <http://sportsnavi.yahoo.co.jp/sports/basket/all/2013/columndtl/201310010004-snavi>
  - 50) 小永吉陽子. (2016). 女子バスケ W リーグ開幕! 「世界レベル」の競技力を見てもらうために. Web Sportiva. Retrieved October 9, 2016 from [https://sportiva.shueisha.co.jp/clm/otherballgame/basketball/2016/10/06/w\\_split/index.php](https://sportiva.shueisha.co.jp/clm/otherballgame/basketball/2016/10/06/w_split/index.php)
  - 51) Kramer, M. R., & Porter, M. (2011). Creating shared value. *Harvard business review*, 89(1/2), 62-77.
  - 52) Lockett, A., Moon, J., & Visser, W. (2006). Corporate social responsibility in management research: Focus, nature, salience and sources of influence. *Journal of management studies*, 43(1), 115-136.
  - 53) Luo, X., & Bhattacharya, C. B. (2006). Corporate social responsibility, customer satisfaction, and market value. *Journal of marketing*, 70(4), 1-18.
  - 54) 町田光. (2009). 日本のスポーツ経営の現状と取り組むべき優先課題—スポーツ経営における「ブランド」の重要性.
  - 55) Maignan, I., & Ralston, D. A. (2002). Corporate social responsibility in Europe and the US: Insights from businesses' self-presentations. *Journal of International Business Studies*, 33(3), 497-514.
  - 56) 眞崎昭彦. (2006). わが国における CSR (企業の社会的責任) の現状と課題—企業業績と CSR の関係を中心に. 高崎経済大学論集, 48(4), 157-170.
  - 57) Matten, D., & Crane, A. (2005). Corporate citizenship: Toward an extended theoretical conceptualization. *Academy of Management review*, 30(1), 166-179.
  - 58) Matten, D., & Moon, J. (2008). "Implicit" and "explicit" CSR: a conceptual framework for a comparative understanding of corporate social responsibility. *Academy of management Review*, 33(2), 404-424.
  - 59) McWilliams, A., Siegel, D. S., & Wright, P. M. (2006). Corporate social responsibility: Strategic implications. *Journal of management studies*, 43(1), 1-18.
  - 60) 三崎富査雄. (2016). 企業スポーツ調査のこれまでと、最近の動向. 大崎企業スポーツ財団第 8 回フォーラム資料, 野村総合研究所
  - 61) 三菱電機株式会社公式企業サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from

- <http://www.MitsubishiElectric.co.jp/>
- 62) 三菱電機コアラーズ公式サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://www.MitsubishiElectric.co.jp/basket/>
  - 63) 宮地陽子. (2014). FIBA 制裁、解除への道は？日本バスケが迎えた“危機”。～問われる協会の国内統括力～. Retrieved March 17, 2016 from <http://number.bunshun.jp/articles/-/822130>
  - 64) 文部科学省. (2008). 小学校学習指導要領解説 体育編. Retrieved March 17, 2016 from [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2011/01/19/1234931\\_010.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/19/1234931_010.pdf)
  - 65) 文部科学省. (2009). 中学校学習指導要領解説 保健体育偏. Retrieved March 17, 2016 from [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2011/01/21/1234912\\_009.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/21/1234912_009.pdf)
  - 66) 文部科学省. (2013). 運動部活動の在り方に関する調査研究報告書—一人一人の生徒が輝く運動部活動を目指して—.
  - 67) 森本三男. (1997). 企業社会責任の経営学的研究.
  - 68) 武藤泰明. (2013). プロスポーツクラブのマネジメント—戦略の策定から実行まで—. 東洋経済新報社
  - 69) 永田靖. (2013). 企業におけるスポーツ支援戦略に関して：企業スポーツの脆弱性（小林一広教授 退任記念号）. 広島経済大学経済研究論集= HUE journal of economics and business, 35(4), 65-74.
  - 70) 日本バスケットボール協会. (2012). 新リーグの概要. Retrieved November 19, 2014 from <http://www.japanbasketball.jp/newleague/outline/>
  - 71) 日本バスケットボール協会. (2015). 「国際資格停止処分」の正式解除が決定. Retrieved November 19, 2016 from <http://www.japanbasketball.jp/release/16009>
  - 72) 日本バスケットボール協会. (2016). 登録者数推移. Retrieved March 17, 2016 from <http://www.japanbasketball.jp/jba/data/enrollment/>
  - 73) 日本実業団バスケットボール連盟. (n.d.). 日本実連について. Retrieved November 14, 2016 from [http://jitsuren.jp/?page\\_id=108](http://jitsuren.jp/?page_id=108)
  - 74) 日本オリンピック委員会. (n.d.). バスケットボール. Retrieved November 19, 2016 from <http://www.joc.or.jp/sports/basketball.html>
  - 75) 新潟アルビレックス BB ラビッツ公式サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://www.albirexbb-rabbits.com/>
  - 76) 日刊スポーツ. (2014). 迷走…日本バスケ制裁へ. Retrieved March 17, 2016 from <http://www.nikkansports.com/sports/news/p-sp-tp0-20141030-1389271.html>
  - 77) 日刊スポーツ. (2016). 大神雄子 Wリーグ会見で捨て身の改革論. Retrieved

- October 9, 2016 from <http://www.nikkansports.com/sports/news/1719539.html>
- 78) 萩原愛一. (2005). 企業の社会的責任 (CSR)--背景と取り組み. 調査と情報, (476), 1-10.
  - 79) 岡田優介(2013) 新リーグ NBL について. 岡田優介のブログ. Retrieved November 19, 2014 from <http://yusukeokada.seesaa.net/article/285552674.html>
  - 80) 大西孝之, & 原田宗彦. (2008). プロスポーツチームが行う地域貢献活動の消費者に与える影響: 大学生のチーム・アイデンティフィケーションと観戦意図の変化に注目して. スポーツ科学研究 (5), pp253-268.
  - 81) 大西孝之. (2009). スポーツ・スポンサーシップにおける企業の社会的責任: CSR の知覚の先行要因と結果要因 早稲田大学審査学位論文博士 (スポーツ科学).
  - 82) 大西孝之. (2013). プロスポーツチームの社会的責任: テキストマイニングによる概念モデルの構築. 環境と経営: 静岡産業大学論集, 19(2), 1-20.
  - 83) 大崎企業スポーツ事業研究助成財団. (2013). 企業経営からみたスポーツ支援に関する調査: 米国東海岸地域の企業におけるスポーツ支援の実態調査: 報告書
  - 84) 大崎企業スポーツ事業研究助成財団. (2002). 日本における企業スポーツの選手の特性とその処遇に関する調査
  - 85) Orlitzky, M., Schmidt, F. L., & Rynes, S. L. (2003). Corporate social and financial performance: A meta-analysis. *Organization studies*, 24(3), 403-441.
  - 86) P.F.ドラッカー. (2001). マネジメント [エッセンシャル版]: 基本と原則. 上田惇生編訳, ダイヤモンド社,
  - 87) Pollach, I. (2005). Corporate self-presentation on the WWW: Strategies for enhancing usability, credibility and utility. *Corporate Communications: An International Journal*, 10(4), 285-301.
  - 88) Porter, M. E., & Kramer, M. R. (2002). The competitive advantage of corporate philanthropy. *Harvard business review*, 80(12), 56-68.
  - 89) Porter, M. E., & Kramer, M. R. (2006). The link between competitive advantage and corporate social responsibility. *Harvard business review*, 84(12), 78-92.
  - 90) 佐伯年詩雄. (2004). 現代企業スポーツ論. 2004 年 不昧堂出版.
  - 91) Saiia, D. H., Carroll, A. B., & Buchholtz, A. K. (2003). Philanthropy as strategy when corporate charity "begins at home". *Business & Society*, 42(2), 169-201.
  - 92) 左近允輝一. (2000). 復活のカギは社会貢献・地域密着・連携--不況で崩壊 企業スポーツ (下). 朝日総研レポート, (146), 111-130.
  - 93) 澤井和彦, & 広瀬一郎. (2007). スポーツ競技団体の雇用に関する調査研究. 情報と社会= *Communication & society*, 17.
  - 94) 澤井和彦. (2008). スポーツリーグのマネジメント. 原田宗彦・小笠原悦子編著

- [2008] 『スポーツマネジメント』 大修館書店: 第 7 章.
- 95) 澤井和彦. (2011). 日本型企业スポーツの制度と制度移行の課題に関する研究. スポーツ産業学研究, 21(2), 263-273.
- 96) 澤井和彦. (2014). バスケットボール・トップリーグの企業クラブとプロクラブにおける観戦型スポーツビジネスの制度設計に関する比較研究: プロパティ・ライセンス理論による分析. スポーツ産業学研究, 24(2), 2\_169-2\_184.
- 97) 澤野雅彦. (2005). 企業スポーツの栄光と挫折 (Vol. 39). 青弓社.
- 98) Schlereth, N., Scott, D., & Berman, S. (2014). The current state of corporate social responsibility behavior in national collegiate athletic association Division-I athletic departments. *Journal of Physical Education and Sports Management*, 1, 53-66.
- 99) Servaes, H., & Tamayo, A. (2013). The impact of corporate social responsibility on firm value: The role of customer awareness. *Management Science*, 59(5), 1045-1061.
- 100) Sheth, H., & Babiak, K. M. (2010). Beyond the game: Perceptions and practices of corporate social responsibility in the professional sport industry. *Journal of Business Ethics*, 91(3), 433-450.
- 101) Smith, A. C., & Westerbeek, H. M. (2007). Sport as a vehicle for deploying corporate social responsibility. *Journal of Corporate Citizenship*, 25(1), 43-54.
- 102) 杉山歌奈子, 畑攻, & 小野里真弓. (2002). 062 教 A03604 WJBL (バスケットボール女子日本リーグ機構) の観戦者における特性及び観戦者行動に関する研究. 日本体育学会大会号, (53), 378.
- 103) 杉山歌奈子, 小野里真弓, & 畑攻. (2003). 067 B20104 WJBL (バスケットボール女子日本リーグ機構) における観戦者のリピート行動. 日本体育学会大会号, (54), 425.
- 104) 高田一慶, 原田宗彦, & 備前嘉文. (2008). わが国の球技系トップリーグ観戦者に関する研究. スポーツ産業学研究, 18(1), 25-42.
- 105) 谷本寛治. (2002). 企業社会のリコンストラクション. 千倉書房. p287-288
- 106) トヨタ紡織株式会社公式企業サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://www.toyota-boshoku.co.jp/>
- 107) トヨタ紡織サンシャインラビッツ公式サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://tb-athlete.jp/basket/index.html>
- 108) トヨタ自動車アンテロプス公式サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://sports.gazoo.com/antelopes/>
- 109) トヨタ自動車株式会社公式企業サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://www.toyota.co.jp/>

- 110) Varadarajan, P. R., & Menon, A. (1988). Cause-related marketing: A coalignment of marketing strategy and corporate philanthropy. *The Journal of Marketing*, 58-74.
- 111) Walker, M., Sartore, M., & MacIntosh, E. (2012). BEYOND THE "BUSINESS CASE" FOR THE WNBA: A STRATEGIC PERSPECTIVES APPROACH FOR LEAGUE SUSTAINABILITY. *Journal of Contemporary Athletics*, 6(1), 33.
- 112) WJBL (バスケットボール日本リーグ機構) . (1998). 基本理念. バスケットボール女子日本リーグ機構 (略称: WJBL) 設立についての提案.
- 113) WJBL (バスケットボール日本リーグ機構) . (1998). 趣意書. バスケットボール女子日本リーグ機構 (略称: WJBL) 設立についての提案.
- 114) WJBL (バスケットボール女子日本リーグ機構) 第1回公式プログラム. (1998).
- 115) WJBL (バスケットボール女子日本リーグ機構) 第17回公式プログラム. (2015).
- 116) WJBL 公式サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://www.wjbl.org/>
- 117) WJBL 公式サイト.(2016). 各チームの開幕前コメント. Retrieved October 9, 2016 from <http://www.wjbl.org/topics/detail.html?id=1184>
- 118) WNBA. (2016). US Routs Japan 110-64, Advances To Women's Basketball Semis. Retrieved September 10th, 2016 from <http://www.wnba.com/news/us-routs-japan-110-64-advances-womens-basketball-semis/>
- 119) WNBA. (2016). Dolson: Japan Provides Strong Challenge, But U.S. Head And Shoulders Above The Rest. Retrieved September 10th, 2016 from <http://www.wnba.com/news/dolson-japan-provides-strong-challenge-u-s-head-shoulders-rest/>
- 120) 山梨クイーンビーズ公式サイト. (n.d.). Retrieved December 16th, 2016 from <http://www.yamanashi-queenbees.com/>
- 121) 山谷, 公基, & 丸山富雄. (2014). 企業スポーツの価値を高めるための取り組みに関する事例研究~ 人事労務管理施策上の効果に着目して~. *仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士論文集*, 15, 71-81.
- 122) 吉田政幸. (2010). 北米スポーツマネジメント学会 2009 年度大会の研究動向. *スポーツマネジメント研究*, 2(1), 57-62.

**Case Study of Value Improvement for Women's Japan Basketball League:  
Focusing on CSR in Sport**

Haruna Kanno

Juntendo University

**Abstract**

**Background**

Japan's Women's basketball finishing 8th at the 2016 Rio de Janeiro Olympics was praised around the world. Japan's national Women's basketball team, and WJBL (Women's Japan Basketball League) is highly competitive when compared to other leagues around the world. However, the popularity of the sport in Japan is still low. WJBL has evolved as a company sport, and in recent years it has become part of a company's CSR project. By clarifying the WJBL's organization, and the surrounding environment, this should increase the value of the WJBL.

**Purpose**

The purpose of this study was to increase the value of the WJBL by, 1) Reviewing and examining previous research, 2) Clarifying the characteristics of the WJBL, WJBL team, and companies that own the WJBL team, 3) Determining the importance of the existence of the WJBL team from a CSR standpoint.

**Method**

Data was collected from the search engine of the websites of the, 1) WJBL, 2) 12 WJBL teams, 3) 9 WJBL owning companies. The WJBL and WJBL team data was analyzed using Onishi's (2013) Corporate Social Responsibility model for professional sports teams. The data for the companies that own the WJBL team was analyzed using Carroll's (1979, 1991) The Pyramid of Corporate Social Responsibility.

**Results and discussion**

Based on the results, the WJBL league accounts for the players' social responsibility that the team does not account for. There was no solid relationship between the WJBL league and the companies that owned the team. The owner companies used the team as their CSR, but since they do not monitor the activities of the team they were not actively involved in fulfilling their Corporate Social Responsibility.

**Conclusion**

This study viewed the websites of the WJBL team, league, and owner companies from a consumer viewpoint, to better understand the current situation. The WJBL league and team needs to promote their own 'good-doing' in order to raise the value of the WJBL. The owner companies also need to acknowledge the value of the WJBL in order to better utilize the league to fulfill their Corporate Social Responsibility.

## 謝辞

順天堂大学大学院の修士課程で過ごした2年間はとても尊い時間でした。

6年前、私は、兼ねてより抱いていた夢を叶えるためにスポーツマネジメントという分野を勉強する手段があることを知りました。順天堂大学に入学すると、いくつもの幸せな機会に恵まれました。特に、指導教官である小笠原悦子先生と巡り合えたことはとても衝撃的で、この出会いこそが大きな機会だったとも言えますが、小笠原先生は私に「機会を逃さずに自分の力にする」という機会をたくさん与えてくださいました。大学時代からとても信頼していた小笠原先生に誘われ、大学院への進学という選択をしましたが、自分の成長には本当に必要なことだったと思います。本論文の執筆にあたっては、まず研究テーマである「社会的責任」という重いものを設定することは大きな挑戦でありました。正解のないものに立ち向かう難しさに、ここまで悩まされるとは思いませんでした。一人で悩み、もがいて、やっとわずかに見えたゴールにもそこに結びつくまでのプロセスが伝えられずまた悩む、という循環が常に頭の中で起こっていました。それでも、小笠原先生は、どんな時も熱意を持って鼓舞するように指導してくださり、自分で答えを出すことの大切さを気付かせてくださいました。本当に感謝をしています。

大学院では、課題と向き合うことで日々多くのことを深く考え、その考えを仲間と共有し、さらにそれを広げてくれる先生方がたくさんいらっしゃいました。特に、同じ研究室の先輩である渡邊夏美さん、村井裕貴さん、同期である北川純也さん、藤崎真琴さん、杉山愛さん、杉山走さんは、苦しいことも楽しいこともたくさん共有した大切な存在です。研究に励む私たちを常に温かく見守っていただいた伊藤真紀先生にも大変感謝をしています。アメリカでのスポーツツアーという刺激的な体験をする機会を与えていただき、論文執筆の参考になったのはもちろん、自分の人生にとってかけがえのない経験となりました。学会発表や研究を進めるにあたり丁寧に助言をして下さった河野洋さん、渡正先生、修士論文審査に携わっていただきました工藤康宏先生、大学の部活動の時からバスケット部として非常にお世話になった中嶽誠先生、その他にも、お話した回数は少なくとも、私の所属する研究室以外の先生方や順天堂大学職員の方々にも、いつも良くしていただき見守っていただいたことに、本当に感謝をしています。素晴らしい環境でした。こうしたすべての機会を手にすることが出来たのは、他ならぬ両親のおかげです。長い学生生活で、大変な心配をかけた時もありましたが、常に信じ支えてくれた両親に感謝しています。苦しいこともありましたが、これまでの運命を導いてくれたたくさんの方々への感謝の気持ちでいっぱいです。皆さまにこの恩を少しでも返せるよう、これからも目標に向かって励んでゆきたいと思います。

大学時代から合わせると、6年もの間、小笠原先生にはお世話になりました。本当にありがとうございました。

2017年2月8日

菅野 春菜

添付資料 1 :

WJBL 所属 12 チームの「パフォーマンス的責任」に関するデータの抽出内容の詳細

## 1. パフォーマンス的責任

パフォーマンス的責任を構成する項目である「上位リーグ進出」に関する各チームのデータの詳細を以下に示す。

「上位リーグ進出」	昨シーズン(2015-2016シーズン)の2次ラウンドで 上位リーグに進出したか		
チーム名	2次ラウンド 上位リーグ進出	1次ラウンド 順位	1次ラウンド 勝敗
JX-ENEOSサンフラワーズ	○	1位	18勝2敗
富士通レッドウェーブ	○	3位	15勝5敗
シャンソン化粧品シャンソンVマジック	○	2位	16勝4敗
デンソーアイリス	○	4位	15勝5敗
トヨタ自動車アンテロープス	○	5位	13勝7敗
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	○	6位	10勝10敗
三菱電機コアラーズ	×	8位	8勝12敗
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	×	7位	9勝11敗
羽田ヴィッキーズ	×	10位	3勝17敗
日立ハイテククーガーズ	×	9位	3勝17敗
新潟アルビレックスBBラビッツ	×	11位	0勝20敗
山梨クィーンビーズ	×	-	-

出所)

・WJBL公式サイト トピックス 2次ラウンド対戦カード決定！ <http://www.wjbl.org/topics/detail.html?id=1034>

パフォーマンス的責任を構成する項目である「タイトル獲得」に関する各チームのデータの詳細を以下に示す。

**「タイトル獲得」 過去のタイトル(Wリーグ、全日本総合選手権)獲得経験があるか**

チーム名	有無	タイトル獲得経験
JX-ENEOSサンフラワーズ	○	全日本総合選手権優勝 20回、Wリーグ(旧 日本リーグ含む)優勝 19回
富士通レッドウェーブ	○	全日本総合選手権優勝 4回、Wリーグ優勝 1回
シャンソン化粧品シャンソンVマジック	○	全日本総合選手権優勝 10回、Wリーグ(旧 日本リーグ含む)優勝 16回
デンソーアイリス	×	-
トヨタ自動車アンテロープス	○	全日本総合選手権優勝 1回
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	×	-
三菱電機コアラーズ	×	-
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	×	-
羽田ヴィッキーズ	×	-
日立ハイテククーガーズ	×	-
新潟アルビレックスBBラビッツ	×	-
山梨クィーンビーズ	×	-

出所)

・WJBL公式サイト チーム紹介 <http://www.wjbl.org/team/list.html>

添付資料 2 :

WJBL 所属 12 チームの「強化的責任」に関するデータの抽出内容の詳細

## 2. 強化的責任

強化的責任を構成する項目である「日本代表選手」に関する各チームの詳細を以下に示す。

「日本代表選手」 2015アジア選手権(リオ五輪予選)、2016リオ五輪に出場した日本代表選手、または日本代表候補選手がいるか

チーム名	有無	選手名
JX-ENEOSサンフローズ	○	吉田 亜沙美(アジア/リオ)、間宮 佑圭(アジア/リオ)、渡嘉敷 来夢(アジア/リオ)、宮澤 夕貴(リオ)、藤岡 麻菜美(候補)
富士通レッドウェーブ	○	町田 瑠唯(アジア/リオ)、長岡 萌映子(アジア/リオ)、三谷 藍(アジア)、山本 千夏(アジア)、篠崎 滯(アジア)
シャンソン化粧品シャンソンVマジック	○	本川 紗奈生(アジア/リオ)、三好 南穂(リオ)
デンソーアイリス	○	高田 真希(アジア/リオ)、赤穂 さくら(候補)
トヨタ自動車アンテロープス	○	栗原 三佳(アジア/リオ)、近藤 楓(リオ)
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	×	-
三菱電機コアラーズ	○	王 新朝喜(アジア/リオ)
アイシン・エイ・ダブリューウイングス	△	馬瓜 エブリン(候補)
羽田ヴィッキーズ	×	-
日立ハイテクカーガーズ	×	-
新潟アルビレックスBBラビッツ	×	-
山梨クイーンビーズ	×	-

出所)

・公益財団法人日本バスケットボール協会 平成28年度女子日本代表チーム 日本代表候補選手 メンバー表 [http://www.japanbasketball.jp/japan-team/2016/w\\_all/member](http://www.japanbasketball.jp/japan-team/2016/w_all/member)

強化的責任を構成する項目である「リーダーズ受賞選手」に関する各チームの詳細を以下に示す。

「リーダーズ受賞選手」 昨シーズン(2015-2016シーズン)にリーダーズ(個人賞)を受賞した選手がいるか

チーム名	有無	選手名
JX-ENEOSサンフラワーズ	○	吉田 亜沙美(アシスト)、渡嘉敷 来夢(フロウショット&フィールドゴール成功率)、間宮 佑圭(フリースロー成功率)
富士通レッドウェーブ	○	佐藤 梓 (3ポイントシュート成功率)
シャノン化粧品シャノンVマジック	×	-
デンソーアイリス	○	高田 真希(得点&リバウンド)
トヨタ自動車アンテロープス	×	-
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	×	-
三菱電機コアラーズ	○	渡邊 亜弥(スティール)
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	×	-
羽田ヴィッキーズ	×	-
日立ハイテククーガーズ	×	-
新潟アルビレックスBBラビッツ	×	-
山梨クイーンビーズ	×	-

出所)

・WJBL公式サイト 成績 <http://www.wjbl.org/leaders/>

強化的責任を構成する項目である「MVP選手」、「ベスト5選手」、「最優秀コーチ」、「最優秀新人選手」に関する各チームのデータの  
詳細を以下に示す。

「MVP選手」、「ベスト5選手」、「最優秀コーチ」、「最優秀新人選手」  
昨シーズン(2015-2016)にレギュラーシーズンMVP賞、プレーオフMVP賞、ベスト5  
賞、最優秀コーチ賞、最優秀新人賞の受賞者がいるか

チーム名	有無	受賞者名
JX-ENEOSサンフラワーズ	○	吉田 亜沙美(プレーオフMVP&ベスト5)、渡嘉敷 来夢(レギュラーシーズンMVP&ベスト5)、間宮 佑圭(ベスト5)、佐藤 清美(コーチオブザイヤー)
富士通レッドウェーブ	○	山本 千夏(ベスト5)
シャソン化粧品シャソンVマジック	○	本川 紗奈生(ベスト5)
デンソーアリス	○	赤穂 さくら(ルキークオブザイヤー)
トヨタ自動車アンテロープス	×	-
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	×	-
三菱電機コアラーズ	×	-
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	×	-
羽田ヴィッキーズ	×	-
日立ハイテククーガーズ	×	-
新潟アルビレックスBBラビッツ	×	-
山梨クイーンベーズ	×	-

出所)

・WJBL公式サイト アワード <http://www.wjbl.org/award/>

添付資料 3 :

WJBL 所属 12 チームの「ファンサービスの責任」に関するデータの抽出内容の詳細

### 3. ファンサービスの責任

ファンサービスの責任を構成する項目である「チーム（選手・スタッフ）」に関する各チームのデータの詳細を以下に示す。

「チーム（選手・スタッフ）」選手・スタッフの紹介の記載があるか

チーム名	記載の有無	備考
JX-ENEOSサンフラワーズ	○	通常の紹介に加え、トップに集合写真があり顔をクリックするとその選手の紹介ページにアクセスできる。サイン、Q&A、ファンへのメッセージ、動画あり。2007-2008シーズン以降の年度別選手ガイド(PDF)あり。応援メッセージを送れる。
富士通レッドウェーブ	△	Q&Aあり。
シャンソン化粧品シャンソンVマジック	○	ファンへのメッセージあり。
デンソーアイリス	△	ファンへのメッセージあり。
トヨタ自動車アンテロープス	○	ポジションの紹介あり。ポジション別プレイヤーリストがあり、そこから選手の紹介ページにアクセスできる。Q&A、ファンへのメッセージあり。
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	○	サイン、Q&A、ファンへのメッセージ、プレー写真あり。
三菱電機コアラーズ	○	プレースタイルの説明、ファンへのメッセージ、プレー写真あり。応援メッセージを送れる。
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	○	サイン、Q&A、ファンへのメッセージ、プレー写真あり(フォトギャラリーのページにアクセスできる)。
羽田ヴィッキーズ	△	詳細なし。
日立ハイテッククーガーズ	○	サイン、Q&A、ファンへのメッセージ、動画あり。応援メッセージを送れる。
新潟アルビレックスBBラビッツ	○	サイン。シーズンごとのスタッツやアワードなどの詳細あり。初年度からの歴代ロスター(集合写真付き)あり。
山梨クイーンビーズ	○	Q&A、ファンへのメッセージ、動画あり。役員の一覧あり。

出所)

- ・JX-ENEOSサンフラワーズ公式サイト 選手・スタッフ紹介 <http://www.jx-group.jp/sunflowers/player/2016/>
- ・JX-ENEOSサンフラワーズ公式サイト サンフラワーズについて 足跡 年度別選手ガイド <http://www.jx-group.jp/sunflowers/about.php>
- ・富士通レッドウェーブ公式サイト 選手・スタッフ紹介 <http://sports.jp.fujitsu.com/cs/redwave-profile/player/1.html>
- ・シャンソン化粧品シャンソンVマジック公式サイト 選手情報 選手一覧 <http://vmagic.chanson.co.jp/player/index.html>
- ・シャンソン化粧品シャンソンVマジック公式サイト チーム スタッフ <http://vmagic.chanson.co.jp/team/stuff.html>
- ・デンソーアイリス公式サイト 選手・スタッフ紹介 <http://www.denso-iris.jp/%E9%81%B8%E6%89%8B-%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%83%E3%83%95%E7%B4%B9%E4%BB%8B/>
- ・トヨタ自動車アンテロープス公式サイト メンバー <http://sports.gazoo.com/antelopes/player/>
- ・トヨタ紡織サンシャインラビッツ公式サイト メンバー紹介 <http://tb-athlete.jp/basket/membersinfo/>
- ・三菱電機コアラーズ公式サイト 選手 <http://www.mitsubishielectric.co.jp/basket/koalas/contents/player/index.html>
- ・三菱電機コアラーズ 公式サイト チーム スタッフ <http://www.mitsubishielectric.co.jp/basket/koalas/contents/stuff/index.html#staff>
- ・アイシン・エイ・ダブリュウイングス公式サイト 選手・スタッフ 選手紹介 <http://www.aisin-aw.co.jp/sports/wings/players/index.html>
- ・アイシン・エイ・ダブリュウイングス公式サイト 選手・スタッフ スタッフ紹介 <http://www.aisin-aw.co.jp/sports/wings/players/staff.html>
- ・羽田ヴィッキーズ公式サイト チーム紹介 2016-2017 選手・スタッフ紹介 <http://vickies.jp/member/>
- ・日立ハイテッククーガーズ公式サイト 選手紹介 <http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/ad/sponsor/cougars/member/index.html>
- ・日立ハイテッククーガーズ公式サイト スタッフ紹介 <http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/ad/sponsor/cougars/staff.html>
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト チーム ロスター [http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page\\_id=53](http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page_id=53)
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト チーム スタッ紹介 [http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page\\_id=9](http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page_id=9)
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト チーム スタッ [http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page\\_id=54](http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page_id=54)
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト チーム 歴代ロスター [http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page\\_id=7156](http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page_id=7156)
- ・山梨クイーンビーズ公式サイト チーム紹介 選手紹介-2016 <http://www.yamanashi-queenbees.com/team-2016/>
- ・山梨クイーンビーズ公式サイト チーム紹介 スタッフ紹介 <http://www.yamanashi-queenbees.com/team/info-staff/>
- ・山梨クイーンビーズ公式サイト チーム紹介 役員一覧 <http://www.yamanashi-queenbees.com/team/officer/>

ファンサービス的責任を構成する項目である「チーム（マスコットキャラクター）」に関する各チームの詳細を以下に示す。

「チーム（マスコットキャラクター）」 マスコットキャラクターの紹介の記載があるか

チーム名	記載の有無	備考
JX-ENEOSサンフラワーズ	×	会場にはJXグループのエネゴリくんが登場するが、ここでは記載なし。
富士通レッドウェーブ	○	名前、モチーフ、名前の由来、性格、趣味、好きな物、嫌いな物、好きな物、ファンへのメッセージあり。
シャノン化粧品シャノンハマジック	×	
デンソーアイリス	△	名前と簡単な説明のみ。
トヨタ自動車アンテロプス	○	名前、名前の由来、性別、誕生日、好きな言葉、趣味、写真あり。
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	×	
三菱電機コアラーズ	△	簡単な説明のみ。
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	△	名前、名前の由来あり。
羽田ヴィッキーズ	△	名前、チームにおける役割の紹介あり。
日立ハイテクカーゴーズ	×	
新潟アルビレックスBBラビッツ	×	
山梨クイーンビーズ	×	マスコットキャラクターは存在しているが紹介なし。

出所)

- ・富士通レッドウェーブ公式サイト レッディ紹介 <http://sports.jp.fujitsu.com/redwave/mascot/>
- ・デンソーアイリス公式サイト チーム紹介 <http://www.denso-iris.jp/%E3%83%81%E3%83%BC%E3%83%A0%E7%4B%4E7%4B%8B/>
- ・トヨタ自動車アンテロプス公式サイト チーム マスコット <http://sports.gazoo.com/antelopes/team/>
- ・三菱電機コアラーズ公式サイト チーム チームの由来 <http://www.mitsubishielectric.co.jp/basket/koalas/contents/team/index.html>
- ・アイシン・エイ・ダブリュウイングス公式サイト チーム紹介 <http://www.aisin-aw.co.jp/sports/wings/team/index.html>
- ・羽田ヴィッキーズ公式サイト クラブ概要 <http://vickies.jp/about/outline/>

ファンサービス的責任を構成する項目である「チーム（チアリーダー）」に関する各チームの詳細を以下に示す。

「チーム（チアリーダー）」 チアリーダーや応援団の紹介の記載があるか

チーム名	記載の有無	備考
JX-ENEOSサンブラワーズ	×	
富士通レッドウェーブ	×	
シャノン化粧品シャノンVマジック	×	
デンソーアイリス	×	
トヨタ自動車アンテロプス	○	選手紹介さながら、一人ひとりの写真付きプロフィール。所属部署、好きなもの、コメントあり。
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	×	
三菱電機コアラーズ	○	選手紹介さながら、一人ひとりの写真付きプロフィール。誕生日、出身地、好きなもの、ファンへのメッセージあり。愛知・岐阜・三重・静岡各地からメンバーが集まり結成。
アイシン・エイ・ダブリュウィンガス	△	社員と思われる応援団長のメッセージあり。
羽田ヴィッキーズ	×	
日立ハイテククウガーズ	×	
新潟アルビレックスBBラビッツ	×	
山梨クイーンビーズ	×	

出所)

- ・トヨタ自動車アンテロプス公式サイト チアリーダー <http://sports.gazoo.com/antelopes/cheer/>
- ・三菱電機コアラーズ公式サイト チーム チアリーダー <http://mitsubishielectric.co.jp/basket/koalas/contents/cheer/index.html>
- ・アイシン・エイ・ダブリュウィンガス公式サイト チーム紹介 応援団 <http://www.aisin-aw.co.jp/sports/wings/team/supporters.html>

ファンサービスの責任を構成する項目である「チーム (チーム名・チームカラー)」に関する各チームのデータの詳細を以下に示す。

「チーム (チーム名・チームカラー)」 チーム名や、チームカラーに関する説明の記載があるか

チーム名	記載の有無	備考
JX-ENEOSサンフアラワーズ	×	
富士通レッドウェーブ	○	チーム名：“赤い波が強豪チームを脅かす存在となるように”との思いから「レッドウェーブ」と命名
シャンソン化粧品シャンソンVマジック	×	
デンソーアエリス	○	チーム名：かきつばた(アエリス)は、菖蒲などアヤメ植物の総称でホーナムタウン刈谷市の花。ギリシャ神話の虹の女神の意味を持つ。勝負(菖蒲)で幸運をもたらす虹の女神がいつもチームを見守ってくれるように。
トヨタ自動車アンテロープス	○	偶蹄(くうてい)目※ウシ科の哺乳(ほにゅう)類のうち、イランド・インパ・トムソンガゼルなど、シカに似た優美な形態をもつものの総称である「アンテロープ」に由来。走るのが速いアンテロープは、美しさ、俊敏さ、しなやかさを象徴。
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	○	創部当時の監督・小野利充の干支にちなみ「ラビッツ」とした。
三菱電機コアラーズ	○	チーム名：三菱電機名古屋製作所内で募集したもので、親しみやすさと募集当時名古屋の東山動物園にはじめてコアラーがやってきて話題になったこともあり決定。
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	×	
羽田ヴィッキーズ	○	Victorious (勝利)、Intensity (激しさ)、Courage (勇気)、Knowledge (知恵)、Integrity (誠実さ)、Energy (活動力)、Strength (力強さ)。大田区のシンボルでもあり、今後東京の玄関口となる「羽田」は、地域のブランドイメージとチームの今後の活躍がリンクするように。
日立ハイテククーガーズ	○	華麗なパフォーマンスで見る人を魅了してほしいとの思いを込めて。縦横無尽に走り闊志あるブレイドで周囲を元氣付けたい。
新潟アルビレックスBBラビッツ	○	新潟における総合スポーツクラブへの挑戦、その同じ精神の元で冠した共通テーマであるアルビレックスに加え、女性の持つ可憐さ、可愛さ、力強さを兼ね備えたチームであることを目指し、ラビッツのイメージを継承。チームカラー：「オレンジ」日本海に映る夕日をイメージ、[ブルー]
山梨クイーンビーズ	×	

出所)

- ・富士通レッドウェーブ公式サイト チーム概要 <http://sports.jp.fujitsu.com/redwave/profile/>
- ・デンソーアエリス公式サイト チーム紹介 <http://www.denso-iris.jp/%E3%83%93%E3%83%98%E3%83%A0%E7%B4%B9%E4%B8%BB/>
- ・トヨタ自動車アンテロープス公式サイト チーム チームロゴ・チーム名の由来 <http://sports.gezoo.com/antelopes/team/>
- ・トヨタ紡織シャンソンVマジック公式サイト チーム紹介 チームの足跡 <http://tb-athlete.jp/basket/teaminfo/>
- ・三菱電機コアラーズ公式サイト チーム チームの由来 <http://www.mitsubishielectric.co.jp/basket/koolas/contents/team/index.html>
- ・日立ハイテククーガーズ公式サイト <http://wickets.jp/about/> 歴史 <http://wickets.jp/about/>
- ・日立ハイテククーガーズ公式サイト チームの形 <http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/ad/sponsor/cougars/history.html>
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト チーム チームプロフィール [http://www.albirexbb-rabbits.com/?page\\_id=2](http://www.albirexbb-rabbits.com/?page_id=2)

ファンサービス上の責任を構成する項目である「チーム（活動拠点）」に関する各チームの詳細を以下に示す。

「チーム（活動拠点）」 活動拠点に関する情報（ホームタウン、住所、アクセスなど）の記載があるか

チーム名	記載の有無	備考
JX-ENEOSサンフアラーズ	x	
富士通レッドウェーブ	△	活動拠点: 富士通川崎工場体育館(住所の記載)
シャノン化粧品シャノンVマジック	△	所在地(住所の記載)
デンソーアイリス	△	所在地: 株式会社デンソー 女子バスケットボール事務局(住所、電話・FAX番号の記載) 練習場所: 株式会社デンソー 本社体育館(住所の記載)、ファンレターへの宛先あり。
トヨタ自動車アンテロープス	○	練習場所: トヨタ自動車株式会社 菱体育館(住所、アクセス方法、地図、練習見学についての記載) 練習見学は要連絡(電話番号の記載)。シーズン中の社員以外の練習見学は不可。
トヨタ紡織サンジャインラビッツ	○	練習場所: トヨタ紡織株式会社(住所、アクセス方法、地図、練習時間、練習見学についての記載) 練習見学は要連絡(電話番号の記載)。
三菱電機コアラーズ	○	所在地: 三菱電機株式会社 名古屋製作所内(住所の記載) 練習場: 三菱電機株式会社 名古屋製作所内 名古屋体育館(住所、アクセス方法、地図の記載)
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	○	練習場所: アイシン・エイ・ダブリュウイングス(住所、アクセス方法、地図、練習見学についての記載) 練習見学は要連絡(電話番号の記載)。
羽田ヴィッキーズ	△	本拠地: 東京都大田区 問い合わせフォームあり。 事務所: (一社)羽田ヴィッキーズ女子バスケットボールクラブ(住所、電話・FAX番号の記載)
日立ハイテククウガーズ	○	練習場所の住所、アクセス方法、地図、練習時間を記載。練習見学は要連絡(電話番号の記載)。 「お気軽にお越しください。お待ちしております。」のコメントあり。
新潟アルビレックスBBラビッツ	△	ホームタウン: 新潟県内 事務所: 新潟アルビレックスBBラビッツオフィス(電話: FAX番号)
山梨クイーンビーズ	△	現在のホームタウン(9市町): 甲斐市、北杜市、昭和三市、甲斐市、山梨市、富士吉田市、妻崎市、甲州市 活動拠点(事務所): (一社)山梨クイーンビーズバスケットボールクラブ(メール、所在地(ファンレター宛先)、練習場所)

出所)

- ・富士通レッドウェーブ公式サイト チーム概要 <http://sports.fujitsu.com/redwave/profile/>
- ・デンソーアイリス公式サイト チーム紹介 <http://www.denso-iris.jp/%E3%83%81%E3%83%BC%E3%83%A0%E7%B4%B9%E4%B8%BB/>
- ・トヨタ自動車アンテロープス公式サイト チーム 練習場所 <http://sports.gazoo.com/antelopes/team/>
- ・トヨタ紡織サンジャインラビッツ公式サイト チーム紹介 練習場・見学方法 <http://tb-athlete.jp/basket/teaminfo/>
- ・三菱電機コアラーズ公式サイト チーム 拠点 <http://www.mitsubishielectric.co.jp/basket/koalas/contents/base/index.html>
- ・アイシン・エイ・ダブリュウイングス公式サイト チーム紹介 練習場所・見学方法 <http://www.aisin-aw.co.jp/sports/wings/team/supporters.html>
- ・羽田ヴィッキーズ公式サイト ウィッキーズについて ご挨拶(代表理事コメント) <http://vickies.jp/about/outline/>
- ・日立ハイテククウガーズ公式サイト アクセス <http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/ad/sponsors/cougars/access.html>
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト チーム 代表挨拶 <http://www.yamanashi-queenbees.com/team/greeting/>
- ・山梨クイーンビーズ公式サイト チーム紹介 拠点情報 <http://www.yamanashi-queenbees.com/team/base/>



ファンサービス責任を構成する項目である「試合（日時・会場）」に関する各チームの詳細を以下に示す。

「試合(日時・会場)」 試合の日時、会場情報の記載があるか

チーム名	記載の有無	備考
JX-ENEOSサンアワーズ	○	会場の電話番号、住所、アクセス方法、土足不可
富士通レッドウェーブ	○	ホームタウンゲームを行うアリーナの住所、アクセス方法、電話番号、Google地図、開催日程)、その他の会場情報もあり。
シャノン化粧品シャノンVマジック	△	会場情報は、体育館名と県市のみ。
デンソーアイリス	△	会場情報は、体育館名のみ。
トヨタ自動車アンテロープス	△	会場情報は、体育館名と市のみ。ホームゲームの場合その旨の記載あり。
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	○	全ての会場の、県市、住所、連絡先、アクセス方法、詳細情報(体育館のリンクページ、Googleマップ)を記載。
三菱電機コアラーズ	△	体育館所在地の「MAP」のリンクがあるが開けない。
アイシン・エイ・ダブルユウイングス	△	会場情報は、体育館名と県市のみ。別ページで、観戦にあたっての注意事項の記載あり(駐車場や土足情報はホームページを確認してください等)。
羽田ヴァイキーズ	△	会場情報は、体育館名と県のみ。アウェイゲーム、ホームゲーム、ニュートラルゲームの表示あり。
日立ハイテクカーガーズ	△	会場情報は、会場名とGoogleマップ(全試合)。
新潟アルビレックスBBラビッツ	△	会場情報は、住所、アクセス方法、Googleマップ(ホーム会場)、アウェイ会場は体育館ページへリンク。
山梨クイーンビーズ	△	会場情報は、体育館名のみ。同会場で行われる試合を記載。

出所)

- ・JX-ENEOSサンアワーズ公式サイト 試合情報 <http://www.jx-group.jp/sunflowers/game/>
- ・富士通レッドウェーブ公式サイト 第18回Wリーグ 日程・結果 <http://sports.jp/fujitsu.com/cs/rodate-game-master/list-special/?w-league2016-2017/1.html>
- ・富士通レッドウェーブ公式サイト 第18回Wリーグ 会場・チケット <http://sports.jp/fujitsu.com/rodate/w-league/18tv/access.html>
- ・シャノン化粧品シャノンVマジック公式サイト 試合 <http://vmagic.chiasso.co.jp/game/index.html>
- ・デンソーアイリス公式サイト 試合日程・結果 <http://www.denso-irs.jp/EB8A9A6BE93D85E6997A45E79A93BB-NE795909E695E9C/>
- ・トヨタ自動車アンテロープス公式サイト スケジュール・結果 <http://sports.gazoo.com/antelopes/schedule/contents/schedule/index.html>
- ・トヨタ紡織サンシャインラビッツ公式サイト スケジュール・結果 <http://tb-athlete.jp/basket/gameinfo/>
- ・三菱電機コアラーズ公式サイト 日程・結果 <http://mitsubishielectric.co.jp/basket/locals/contents>
- ・アイシン・エイ・ダブルユウイングス公式サイト 試合日程・結果 <http://www.aisin-aw.co.jp/sports/wings/games/2016.html#ConTop>
- ・アイシン・エイ・ダブルユウイングス公式サイト 試合の楽しみ方 <http://www.aisin-aw.co.jp/sports/wings/info/instructions.html>
- ・羽田ヴァイキーズ公式サイト スケジュール <http://vickies.jp/schedule/>
- ・日立ハイテクカーガーズ公式サイト 試合情報 <http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/ad/sponsor/cougars/game/index.html>
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト チケット 試合日程・結果 [http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page\\_id=82](http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page_id=82)
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト チケット 会場アクセス [http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page\\_id=145](http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page_id=145)
- ・山梨クイーンビーズ公式サイト 試合日程・結果 <http://www.yamanashi-queenbees.com/game/>

ファンサービス構築の責任を構成する項目である「試合（チームの結果）」に関する各チームの詳細を以下に示す。

「試合（チームの結果）」 チームの試合結果の記載や独自の試合レポートなどを記載しているか

チーム名	記載の有無	備考
JX-ENEOSサンフワローズ	○	独自の試合レポート、フォト中継あり。スコア詳細はWJBLサイトへアクセスされる。
富士通レッドウェーブ	○	独自の写真付きの戦評、スコア詳細あり。
シャンソン化粧品シャンソンVマジック	△	ピリオドごとの得点のみ。
デンソーアイリス	○	選手が試合を振り返った簡単なコメントを寄せている。スコア詳細はWJBLサイトへアクセスされる。
トヨタ自動車アンテロープス	△	試合詳細はWJBLサイトへアクセスされる。
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	△	自チームの得点ベスト3の記載。
三菱電機コアラーズ	△	独自の戦評を記載。スコア詳細はWJBLサイトのリンクが貼られている。
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	○	写真付きの戦評あり。スコア詳細はWJBLサイトのリンクが貼られている。
羽田ウイングス	△	最終スコアのみ記載されており、クリックするとWJBLサイトへアクセスされる。
日立ハイテクケイガーズ	○	独自の簡単なレポートと写真を両方が掲載。BOXSCOREや競技形式の詳細はWJBLのHPIにアクセスされる。
新潟アルビレックスBBラビッツ	△	「試合日程・結果」ページに結果の欄があるが記載なし。写真付きの戦評、監督や選手のコメント等掲載しているが、「ニュース」の記事として流しており、一覧を辿らないと確認できない。
山梨クイーンビーズ	△	最終スコアのみ記載。

出所)

- JX-ENEOSサンフワローズ公式サイト 試合情報 <http://www.jx-group.jp/sunflowers/result/2016/>
- 富士通レッドウェーブ公式サイト 第18回WJリーグ 日程・結果 <http://sports.fujitsu.com/cs/redwave-game-master/list-special/w-league2016-2017/1.html>
- シャンソン化粧品シャンソンVマジック公式サイト 試合 <http://magic.chanson.co.jp/game/index.html>
- シャンソン化粧品シャンソンVマジック公式サイト スコア <http://magic.chanson.co.jp/score.html>
- デンソーアイリス公式サイト 試合日程・結果 <http://www.denso-iris.jp/%E8%A6%98%90%E6%99%97%E7%A6%88-%E7%B5%90%E6%99%9C/>
- トヨタ自動車アンテロープス公式サイト スケジュール・結果 とく <http://toyota-athletes.jp/basket/gamainfo/>
- トヨタ紡織サンシャインラビッツ公式サイト 試合日程・結果 <http://www.tyobishihiteki.co.jp/basket/voalias/contents/schedule/index.html>
- 三菱電機コアラーズ公式サイト 試合日程・結果 <http://www.alstr-aw.co.jp/sports/wings/games/frdbx.html>
- アイシン・エイ・ダブリュウイングス公式サイト 試合結果 <http://vickies.jp/result/>
- 日立ハイテクケイガーズ公式サイト 試合情報 <http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/ad/sponsor/cougars/game/index.html>
- 新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト スケジュール 試合日程/結果 [http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page\\_id=62](http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page_id=62)
- 新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト ニュース [http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page\\_id=60](http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page_id=60)
- 山梨クイーンビーズ公式サイト 試合日程・結果 <http://www.yamanashit-queenbees.com/game/>

ファンサービスの責任を構成する項目である「試合（順位表など）」に関する各チームの詳細を以下に示す。

「試合（順位表など）」 試合情報の詳細(WJBL公式サイト)のリンクを含め、競技方法の記載や独自の順位表などが記載されているか

チーム名	記載の有無	備考
JX-ENEOSサンフラワーズ	△	順位表はWJBLのサイトへアクセスされる。
富士通レッドウェーブ	○	順位表、大会の競技形式、対戦成績あり。詳細としてWJBLのリンクあり。
シャノン化粧品シャノンハマジック	△	トップページに順位表あり。
デンソーアイリス	△	簡単な競技形式の説明あり。
トヨタ自動車アンテロープス	△	独自の順位表あり。
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	×	
三菱電機コアラーズ	△	競技形式についてはWJBLのサイトへアクセスされる。
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	×	
羽田ヴォイスキーズ	○	トップページに自チームの順位表あり(順位表はWJBL公式サイトへアクセスされる)。競技形式の説明あり。
日立ハイテククーガーズ	△	競技形式の説明あり。詳細としてWJBLのリンクあり。
新潟アルビレックスBBラビッツ	△	トップページに順位表あり。
山梨クイーンビーズ	△	簡単な競技形式の説明あり。

出所)

- ・JX-ENEOSサンフラワーズ公式サイト 試合情報 <http://www.jx-group.jp/sunflowers/game/>
- ・富士通レッドウェーブ公式サイト 第18回Wリーグ 日程・結果 <http://sports.jp.fujitsu.com/cs/redwave-game-master/list-special/w-league2016-2017/1.html>
- ・シャノン化粧品シャノンハマジック公式サイト <http://vmagic.chanson.co.jp/index.html>
- ・デンソーアイリス公式サイト 試合日程・結果 <http://www.denso-iris.jp/%E8%A9%8E%E5%90%8E%E8%97%A5%E7%A8%BB-%E7%B5%90%E8%9E%9C/%E7%AC%A1%8E%E5%B9%8F%E5%BD%A7%E3%83%A1%E3%83%B0%E3%92%B0/>
- ・トヨタ自動車アンテロープス公式サイト トップ <http://sports.gazoo.com/antelopes/>
- ・三菱電機コアラーズ公式サイト トップ <http://vickies.jp/>
- ・羽田ヴォイスキーズ公式サイト スケジュール 競技形式(2016-2017) <http://vickies.jp/schedule/>
- ・日立ハイテククーガーズ公式サイト 試合情報 <http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/ad/sponsor/cougars/game/>
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト トップ <http://www.albirex-bb-rabbits.com/>
- ・山梨クイーンビーズ公式サイト 試合日程・結果 <http://www.yamanashi-queenbees.com/game/>

ファンサービスの責任を構成する項目である「過去の結果」に関する各チームのデータの詳細を以下に示す。

「過去の結果」過去の試合結果を記載しているか

チーム名	記載の有無	備考
JX-ENEOSサンフアラワーズ	○	2006-2007シーズン以降の「Wリーグ試合結果」、「ALL JAPAN試合結果」、「Photo中継(写真付きの戦評や勝利インタビュー)」。
富士通レッドウェーブ	○	2011-2012シーズン以降のWリーグとALL JAPANの結果、全てに写真付きの戦評あり。
シャソン化粧品シャソンVマジック	×	
デンソーアイリス	○	2010-2011シーズン以降のWリーグとALL JAPAN、サマーキャンプの結果。選手コメントあり。
トヨタ自動車アンテロープス	△	2013-2014シーズン以降の結果。詳細はWJBLサイトへアクセスされる。
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	△	2006-2007シーズン以降の結果。一覧表で記載。自チームの得点ベスト3を記載。
三菱電機コアラーズ	×	
アイシン・エイ・ダブリュエイウイングス	○	2012-2013シーズン以降の結果。写真付きの戦評あり。2010-2011シーズンからタブはあるが表示されない。
羽田ヴィッキーズ	×	
日立ハイテククワガーズ	△	2010-2011シーズン以降の結果を記載。試合写真を載せているがページが重い。
新潟アルビレックスBBラビッツ	○	2012-2013シーズン以降の結果を記載。詳細はWJBLサイトへアクセスされる。
山梨クィーンビーズ	×	

出所)

- ・JX-ENEOSサンフアラワーズ公式サイト 試合情報 過去の試合結果 <http://www.jx-group.jp/sunflowers/game/archives.php>
- ・富士通レッドウェーブ公式サイト 試合日程・結果 <http://sports.jp.fujitsu.com/cs/redwave-game-master/list/2016/1.html>
- ・デンソーアイリス公式サイト 試合日程・結果 <http://www.denso-iris.jp/%E8%A9%A6%E3%90%88%E6%97%A5%E7%A8%BB-%E%B5%90%E6%9E%9C/>
- ・トヨタ自動車アンテロープス公式サイト スケジュール・結果 <http://sports.gazoo.com/antelopes/schedule/2016/index.html?m=12>
- ・トヨタ紡織サンシャインラビッツ公式サイト 試合日程／結果 <http://tb-athlete.jp/basket/gameinfo/>
- ・アイシンAW/公式サイト 試合日程・結果 <http://www.aisin-aw.co.jp/sports/wings/games/index.html>
- ・日立ハイテククワガーズ 試合情報 <http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/ad/sponsor/cougars/game/index.html>
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト スケジュール 試合日程・結果 [http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page\\_id=62](http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page_id=62)

ファンサービスの責任を構成する項目である「スケジュール（試合以外）」に関する各チームのデータの詳細を以下に示す。

「スケジュール（試合以外）」 試合以外(練習日やイベント等)のチームのスケジュール公開をしているか

チーム名	記載の有無	備考
JX-ENEOSサンフラワーズ	×	
富士通レッドウェーブ	×	
シャンソン化粧品シャンソンVマジック	×	
デンソーアイリス	○	練習の有無、大まかな時間、場所を記載。練習見学は、要事前連絡。練習試合は、見学不可。
トヨタ自動車アンテロープス	×	
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	△	「Wリーグ公式戦」、「クリニック」、「チーム行事」、「合宿・遠征」で色分けされているが、詳細なし。選手やスタッフの誕生日のお知らせあり。
三菱電機コアラーズ	×	
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	×	
羽田ヴィッキーズ	×	
日立ハイテククウガーズ	×	
新潟アルビレックスBBラビッツ	○	Googleカレンダーで管理(練習会場は練習可能日のみ)。練習見学についての細かな注意事項あり。イベント情報も記載。
山梨クイーンビーズ	○	練習及び練習試合もすべて見学可能。見学する際の注意事項あり。「練習」「練習試合」「遠征(出発時間の記載あり)」「イベント」を記載。

出所)

- ・チンソーアイリス公式HP スケジュール <http://www.denso-iris.jp/%E3%82%B9%E3%82%B1%E3%82%B8%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%AB/>
- ・トヨタ紡織サンシャインラビッツ公式HP HOME チームカレンダー2016 <http://www.tb-athlete.jp/basket/>
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式HP スケジュール 月間カレンダー [http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page\\_id=58](http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page_id=58)
- ・山梨クイーンビーズ公式HP 月間スケジュール <http://www.yamanashi-queenbees.com/workout-schedule/2016%E5%B9%B4%E6%9C%88/>



ファンサービス責任を構成する項目である「チケット（試合日時）」に関する各チームのデータの詳細を以下に示す。

「チケット（試合日時）」 試合日時の記載があるか

チーム名	記載の有無	備考
JX-ENEOSサンフラワーズ	△	ホームタウンゲームのみ。トップページに小さく、「各試合のチケット情報については、WJBLのWebサイト「日程/結果」の「スケジュール詳細」をご覧ください。」の記載あり。
富士通レッドウェーブ	○	ホームタウンゲーム以外の試合も記載。
シャンソン化粧品シャンソンVマジック	×	
デンソーアイリス	×	
トヨタ自動車アンテロープス	×	
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	×	
三菱電機コアラーズ	△	ホームタウンゲームのみ。「ホームゲーム以外の販売コードにつきましては、対戦相手チームのサイトでご確認ください。」の記載あり。
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	×	
羽田ヴォルキーズ	△	チケットぴあが運営する「チケットバスケット」のサイトへ移動。取扱いはホームゲームのみ。
日立ハイテククーガーズ	×	
新潟アルビレックスBBラビッツ	△	ホームタウンゲームのみ。
山梨クイーンビーズ	△	モノクロで書かれている。ホームゲームのみ。

出所)

- ・JX-ENEOSサンフラワーズ公式サイト 試合情報 ホームタウンゲームチケット情報 <http://www.jx-group.jp/sunflowers/game/hometown/>
- ・富士通レッドウェーブ公式サイト 第18回Wリーグ 会場・チケット <http://sports.jp.fujitsu.com/redwave/w-league/18th/access.html>
- ・三菱電機コアラーズ公式サイト 観戦チケットのご購入 ホームゲーム会場の座席表・チケット価格 <http://www.mitsubishielectric.co.jp/basket/koalas/contents/ticket/index.html>
- ・チケットバスケット 羽田ヴォルキーズ <http://t-basketpia.jp/artists.do?artistsCd=11026906>
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト チケット チケット概要(販売スケジュール) [http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page\\_id=66](http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page_id=66)
- ・山梨クイーンビーズ公式サイト ホームゲームチケット販売のお知らせ <http://www.yamanashi-queenbees.com/hometicket2016/>

ファンサービスの責任を構成する項目である「チケット (料金)」に関する各チームの詳細を以下に示す。

「チケット (料金)」 チケットの料金、それに関するサイトのリンクの記載があるか

チーム名	記載の有無	備考
JX-Eneosサンフアラワーズ	○	ホームタウンゲームのみ。
富士通レッドウェーブ	○	ホームタウンゲームのみ。
シャノン化粧品シャノンVマジック	×	
デンソーアイリス	×	
トヨタ自動車アンテロープス	×	
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	×	
三菱電機コアラーズ	○	ホームタウンゲームのみ。「ホームゲーム以外の販売コードにつきましては、対戦相手チームのサイトでご確認ください。」の記載あり。
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	×	
羽田ヴィッツキーズ	○	チケットバスケットのページ。
日立ハイテククーガーズ	×	
新潟アルビレックスBBラビッツ	○	ホームタウンゲームのみ。Bリーグ同時開催時におけるチケットの取り扱いについての記載あり。
山梨クワイーンビーズ	○	チケットを購入する約4試合分の入場料で観戦できる割引あり。

出所)

- ・JX-Eneosサンフアラワーズ公式サイト 試合情報 ホームタウンゲームチケット情報 <http://www.jx-group.jp/sunflowers/game/hometown/>
- ・富士通レッドウェーブ公式サイト 第18回Wリーグ 会場・チケット <http://sports.jp.fujitsu.com/redwave/w-league/18th/access.html>
- ・三菱電機コアラーズ公式サイト 観戦チケットのご購入 ホームゲーム会場の座席表・チケット価格 <http://www.mitsubishielectric.co.jp/basket/koalas/contents/ticket/index.html>
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト チケット チケット概要 (販売スケジュール) [http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page\\_id=66](http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page_id=66)
- ・山梨クワイーンビーズ公式サイト ホームゲームチケット販売のお知らせ <http://www.yamanashi-queenbees.com/hometicket2016/>
- ・山梨クワイーンビーズ公式サイト ホーム6試合観戦チケット発売中 <http://www.yamanashi-queenbees.com/2016/10/26/10050/>

ファンサービス責任を構成する項目である「チケット (購入方法)」に関する各チームのデータの詳細を以下に示す。

「チケット (購入方法)」 チケット販売店や購入方法、それに関するサイトのリンクの記載があるか

チーム名	記載の有無	備考
JX-ENEOSサンフラワーズ	△	ホームタウンゲームのみ。
富士通レッドウェーブ	○	全ての試合の チケット 問い合わせ先や販売先の記載あり。
シャノン化粧品シャノンVアマジック	×	
デンソーアイリス	×	
トヨタ自動車アンテロープス	×	
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	×	
三菱電機コアラーズ	○	店舗購入、インターネット購入、電話購入それぞれ取り扱い先や時間を説明。チケットに関する問い合わせ先あり。「ホームゲーム以外の販売コードにつきましては、対戦相手チームのサイトでご確認ください。」の記載あり。
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	×	
羽田ヴィッキーズ	△	チケットバスケットのページ。
日立ハイテククウガーズ	×	
新潟アルビレックスBBラビッツ	○	ホームタウンゲームのみ。チケットに関する問い合わせあり。
山梨クイーンビーズ	○	各種取扱先のリンクあり。

出所)

- ・JX-ENEOSサンフラワーズ公式サイト 試合情報 ホームタウンゲームチケット情報 <http://www.jix-group.jp/sunflowers/game/hometown/>
- ・富士通レッドウェーブ公式サイト 第18回Wリーグ 会場・チケット <http://sports.jp.fujitsu.com/redwave/w-league/18th/access.html>
- ・三菱電機コアラーズ公式サイト 観戦チケットのご購入 ホームゲーム会場の座席表・チケット価格 <http://www.mitsubishielectric.co.jp/basket/koalas/contents/ticket/index.html>
- ・三菱電機コアラーズ公式サイト 観戦チケットのご購入 観戦チケットのご購入からお受け取りまで <http://www.mitsubishielectric.co.jp/basket/koalas/contents/ticket/homegame.html>
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト チケット チケット概要 (販売スケジュール) [http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page\\_id=66](http://www.albirex-bb-rabbits.com/?page_id=66)
- ・山梨クイーンビーズ公式サイト ホームゲームチケット販売のお知らせ <http://www.yamanashi-queenbees.com/hometicket2016/>

ファンサービスの責任を構成する項目である「チケット（会場座席図）」に関する各チームのデータの詳細を以下に示す。

「チケット（会場座席図）」 会場座席図の記載があるか

チーム名	記載の有無	備考
JX-ENEOSサンフローズ	×	
富士通レッドウェーブ	×	
シャノン化粧品シャノンハマジック	×	
デンソーアイリス	×	
トヨタ自動車アンテロープス	×	
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	×	
三菱電機コアラーズ	×	
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	×	
羽田ヴィッキーズ	×	
日立ハイテククーガーズ	×	
新潟アルビレックスBBラビッツ	○	ホーム会場の座席図あり。
山梨クイーンビーズ	×	

出所)

・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト チケット チケット概要(販売スケジュール) [https://www.albirexbb-rabbits.com/?page\\_id=66](https://www.albirexbb-rabbits.com/?page_id=66)



ファンサービスの責任を構成する項目である「ファンクラブ」に関する各チームのデータの詳細を以下に示す。

「ファンクラブ」 ファンクラブ、後援会などが存在しているか

チーム名	記載の有無	内容	会員特典
JX-Eneosサンフラワーズ	○	JXエネジー株式会社が運営するオアシシャルファンクラブ、「ファンとチームをつなぐエネジー」の活動の様子は、「新鮮で厚みのあるチーム情報」の提供「選手・スタッフ・ファンクラブ会員様の交流促進」。試合の案内や、チームの活動を伝え、チームをより身近に感じてもらう会員制の「広場」づくりを目指している。年費(一人あたり、一年間)2000円。その他入会にあたっての注意事項詳細あり。	会員の進呈/イヤープックの進呈/応援タオルマフラーの進呈/クリアファイルの進呈/卓上カレンダーの進呈/ボスタ-引換券進呈/メールマガジン配信サービス/会員限定のグッズ通信販売/ホームゲームの会員特典/ファン感謝デーへの参加案内
富士通レッドウェーブ	×		
シャノン化粧品シャノンハマジック	×		
デンソーアイリス	×		
トヨタ自動車アンテロプス	×		
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	×		
三菱電機コアラーズ	×		
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	×		
羽田ヴィッキーズ	○	ヴィッキーズをより応援したい、ヴィッキーズサポートライフをより充実したものにしたい方向けに設立した羽田ヴィッキーズ公式ファンクラブ。ゴールド会員(10万円)/シルバー会員(5万円)/プレミアム会員(1万円)/レギュラー会員(3000円)/キッズ会員(1000円)	全コース共通:会員カード/オリジナルグッズの割引/会報誌/年賀状/チーム主催イベントの案内。その他は、当日券割引/チケットプレゼント/限定ウェア/ユニフォーム/コートサ-付席/スベシヤルシートなど
日立ハイテククワガーズ	×		
新潟アルビレックスBBラビッツ	○	オアシシャルファンクラブ(ラビとも)、新潟アルビレックスBBラビッツのブースターを対象。入会金:1000円、年会費:1500円。【NIGATA ALBIREX】バスケットボール後援会:新潟アルビレックスBBの誕生に合わせ2000年に発足。2011年にラビッツの支援も開始。会費はチームの運営・強化費として財政支援。27年度は275万円の財政支援。ラビクラブ会員:一口50,000円/ゴールド会員:一口30,000円/オアシジ会員:一口10,000円	ラビとも会員特典:会員証発行/先行入場(10分前)/推し選手からのオリジナルステッカー/選手1人形式メールマガ/推し選手からのメッセージメール(シーズン終了後の送付)。後援会会員特典その他多数。
山梨クワーンビーズ	○	【目的】安定的にチームのバックアップを行う基盤を確立し、より地域に密着したチームとしての活動を支援する。【活動内容】応援活動、経済的支援活動、支援者の拡大活動、その他。【年費】個人(一口):一般3000円/高校生2000円/中学生1000円、家族会員(一口):大人3000円/高校生1000円/中学生500円/小学生無料、団体:法人(一口):一般1万円/プレミアム3万円。	会員証の進呈/フリープレットの進呈/無料観戦チケットなど

出所)

- ・JX-Eneosサンフラワーズ公式サイト SUNFLOWERS FAN サンフラワーズファンクラブ <https://www.jx-group.jp/sunflowers/fc/#f603>
- ・羽田ヴィッキーズ公式サイト ファンクラブ 2016-2017シーズン ファンクラブ <https://vickies.jp/boosterclub/>
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト ファンクラブ オアシシャルファンクラブ [http://www.albirex-rabbits.com/?page\\_id=8810](http://www.albirex-rabbits.com/?page_id=8810)
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト 後援会 NIGATA ALBIREX バスケットボール後援会 [http://www.albirex-rabbits.com/?page\\_id=137](http://www.albirex-rabbits.com/?page_id=137)
- ・山梨クワーンビーズ公式サイト 後援会 後援会 組織概要 <http://www.yamanashi-queenbees.com/koen/>
- ・山梨クワーンビーズ公式サイト 後援会 後援会 組織概要 <http://www.yamanashi-queenbees.com/koenthai-2016/>

添付資料 4 :

WJBL 所属 12 チームの「スポーツパーソンシップ的責任」、  
「チーム統治的責任」に関するデータの抽出内容の詳細

#### 4. スポーツパーソンシップ的責任、チーム統制的責任

スポーツパーソンシップ的責任、チーム統制的責任を構成する項目である「活動理念・目的」に関する各チームのデータの詳細を以下に示す。

「活動理念・目的」 組織に関する理念、方針、目的などの記載があるか

チーム名	記載の有無	内容
JX-ENEOSサンフラワーズ	△	目的: 新鮮さと、躍動感のあるスポーツを通じて社員の連帯感を高め、あわせて企業のイメージアップを図ることをねらいとして創部。
富士通レッドウェーブ	○	「楽しく明るく元気に、そしてひたむきに。」1986年、選手の“自主性”をモットーに創部。今後も継続し、「楽しく・明るく・元気に、そしてひたむきに」をモットーに、高確率のシュートとスピード感あふれるアグレッシブなバスケットボールを展開し、応援して下さる方に勇気と感動を与えられるよう、チームは一丸となって“頂点”を目指す。また、活動拠点である川崎市の「かわさきスポーツパートナー」として川崎市と連携し、バスケットボール教室「ふれあい教室」を開催するなど社会貢献活動にも力をいれるなど、バスケットボールの普及と、スポーツ全体を盛り上げていけるよう努めてまいります。
シャンソン化粧品シャンソンVマジック	△	チームスローガン:「夺冠」
デンソーアイリス	×	
トヨタ自動車アンテロープス	△	チームスローガン:「Be Better Together !!!」 昨シーズンに得たプラスの内容を基に、今シーズンも更に成長していきたいと思っています。チーム全員が今までの経験から学び、そして成長し、昨シーズンよりもより良いシーズンにしていきたいと思っています。
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	×	
三菱電機コアラーズ	×	三菱電機株式会社が運営する女子バスケットボールチームで、設立は1956年。バスケットボール女子日本リーグ機構Wリーグに所属しています。
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	×	アイシン・エイ・ダブリュウイングスは、WJBL(バスケットボール女子日本リーグ機構)所属の女子バスケットボールチームです。
羽田ヴィッキーズ	○	【理念】 『地域と共に歩み、皆さまをもっと元気にします。』私たち羽田ヴィッキーズは地域の皆様の心に夢・希望・感動を送り込む活動を展開します。そして、あなたの夢や希望や感動がチームの原動力となり笑顔と活力のある街づくりに貢献する為に地域から日本一のクラブを目指します。 【活動方針】 ① 地域で感動や夢を共有します。 クリニック・学校授業・地域イベントに参加します。地域の一人として皆様と感動や夢を共有させていただきます。チームの戦いを通じて、スポーツが生み出すエネルギーを地域の活力に還元することで、皆様の元気にします。 ② 地域の活性化を共に目指します。 Wリーグ公式戦やメディア露出を通じて地域を全国にPRします。観光・産業・教育など地域のPR活動を行います。ホームゲームをスポーツエンタテインメント(見るスポーツ)と位置付けスポーツ視点から地域活性化の一角を担います。 ③ 子供達の夢を育みます。 プロスポーツチームとして地域活動を通じて、地域社会の子供達をもっと元気にします。選手が子供達の目標となり、直接コミュニケーションをとる事で、子供達に夢や希望を持つ機会を生み出します。
日立ハイテククーガーズ	○	茨城県ひたちなか市に郡工現(現 株式会社日立ハイテクノロジー)が設立された1961年に女子バスケットボール部は誕生しました。以来50数年会社のシンボルスポーツとして従業員とともに歩んできました。2008年には、華麗なパフォーマンスで見る人を魅了してほしいとの思いを込めてチーム名を「Cougars」に変更。そして私たちCougarsは縦横無尽に走り回れるプレイで周囲を元気づけたい、そう考えています。
新潟アルビレックスBBラビッツ	○	新潟アルビレックスBBラビッツは、43年間に渡り日本におけるトップレベルの女子バスケットボールチームとして活動してきたJALラビッツを引き継いで誕生しました。トップリーグ所属チームとしては日本初の地域密着型のビジネスモデルで2011年4月に発足、WJBL(バスケットボール女子日本リーグ機構)に参戦します。新潟県内の体育館・アリーナをホームコートとして活動するチームは、国内女子トップレベルの選手を揃えています。今後も新潟県内から国内トップリーグで活躍し、日本代表に選出されるような選手育成に努め、バスケットボールで国内トップリーグ、日本代表選手を目指す子供たちの目標となれるようなチーム作りを全力を挙げて参ります。
山梨クイーンビーズ	○	【2016スローガン】 ・新たな挑戦！ ひと向きの挑戦！ ・山梨に根付いたクラブチーム、日本一のクラブチーム、Wリーグで躍動するクラブチーム 【活動方針】 ・Wリーグへの参戦に向けて万全のチームづくりを行う。 ・ファンの皆様、支援企業様、後援会の皆様など、クラブ・チーム運営を支えていただく皆様の感謝の気持ちをお忘れず、地元に着目した活動を展開する。 【チーム方針】 ① 粘って粘って相手を苦しめ、常にプレッシャーを掛け続けられるディフェンスから仕掛けられるチーム。 ② プレーク、アーリー、モーションオフENSEを中心とした攻守の切り替えの速い展開が出来るチーム。 ③ リバウンド、ルーズボールを負けないファンや観客に感動を与えられるファイトあふれるプレーが出来るチーム。一つでも多く勝てるチームを目指すので、皆様の温かい、ご支援、ご声援、宜しくお願いします。 【基本理念】 ・女性のパワーで山梨を元気に！！ 明るい笑顔の発信！ ・山梨の子供たちに夢を！！ ミニバスから小中高、大学まで地元密着！ ・トップチームの選手として相応しい人間力の発揮！！ 【その他】 クラブ役員一覧、Wリーグ復帰に係るWJBL方針、再建計画(クラブマネジメント、チームマネジメント)、財政指標の公表あり。

出所)

- ・JX-ENEOSサンフラワーズ公式サイト サンフラワーズについて <http://www.jx-group.jp/sunflowers/aboutph>
- ・富士通レッドウェーブ公式サイト チーム概要 <http://sports.jp/fuetsucom/redwave/profile/>
- ・シャンソン化粧品シャンソンVマジック チーム概要 <http://vmagic.chanson.co.jp/team/index.html>
- ・トヨタ自動車アンテロープス公式サイト チーム <http://sports.gazoo.com/antelopes/team/>
- ・三菱電機コアラーズ公式サイト チーム チームの由来 <http://www.mitsubishielectric.co.jp/basket/koalas/contents/team/index.html>
- ・トヨタ紡織サンシャインラビッツ公式サイト チーム紹介 <http://www.aisin-aw.co.jp/sports/wings/team/index.html>
- ズについて <http://vickies.jp/about/>
- ・日立ハイテククーガーズ公式サイト チームの歩み <http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/ad/sponsor/cougars/history.html>
- ・新潟アルビレックスBBラビッツ公式サイト
- ・山梨クイーンビーズ公式サイト チーム紹介 代表挨拶 <http://www.yamanashi-queenbees.com/team/greeting/>
- ・山梨クイーンビーズ公式サイト チーム紹介 監督挨拶 <http://www.yamanashi-queenbees.com/team/general-manager/>
- ・山梨クイーンビーズ公式サイト チーム紹介 役員一覧 <http://www.yamanashi-queenbees.com/team/officer/>
- ・山梨クイーンビーズ公式サイト チーム紹介 WJリーグ復帰に係るWJBL方針 <http://www.yamanashi-queenbees.com/team/wjbl-policy-of-the-return-w-league/>
- ・山梨クイーンビーズ公式サイト チーム紹介 再建計画 <http://www.yamanashi-queenbees.com/team/reconstruction/>
- ・山梨クイーンビーズ公式サイト チーム紹介 財政指標 <http://www.yamanashi-queenbees.com/team/zaisaisyou/>



添付資料 5 :

山梨クィーンビーズの「スポーツパーソンシップ的責任」、  
「チーム統治的責任」に関するデータの抽出内容の詳細

WJBL 所属チームである山梨クィーンビーズは、スポーツパーソンシップ的責任、チーム統制的責任に関する記載が多かったため、以下にデータの詳細を示す。

### 山梨クィーンビーズ <再建計画>

「山梨クィーンビーズバスケットボールクラブ再建計画」

一般社団法人山梨クィーンビーズバスケットボールクラブは、2014年シーズンのWリーグ参戦見送りにより、今後、財務内容の悪化・チーム戦力の低下が予想され、このままでは早期再建は極めて困難となり、クラブの存続自体も危うくなる。  
この危機的状況を脱し、クィーンビーズの再生を図るためには、新たな視点から、クラブ、チームマネージメントの再構築を行う必要がある。  
本再建計画は、こうした考えに立ち、真のクラブチーム確立を図るものであり、今後、当クラブと県・市町村・県バスケットボール協会・支援組織等が一体となった取り組みを進め、2015年WJBL復帰を目指す。

#### 【クラブ マネージメント】

##### 1. クラブ運営方針・組織見直しの徹底

- ① 行政・スポンサー・ファン三者一体の地域に根差したクラブ運営を基本スタイルとする。  
ア、県、ホームタウン市町等に当社団法人への入会(正会員)を要請し、クラブ運営への参加促進  
イ、クラブ・チーム情報の積極的な提供、ホームページの改善など、広報活動の強化
- ② 代表理事、GMを常勤とし、代表理事を中心としたクラブ運営、営業活動、広報活動を強化する。
- ③ クラブ組織の見直し(ホームタウン委員会等)及び支援組織(後援会等)との連携を見直し、各組織間が円滑に機能することにより、目指す方向性(ベクトル)を共有できる体制を構築する。

##### 2. 財務体質の改善と規模に見合った経営の推進

- ① 人件費・諸経費の見直しによる徹底的なコストカットを実行する。  
ア、事務経費の見直し、事務所移転検討。チーム運営経費(人件費など)の削減
- ② 特定企業に頼らない体質への変革を図り、行政への財政的支援を要請をする。
- ③ 幅広い企業の支援を受けるため、スポンサーとしてのメリットが享受できる仕組みを構築する。
- ④ 後援会をはじめ、県バスケットボール協会(ミニバス連盟等)、協賛企業等への協力要請を行い、後援会会員の拡大を図る。
- ⑤ OGをはじめ、県バスケットボール協会登録者やボランティア人材の活用と仕組みづくりを推進する(インターンシップ制度導入推進、ホームタウンゲームの運営等)。

##### 3. 選手受入れ先の確保と補強推進

- ① 行政の人的支援(選手受入れ)を要請するとともに、現受入れ先の継続と新規受入れ先の開拓を行う。
- ② WJBLとボランティア人材の協力による戦力(移籍・引退選手)の受入れ体制の整備、充実を図る。

#### 【チーム マネージメント】

##### 1. 監督を中心とした日本トップリーグWJBLに値するチームづくりと強化策

- ① 社会人クラブチームの選手として人間教育とチーム強化の徹底を図る。  
ア、代表理事、GMによる受け入れ先企業等への訪問など、情報交換、協力関係の強化  
イ、スポーツ指導者等による研修の実施など、トップリーグ選手としての人間教育と勝利への拘りを日々教育徹底  
ウ、選手の自主性、意欲を高めるため、明るいチームづくりの推進
- ② 選手確保と指導強化方針共有化  
ア、行政、クラブ、WJBL、県バスケットボール協会等の総力を結集した人材の確保  
イ、地元大学(山梨学院大など)高校(富士学苑高など)の連携強化による人材の確保  
ウ、現場とフロントの意思疎通を図り、監督、GM、理事による指導強化方針の共有化

##### 2. 2014年シーズンにおける明確な目標設定

- ① 主目標をWJBL復帰とし、2014年4月からの年間目標を次のとおり設定する。  
ア、5/17(土)～7/26(土)関東1部リーグ戦(10戦全勝)、10月以降関東実業団選手権、国民体育大会、全日本実業団選手権、全日本社会人選手権、オールジャパンなど  
イ、8/29(金)～9/1(月)WJBLサマーキャンプ参戦(チーム力、財務力査定)(2015年秋WJBL復帰)

##### 3. クリニック活動推進による地域密着度アップ、ファン拡大策

- ① OG、ボランティアを含めクリニック開催の頻度を倍増することでファン拡大を図るとともに、次世代を担う選手育成に貢献する。  
ア、ミニバス、中・高の基本、強化など、各オフェンス、ディフェンス編を準備  
イ、OG、ボランティア等を含めたクリニックチームの編成
- ② 各種イベントや地域活動(交通安全運動、共同募金活動、体育祭り等)へ積極的参加など、地域貢献活動を拡充する。

出所) 山梨クィーンビーズ公式サイト チーム紹介 再建計画 <http://www.yamanashi-queenbees.com/team/reconstruction/>

添付資料 6 :

WJBL 所属 12 チームの「地域貢献的責任」に関するデータの抽出内容の詳細

地域貢献的責任を構成する項目である「バスケットクリニック」「慈善活動」に関する各チームのデータを以下に示す。

チーム名	バスケットクリニック	慈善活動
JX-ENEOSサンフラワーズ	○	×
富士通レッドウェーブ	○	○
シャンソン化粧品シャンソンVマジック	○	○
デンソーアイリス	○	○
トヨタ自動車アンテロープス	×	△
トヨタ紡織サンシャインラビッツ	○	×
三菱電機コアラーズ	○	×
アイシン・エイ・ダブリュウイングス	○	○
羽田ヴィッキーズ	○	○
日立ハイテククーガーズ	○	○
新潟アルビレックスBBラビッツ	○	○
山梨クィーンビーズ	○	○





「バスケットクリニック」、「慈善活動」などの活動内容③

チーム名	クリニック目的	クリニックの内容や活動報告	慈善活動	備考
トヨタ紡織 サンシャインラビッツ	<p>(2016年の活動報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中津川市加子母中学校の生徒を対象にクリニック(5、6限の体育の授業を利 用)を開催。総員も一緒に観る。</li> <li>・中津川市加子母中学校にて中津川市内中学生を対象にクリニックを開催。</li> <li>・ウイングアリーナ刈谷にて刈谷市内の小中学生を対象としたクリニックを開催。</li> <li>・刈谷フェスティバルの中のイベントとして開催したため、同じ刈谷市を拠点としてい るアンソニーアレイシスの選手と一緒に開催。</li> <li>・愛知県体育館サブアリーナにて、愛知県バスケットボールフェスティバルのイベン トでWJBL愛知県県内の5チームが集まり、愛知県内のクリニック希望者を対象に開 催。</li> <li>・トヨタ紡織刈谷本社内の体育館にて豊田クラブ(豊田高等特別支援学校のOG)を 対象にクリニックを開催</li> <li>・三菱電機の体育館で愛知県内の中学生を対象にクリニックを開催(WJBLの愛知 県5チームと共催)。</li> </ul>	<p>(2016年の活動報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モリコロパーク体育館にて、バスケットボール教室に参加(一部選手・三菱電機男 子バスケット部の一部選手と共に)</li> <li>・旭永スポートセンターにて「でらスポ☆アリーナ」に参加(一部選手・三菱電機男 子バスケット部の一部選手と共に)</li> <li>・名古屋市長区役所主催のクリニックに参加(毎年恒例)(一部選手)</li> <li>・中津川で小中学生を対象にクリニックを実施(参加選手不明)</li> <li>・株式会社ドーム主催のクリニックに参加(一部選手)</li> <li>・愛知バスケットボールフェスティバル(主催:愛知バスケットボール協会)に参加→ サイン会などのファンサービス(参加選手不明)</li> <li>・名古屋教育委員会主催の「わいわいクリニック」に参加</li> </ul>	<p>(2016年の活動報告)</p> <p>「バスケットボールクリニック1」のメニュータ プあり。</p>	
三菱電機コアラーズ	<p>(2016年の活動報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高浜市立高浜中学校の体育館にて、市内の女子中学生約30名を対象にクリニッ クを実施(一部選手)。ウォーミングアップから始まり、最後には集合写真の撮影や サイン会など実施。</li> <li>・愛知特別支援学校の体育館にて、生徒21名を対象にクリニックを実施(一部選 手)。集合写真の撮影やサイン会を実施。</li> <li>・愛知県体育館で行われた、2016愛知バスケットボールフェスティバル(主催:愛知 県バスケットボール協会)にウイングス、アレイオンズの選手が参加。(一部選手)。 当日は、バスケットの基礎技術の指導や、3on3、サイン会など実施。</li> <li>・愛知県北部公民館のカキタホールにて、愛知市内の小中学生約30名を対象にクリ ニックを実施。</li> <li>・WJBL主催のクリニックを三菱電機の体育館で実施。愛知県内のWJBLのチーム (アンソニー、トヨタ紡織、三菱電機)が集まり、県内の女子中学生約 100名対象。チームからは一部選手が参加。4種目(バス、ドリブル、シュート、ハン ドリング)を各チームが担当して指導。</li> <li>・愛知県内の女子中学生45名を対象に、クリニックを実施。</li> <li>・「男女バスケットボール部 2016ふれあいはしあいバスケット withウイングス、アレイオンズ」 の準座。ウイングスとアレイオンズの公開練習、公開練習試合を実施。社員や地協 の方など、のべ190名ほど参加。公開練習試合の後は、選手とのふれあいはしあ いバスケット。簡単なボールゲームやサイン会などを実施。</li> </ul>	<p>(2016年の活動報告)</p> <p>「バスケットボールクリニック1」のメニュータ プあり。</p>	<p>(2016年の活動報告)</p> <p>活動報告は全て写真付きで掲載。</p>	
アイシン・エイ・ダブリュ ウイングス	<p>(2016年の活動報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安城市至徳校の女子中学生約90名を対象にクリニック、サイン会を実施。安城市 サポーター事業の一環で、安城市スポーツ振興も協力。(簡単なメニュー紹介あり、参加 選手は不明)</li> <li>・高浜市立高浜中学校の体育館にて、市内の女子中学生約30名を対象にクリニッ クを実施(一部選手)。ウォーミングアップから始まり、最後には集合写真の撮影や サイン会など実施。</li> <li>・愛知特別支援学校の体育館にて、生徒21名を対象にクリニックを実施(一部選 手)。集合写真の撮影やサイン会を実施。</li> <li>・愛知県体育館で行われた、2016愛知バスケットボールフェスティバル(主催:愛知 県バスケットボール協会)にウイングス、アレイオンズの選手が参加。(一部選手)。 当日は、バスケットの基礎技術の指導や、3on3、サイン会など実施。</li> <li>・愛知県北部公民館のカキタホールにて、愛知市内の小中学生約30名を対象にクリ ニックを実施。</li> <li>・WJBL主催のクリニックを三菱電機の体育館で実施。愛知県内のWJBLのチーム (アンソニー、トヨタ紡織、三菱電機)が集まり、県内の女子中学生約 100名対象。チームからは一部選手が参加。4種目(バス、ドリブル、シュート、ハン ドリング)を各チームが担当して指導。</li> <li>・愛知県内の女子中学生45名を対象に、クリニックを実施。</li> <li>・「男女バスケットボール部 2016ふれあいはしあいバスケット withウイングス、アレイオンズ」 の準座。ウイングスとアレイオンズの公開練習、公開練習試合を実施。社員や地協 の方など、のべ190名ほど参加。公開練習試合の後は、選手とのふれあいはしあ いバスケット。簡単なボールゲームやサイン会などを実施。</li> </ul>	<p>(2016年の活動報告)</p> <p>活動報告は全て写真付きで掲載。</p>	<p>(2016年の活動報告)</p> <p>活動報告は全て写真付きで掲載。</p>	



「バスケットクリニック」、慈善活動」などの活動内容⑤

チーム名	クリニック目的	クリニックの内容や活動報告	慈善活動	備考
新潟アルビレックスBBラビッツ	<p>【BBラビッツふれあいバスケットボール部16-17】 新潟アルビレックスBBラビッツの掲げる4つの会社理念(1)地域貢献、(2)バスケットボールの普及と発展、(3)新しいスポーツ文化の創造、(4)国内トップレベル、日本代表選手の育成に切り開いたバスケットボールの魅力を、手塚に、底層層で、スタッフや新入社員を通じて多くの子ども達へ伝えたい。スポーツやバスケットボールの楽しさを伝えていこうと、この出張イベントのきっかけとして地域で夢や希望を与えることを目的としている。</p> <p>【新潟アルビレックスバスケットボールスクール】 「集え未来のバスケット子」～新潟アルビレックスバスケットボールスクールの三大柱～ ①バスケットボールと楽しい、美しい、バスケットボールを好きになること。 ②健全な心と身体、バスケットボールといふスポーツを通じ、身体はもちろん、集団生活への適応力やチームワークを身に付けていく。 ③バスケットボール、総合的な運動神経の発育を促す独自のプログラムにより、世界のバスケットボールプレイヤーを目指す。</p>	<p>【スポーツ振興(助成事業)BBラビッツふれあいバスケットボール部(6-17)】 対象:新潟県内の団体(10名以上グループ単位)。年齢層:性別:カテゴリー:バスケット:習得レベル:不問。 費用:参加者1名あたり500円。 【新潟アルビレックスバスケットボールスクール】 新潟アルビレックスBB選手による指導指導会費、19校にて定期的に開催。 クラス:クラス、キッズ、ジュニア、ジュニア、中学生クラス、ミニハイパークラス、ハイパークラス 入会金:5200円 月額:5200円 スポーツ衣類:800円/年 スクール用品等:スクールウェア7560円～(スクールウェア(上)のみ必須購入) スキルアップテキスト代:2800円 検定料(1回分):1620円 家族割引制度:1世帯で2名以上(兄弟等)で入会、2人目の月謝が4100円になる。 複数校入会:複数校受講の場合、2校目より月謝が2600円になる(入会金は1校分のみ)。 特典:新潟アルビレックスBB試合観戦招待</p>	<p>(2016年度の活動) ・地元職人などによるコラボレーショングッズ販売(燕子の唐き職人特牲くい飲み、5周年記念プレート) ・「ラビッツ×エリエー」による選手との交流 ・社内外の共同企画による選手との交流 ・熊本地産産物基金活動の実施 ・公式自販機の設置(赤り上げの一部が選手強化と東日本大震災の義援金に回る)</p>	<p>●スポンサーがカテゴリー「キャリアサポート」:クラブ選手のキャリアを支援するパートナー企業、クラブ選手の意向を企業として選手がキャリアアップおよび社会人としての資質を高めてもらう、選手を軸にクラブとの連携を固め様々なマーケティング活動が可能。</p>
山梨クワーンビーズ	<p>表立った宣伝はないもののプログラムの中で「今回は、県法人連合会の主催で行われましたが、山梨OBでは、こうしたバスケット部(クリニック)を積極的に進めていますので、それぞれの地域や団体、グループ等でクリニックの企画がありましたら、山梨OB事務局にお申し出下さい。」と呼びかけている。</p>	<p>(2016年の主な活動) ・甲府市立南西中学校体育館にて甲府市主催の『ジュニアバスケットボール教室』を4日間2回行われ開催。(参加選手不明) ・富士吉田市立下吉田第二小学校の体育館で富士吉田市教育委員会主催により、小学生対象のクリニックを開催(一部選手/監督) ・選手対象の系列の高松で女子バスケット部の指導(一部選手/代表) ・北北市須玉総合体育館にて北北市内のミニバスチーム対象のクリニックを開催(一部選手) ・甲府市総合体育館での山梨県法人連合会主催「第1回招待教室、ミニバスケットボール教室」に参加(全選手/スタッフ) ・県内高校生を対象とした株式会社じょうほく物流主催のクリニックを甲府西面高校体育館で開催</p>	<p>(2016年の主な活動) ・身延久遠寺の節分会にゲストとして参加(一部選手、マネージャー) ・甲府税務署主催「普及申告書作成体験イベント」への参加(一部選手) ・甲斐市消防団主催「第2回甲斐市消防団アセスメント」への参加(一部選手、チームマスコット) ・「甲斐市消防団フェスタ」で太鼓の演奏を披露した「川口学園電王幼稚園」より応援メッセージの公開(写真付き) ・ユニフォームスポンサー(JA梨北)より、今後の活動への激励と地元山梨の高松ブランド米「コンシカリ(梨北 新玄米)120kgを管理栄養士が作る料理後の食費用としてプレゼントされる。 ・プライベートで協賛企業(選手へのペーパーカットを無料で行う山梨市の真澄室)を利用する一部選手に同行取材。 ・「山中湖ローレル」の参加(選手会/監督) ・ヴァンフォー甲府の試合会場にて山梨学院大学長倉せきとミズエタマキ(全選手)チームのコラボレーションの実施。ヒツデでのチーム紹介。(全選手) ・地域のミニバス、中学バスケットボール大会の開催(全選手) ・「富士まじみず杯バスケットボール大会」の開催(全選手) ・協賛企業の「サマーフェスティバル」に参加(一部選手) ・山梨学院大学長倉せきからの「グッズ提案プレゼン」に参加。(代表:GM・GM補佐)提案されたグッズの実現に向けて監督が計画を進めていく。 ・「山梨県県民防衛隊」に参加(全選手/スタッフ) ・「秋の交通安全週間」初日に甲府警察署で1日署長を務める(一部選手) ・第25回日本醫師バスケットボール大会(2016)山梨大会の懇親会に参加(全選手)</p>	<p>活動報告はニュース一覧に掲載。</p>
山梨クワーンビーズ	<p>山梨クワーンビーズ公式ウェブサイト http://www.yamanashi-queenbees.com/2016/07/12/9073/</p>	<p>山梨クワーンビーズ公式ウェブサイト http://www.yamanashi-queenbees.com/2016/07/12/9073/</p>	<p>山梨クワーンビーズ公式ウェブサイト http://www.yamanashi-queenbees.com/2016/07/12/9073/</p>	<p>山梨クワーンビーズ公式ウェブサイト http://www.yamanashi-queenbees.com/2016/07/12/9073/</p>